AVデジタルサラウンド・アンプ

VSX-D812
VSX-D912

お客様登録のご案内

http://www3.pioneer.co.jp/members/

お買い上げいただきました製品についての**「お客様登録」**をお願いいたします。
ご登録いただきますと、プレゼントや懸賞商品が当たるキャンペーン/イベント情報や各種製品情報などのご案内をさせていただきます。
また、ご登録いただきますとIDが発行され、お役に立つ情報満載のお客様専用ページにアクセスすることができます。
ご登録は上記URLにアクセスしてご利用ください。

新規登録されたお客様には、毎月プレゼントを抽選にて差し上げております。詳しくは、上記URLにアクセスしてください。

取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。

この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に、本書および別冊の「安全上のご注意」は必ずお読みください。

なお、「取扱説明書」および「安全上のご注意」は「保証書」、「ご相談窓口·修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

安全上のご注意 付属の「安全上のご注意」もお読みください

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⃠記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

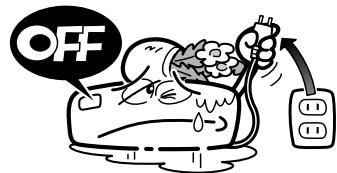
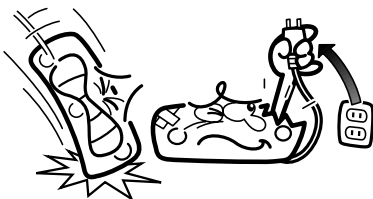
⚠警告

〔異常時の処置〕

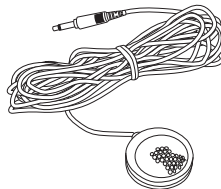
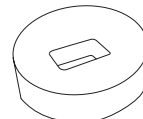
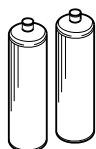
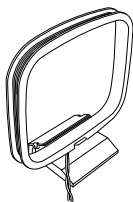
プラグを抜け

● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

プラグを抜け

● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

付属品を確認する

リモコン

FMアンテナ

オートセットアップ用
マイク（VSX-D912のみ）

マイクスタンド
（VSX-D912のみ）

単3形乾電池（2本）
（IEC R6P）

AMループアンテナ

- 取扱説明書（本書）
- 安全上のご注意

- 保証書
- ご相談窓口・修理窓口のご案内

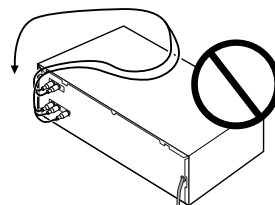
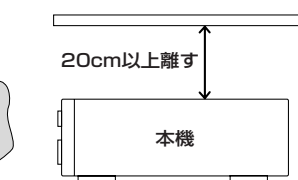
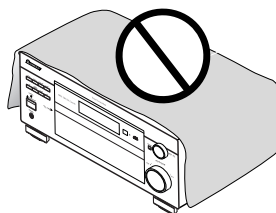
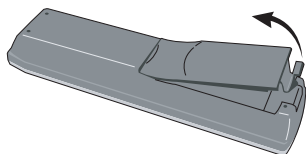
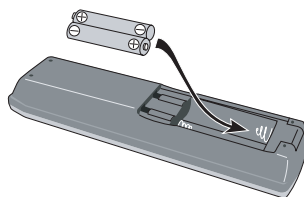
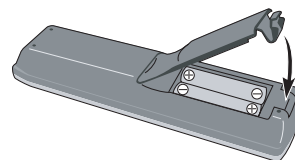
設置について

- 放熱のため本機の上に物を置いたり、布やシートなどを被せた状態でのご使用は絶対にお止めください。異常発熱により故障の原因となる場合があります。
- ラック等に設置する場合は、上部に20cm以上空間をあけてください。
- 本機の上に接続コードを曲げて放置すると、電源トランスから磁界の影響により、スピーカーからハムノイズが出る場合がありますのでご注意ください。

リモコンに電池を入れる

1

2

3

電池を誤って使用すると、液漏れしたり破裂する危険性があります。以下の点について特にご注意ください

- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池のプラスとマイナスの向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 乾電池には同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間（1 ヵ月以上）リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐため、乾電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭きとってから新しい乾電池を入れてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

- 電池を交換する際は、なるべく5 分以内に交換することをおすすめします。5 分以内に交換しないと、リモコンの設定が解除される可能性があります。リモコンの設定が解除されてしまった場合は、「他機器を操作するためのリモコン設定」をご覧になり、再度リモコンの設定を行ってください（74〜77ページ）。
- リモコンの操作範囲が極端に狭くなってきたら、電池を交換してください。

目　次

「ホームシアター入門」は7～18ページになります。

準備

ホームシアター入門

各部の名称とはたらき

接　続

基本操作

いろいろな使い方

目　次

細やかな設定

ラジオ放送を聞く

リモコンによる他機器の操作

その他

本機の特長　～こんなことができます～

ホームシアターの実現

ドルビーデジタル、DTSデコーダー搭載 (80ページ)

ドルビーデジタル音声やDTS音声で収録された映画や音楽ソフトを臨場感豊かに再生し、映画館やコンサートホールの迫力をご家庭で手軽にお楽しみいただけます。

MPEG-2 AACデコーダー搭載 (81ページ)

BSデジタル放送のサラウンド音声を、マルチチャンネルサラウンドでお楽しみいただけます。

DTS 96/24デコーダー搭載 (81ページ)

DTS 96/24で収録されたハイクオリティー音声をお楽しみいただけます。

ドルビープロロジックII/DTS Neo:6回路搭載　(82ページ)

2チャンネルステレオ音声や、ドルビーサラウンド音声で収録されたソフトもドルビープロロジックII回路やDTS Neo:6回路を使ってマルチチャンネルサラウンドでお楽しみいただけます。

6ch イコールパワーアンプ搭載

ドルビーデジタルやDTSソースを高音質なマルチチャンネル再生でお楽しみいただけます。

アナログ7.1ch 入力端子搭載

5.1chや7.1chのアナログ出力を持ったDVDプレーヤーや外部機器と接続することができます。

バラエティ豊かなホームシアター

豊富なリスニングモード　(38～40ページ)

映画や音楽ソースを多彩な音場モードでサラウンド再生することができます。

ミッドナイトリスニングモード (44ページ)

夜中に映画などを小音量で聴いているときでも大音量で聴いているときの臨場感を味わうことができます。

ラウドネスモード (44ページ)

夜中に音楽などを小音量で聴いているときでも、大音量で聴いているときと同じ効果で味わうことができます。

「MCACC(Multi-channel Acoustic Calibration System)」搭載 (13、68ページ)

従来にはなかったさまざまなテストトーンを用いた調整モードを用意しました。それにより、制作現場で行われている試聴環境の特性に合わせてチャンネル間の空間情報の歪み等を補正し、正確な音場を実現します。VSX-D912についてはテストトーンを本機が自動解析し、サラウンドに関する調整を自動で高精度に行います。

簡単便利！！

QUICK SETUP機能搭載 (17ページ)

複雑な設定を対話式に簡単に設定できます。

マルチコントロールリモコン付属

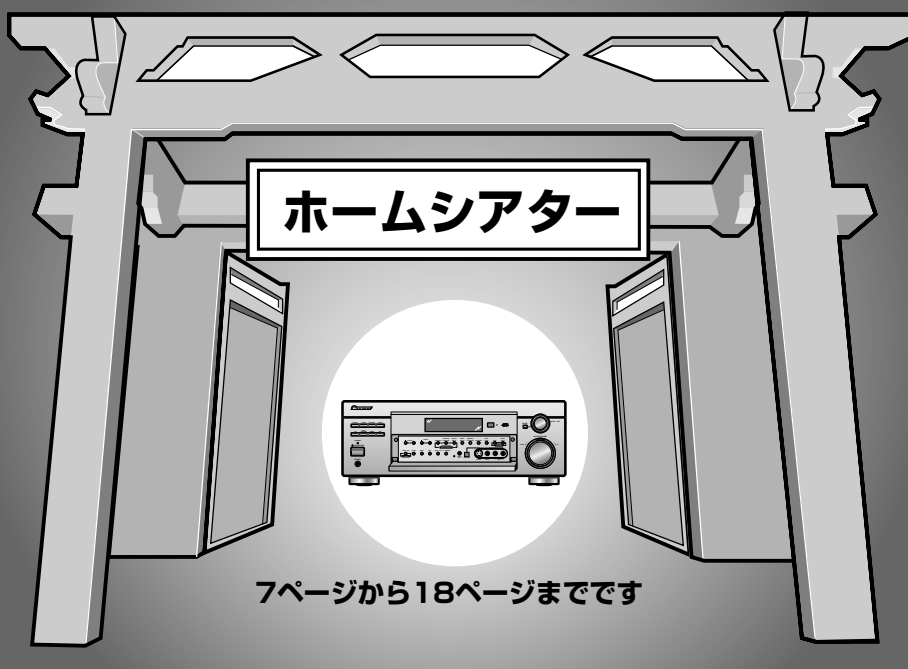
プリセット機能および学習機能を搭載したマルチコントロールリモコンで他社製品も操作できます。

豊富な接続端子

豊富な接続端子を備え、光デジタル端子や映像のS端子、コンポーネントビデオ端子にも対応しているため、テレビ周りの映像機器を一手に引き受けることができます。

環境に優しく

省エネルギー設計

本製品は、待機時(スタンバイ時)消費電力を0.5W以下に抑えた設計となっております。

ホームシアター入門

ホームシアター入門のメニュー

Step1 **<基礎知識編>**

ここではホームシアター関する基本の知識について説明します。
VSX-D812、VSX-D912に共通する説明です。

P.8 ～ P.9

Step2 **<デジタル サラウンドへの近道>**

ここでは接続から再生までについて説明します。
VSX-D812、VSX-D912に共通する説明です。

P.10 ～ P.12

Step3 **<オートセットアップで ワンランク上のサラウンドへ>**

P.13 ～ P.16 (VSX-D912のみ)

ここではオートセットアップによるサラウンドの設定について説明します。
VSX-D912のみの説明です。

<簡単設定(QUICK SETUP) で快適なサラウンドへ>

P.17 ～ P.18 (VSX-D812のみ推奨)

ここではQUICK SETUPによるサラウンドの設定について説明します。
VSX-D812のみ推奨の説明です。

ホームシアター入門 Step1 <基礎知識編>

ホームシアターを簡単に楽しむ前に、まず知っておきたいこと

DVDの標準音声フォーマットは、大きく分けて「**ドルビーデジタル**」と「**DTS**」の2つが現在主流とされています。

● ドルビーデジタルとは．．

DVDの標準音声フォーマットのことです。モノラルやステレオで記録されているソフトもあれば、現在最も主流とされているドルビーデジタル(5.1ch サラウンド)で記録されているソフトもあります。ドルビーデジタル(5.1ch サラウンド)で記録されているソフトとは、5つのチャンネルの個別にそれぞれのシーンに合った音声が記録されていて、サブウーファーから出力される低音も記録されているソフトのことを言います。このソフトを、本機を通して再生することで臨場感あふれるマルチチャンネル再生をお楽しみいただくことができます。

● DTSとは．．

DTSとは、デジタルシアターシステム(Digital Theater Systems)の略で、5.1chのデジタル・サラウンド録音再生方式です。DTSデジタル・サラウンドで記録されたDVDソフトも、ドルビーデジタル(5.1ch サラウンド)で記録されているソフトと同様に5.1chで音声を楽しむことができます。

● DVDソフトの音声記録方式を確かめるには．．

DVDソフトのパッケージを確認してください。（全てのソフトに以下と同じ表示がされているとは限りません。）

ドルビーデジタル5.1chで記録されているソフト

日本語/5.1ch サラウンド DOLBY DIGITAL

1.英　語（5.1ch サラウンド）
2.日本語（5.1ch サラウンド） DOLBY DIGITAL

→ 次ページ②をご覧ください。

ドルビーデジタル5.1chで記録されていないソフト

1.オリジナル(英語)/ ドルビーサラウンド
2.日 本 語 吹 替　/ ドルビーサラウンド

1.日本語（ドルビー・デジタル・ステレオ）
2.英語（ドルビー・デジタル・ステレオ）

→ 次ページ③をご覧ください。

英語音声のみドルビーデジタル5.1chで記録されているソフト

1.英語（5.1ch サラウンド）
2.日本語（2ch サラウンド） DOLBY DIGITAL

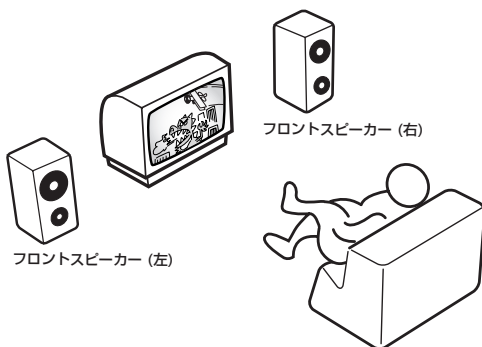
→ 1.のときは次ページ②を、2.のときは次ページ③をご覧ください。

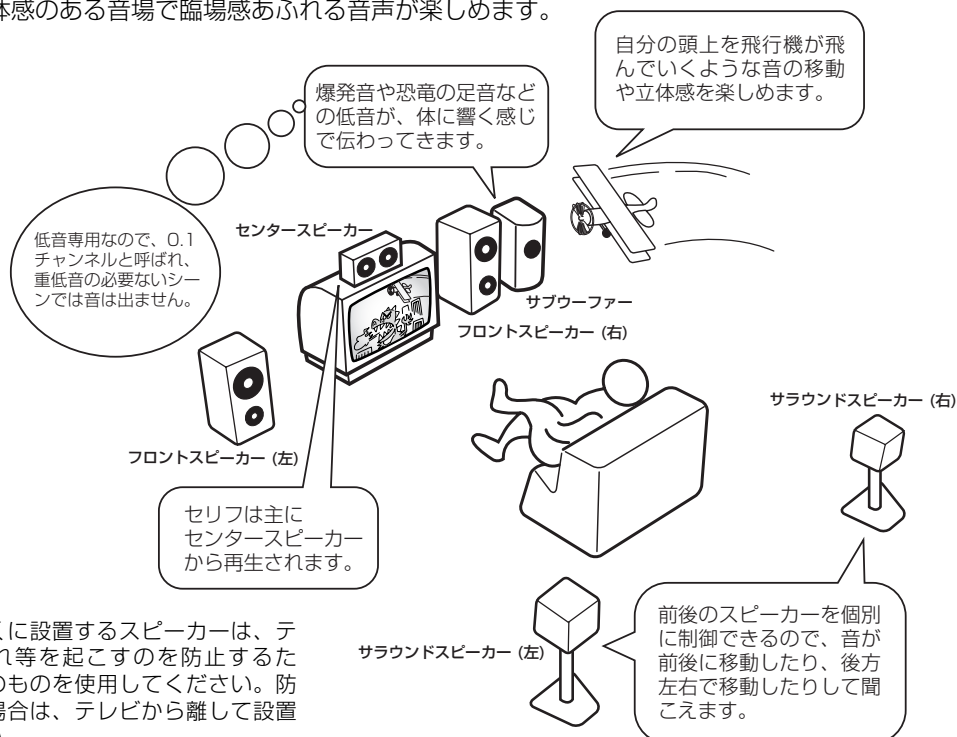
DTS サラウンドで記録されているソフト

日本語（DTS サラウンド） DIGITAL dts SURROUND

→ 次ページ②をご覧ください。

① ステレオ再生とは．．

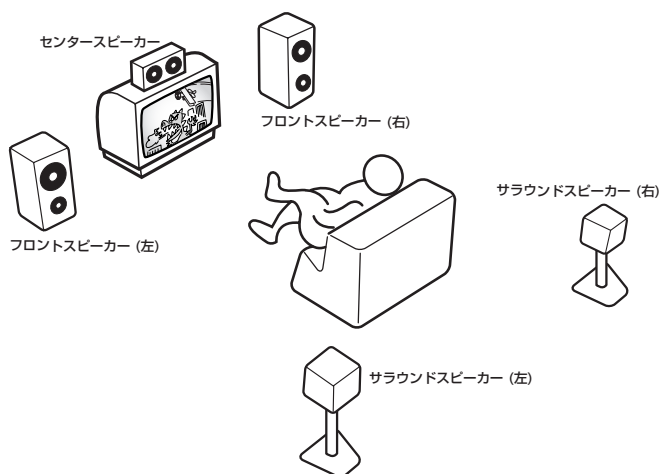
左右2つのスピーカーから別々の音が再生されます。通常の音楽用CDは、このステレオ2chで録音されていますので、本機のようにスピーカーが5本とサブウーファーが接続されているシステムでも、音はフロントスピーカーからしか再生されません。

② ドルビーデジタル5.1chまたはDTSサラウンド再生とは. .

ドルビーデジタル(5.1chサラウンド)またはDTSサラウンドで記録されているソフトを、全部で5本のスピーカーとサブウーファーから、それぞれ別々の音で再生することです。5.1ch独立で音声が記録されているため、立体感のある音場で臨場感あふれる音声が楽しめます。

- テレビの近くに設置するスピーカーは、テレビが色ずれ等を起こすのを防止するため、防磁型のものを使用してください。防磁型でない場合は、テレビから離して設置してください。

メモ
- サラウンドバックスピーカーを接続することでDTS-ES信号の入ったソースは6.1chで再生することができます。また、本機ではSB CH MODEをONにすることであらゆるソフトをマトリクスデコードの6.1chまたは7.1chで再生することができます(➡41～42ページ)。

③ ドルビープロロジック再生とは. .

DOLBY SURROUND

ソフトのパッケージに、ドルビーサラウンド(DOLBY SURROUND)とかドルビーステレオ(DOLBY STEREO)と表記されているソフトを、5本のスピーカーで再生することです。
ただし、ドルビーデジタル(5.1ch サラウンド)やDTS サラウンドで記録されたソフトとは違い、ドルビーサラウンドやドルビーステレオで記録されているソフトは2チャンネル信号です。この2チャンネル信号からセンター、サラウンド(右、左)の音を作り出します。

さぁ、実際に次ページの<デジタルサラウンドへの近道>で接続、設定してホームシアターを構築してみましょう！

ホームシアター入門 Step2 <デジタルサラウンドへの近道>

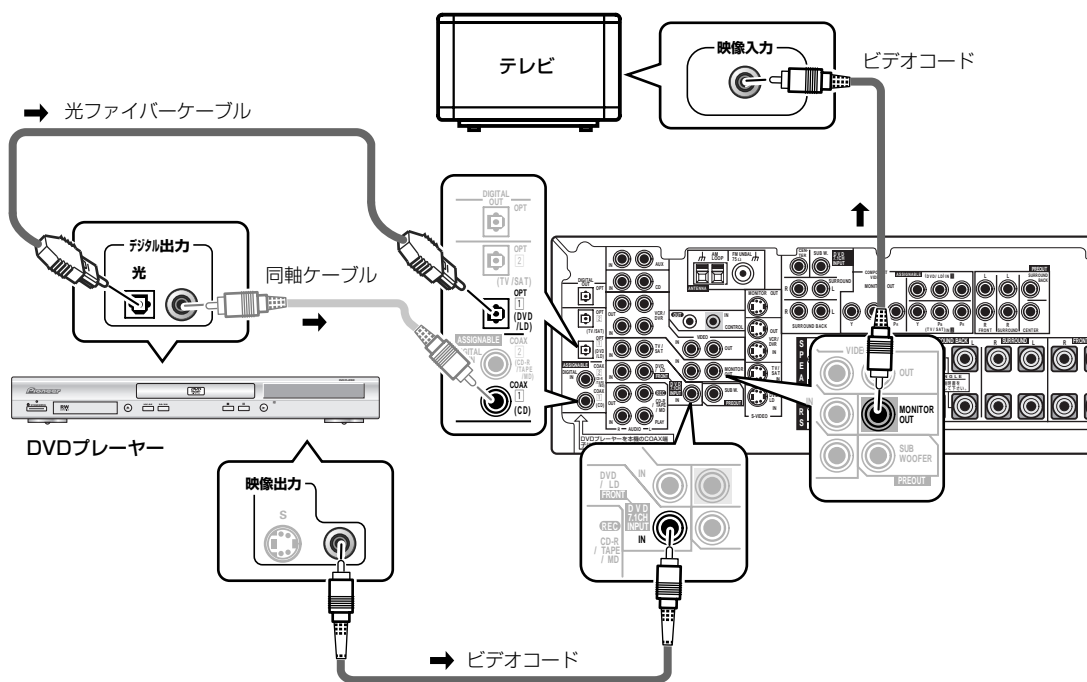
ここでは 1 から 6 までのステップで、ホームシアターを簡単に楽しむための手順を説明します。
よりよいサラウンドを楽しむためには最適なサラウンドの設定を行ってください。

DVDプレーヤーとの接続（機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。）

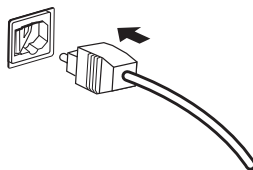
DVDソフトにはドルビーデジタルやDTS といったマルチチャンネル音声が収録されています。これらを再生するためには光ファイバーケーブルまたは同軸ケーブルでの接続が必要となります。

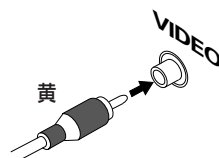
接続は光ファイバーケーブルで接続します。お手持ちのDVDプレーヤーに光デジタル出力端子がない場合は同軸ケーブルで接続し、「デジタル入力の設定」(66ページ)をご覧になり設定の変更を行ってください。接続はどちらか一方の接続のみを行ってくだい。**両方の接続を行う必要はありません。**

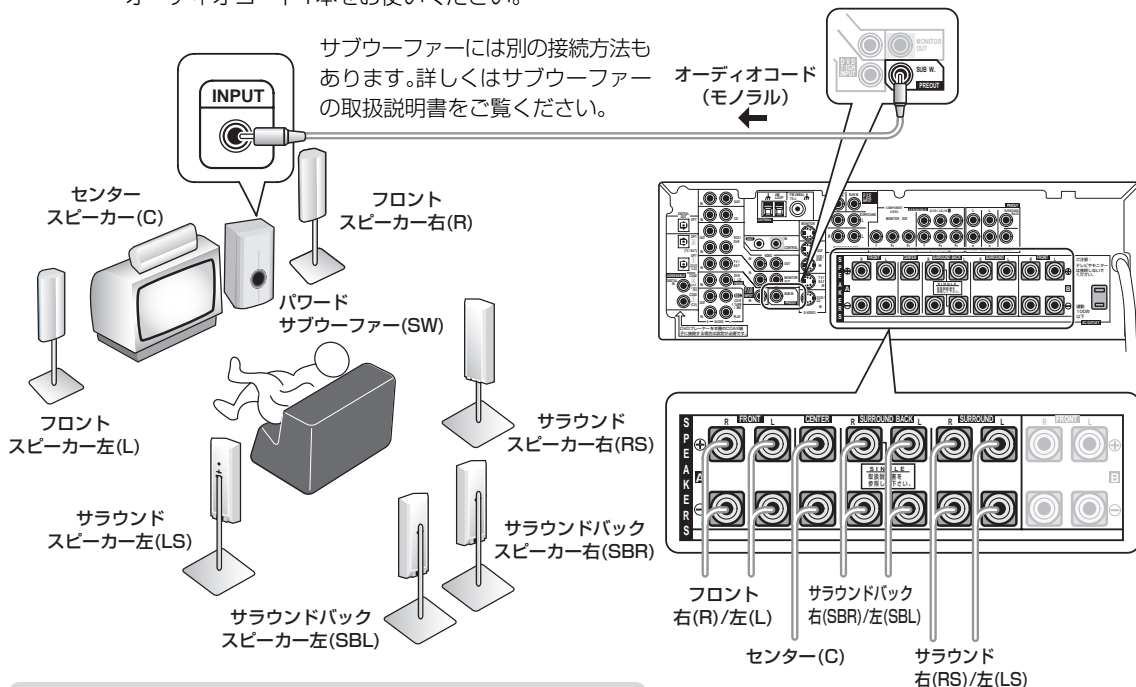
光デジタル端子で接続する

お手持ちのDVDプレーヤーを本機の光デジタル端子で接続する場合は下記の接続を行ってください。
接続の前に、別売のビデオコード2本、光ファイバーケーブル1本をご用意ください。

■ 光ファイバーケーブル

- 急な角度に折り曲げないでください。保管するときは、直径が15cm以上になるようにしてください。
- 接続の際は端子の向きを合わせてしっかり奥まで差し込んでください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉らなくなることがあります。

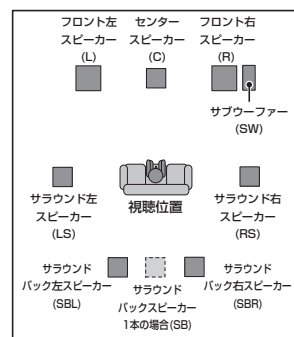
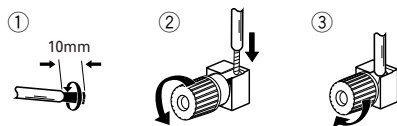
光ファイバーケーブル

■ビデオコード

一般的な映像用コードで、コンポジットフォーマットの映像信号を伝送します。

2 スピーカーとの接続（機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。）

スピーカー7本(フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サラウンドバックL/R)と、サブウーファーを接続してください。(本機で最適なサラウンドを楽しむには、スピーカー7 本とサブウーファーを接続することをおすすめします)接続にはスピーカーに付属のスピーカーコードか市販のスピーカーコードとオーディオコード1本をお使いください。

サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続するときは「スピーカーの接続」(➡28ページ)をご覧になり接続を行ってください。

上図のようにスピーカーを設置してください。

メモ

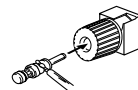
- 使用するスピーカーは公称インピーダンスが6Ω〜16Ωのものを使用してください。
- 本機はスピーカー7本とサブウーファーを接続することができますが、上記以外の接続(例えばセンタースピーカー無し等)の場合は、「スピーカーの設定」(➡56ページ)、「サラウンドバックスピーカーの設定」(➡57ページ)、「サブウーファーの設定」(➡58ページ)でスピーカーの有り/無しの設定が必要です。(「ホームシアター入門」step3にて「オートセットアップ」(➡13ページ)または「簡単設定」(➡17ページ)を行うと、「スピーカーの設定」も自動で設定されます)

■SPEAKER(スピーカー)端子

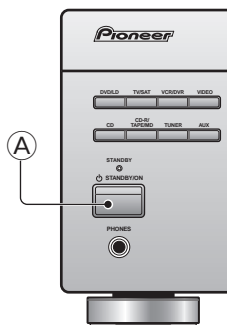
①

②

③

① 線をねじる。
② スピーカー端子をゆるめ、スピーカーコードを差し込む。
③ スピーカー端子を締めつける。

バナナプラグを接続することもできます(詳しくはプラグの説明書をお読みください。)

注意 スピーカーコードを接続するときは、芯線をしっかりねじって、スピーカー端子からはみ出していないことを確認してください。芯線がスピーカー端子からはみ出してリアパネルに接触したり、+/−が接触すると保護回路が働いて電源がスタンバイ状態になることがあります。

3 設定の準備

1 **本体の電源コードをつないで、電源を入れる。**

Ⓐの ⏻ STANDBY/ONボタンを押して電源をONにします。スタンバイインジケーターが消灯します。

2 **テレビの電源を入れ、テレビの入力切換を本機の出力映像が表示されるように設定する。**

例えば、本機のMONITOR OUT端子と接続しているテレビの入力が「ビデオ1」だったらテレビの入力を「ビデオ1」に切り換えます。

4 DVDのサラウンド再生

1 **DVDプレーヤーの電源をONにします(本機とテレビの電源がONであることも確認します)。**

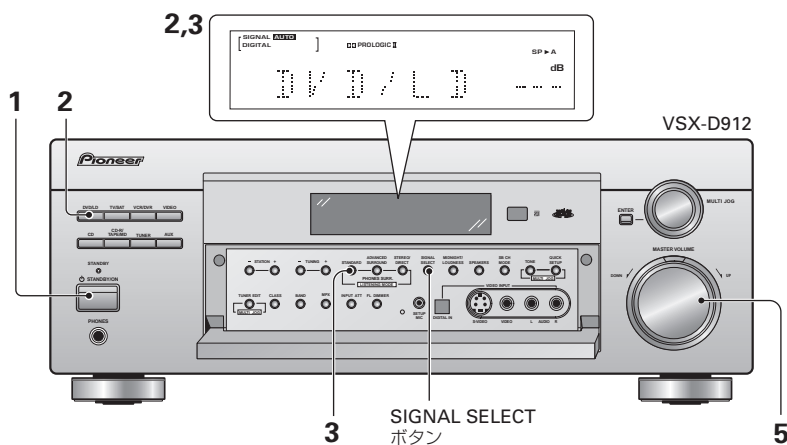
2 **DVD/LDボタンを押して、本機の表示をDVD/LDにします。（ディスプレイ表示を下図の状態にします）**

SIGNAL SELECT表示がDIGITAL(AUTO)になっていることを確認してください。表示がANALOGになっていたらSIGNAL SELECTボタンでDIGITAL(AUTO)に切り換えます。

3 **PRO LOGICIIインジケーターが点灯していることを確認します。**

点灯していないときはSTANDARDボタンを押してインジケーターを点灯させせます。

4 **DVDを再生します。**

5 **適当な音量になるまでMASTER VOLUMEをUP方向へ回します。**

6 **Step3へお進みください。VSX-D912の場合は13ページ「オートセットアップで設定する」を、VSX-D812の場合は17ページ「簡単設定（QUICK SETUP）」をご覧になりワンランク上のサラウンド再生をしましょう。**

オートセットアップ(MCACC)で設定する (VSX-D912のみ)

本機のオートセットアップでは従来のマニュアル調整では難しかったさまざまな設定を、付属のオートセットアップ用マイクを使い自動で高精度に測定、設定することができます。
測定中はスピーカーからテストトーンが出力され、その音を付属のオートセットアップ用マイクが拾い、解析します。測定項目と全体の流れは以下の通りです。

初期測定（測定設備のチェック）
① 暗騒音（部屋の騒音）の測定
② マイク感度の診断
③ 各chのスピーカー有り無し判定

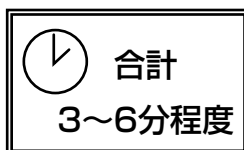
初期測定結果確認へ

スピーカーの有り無し判定結果のユーザー確認（または修正）

音場補正へ

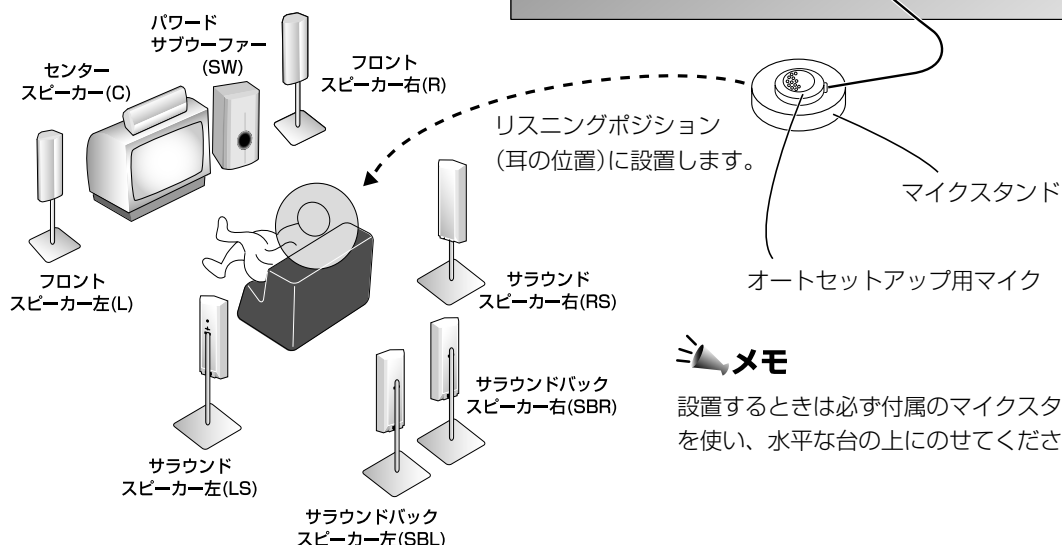
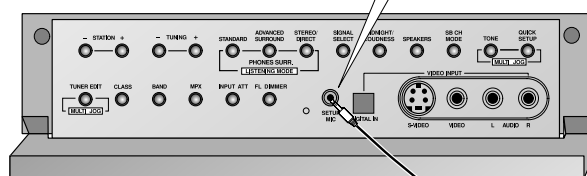
システム全体の解析測定
④ スピーカーシステム
（各スピーカーの低域再生能力判定）
⑤ スピーカーからの距離
（最適なディレイ値を解析）
⑥ スピーカーの出力レベル
（各chの出力バランスを補正）

オートセットアップの完了

テストトーンはやや大きな音なので、夜間の測定や小さなお子様はリスニングルームに立ち入らせないなどご配慮ください。

1 オートセットアップ用マイクを接続する

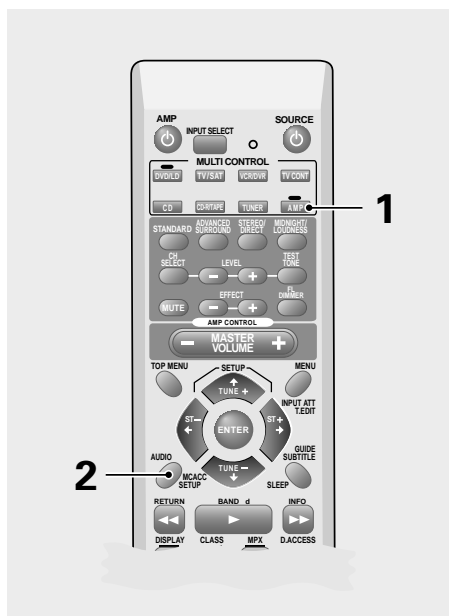
メモ

測定中はリスニングポジションから離れて、各スピーカーの外側からリモコンで操作を行ってください。

メモ

設置するときは必ず付属のマイクスタンドを使い、水平な台の上にのせてください。

オートセットアップ (MCACC)

本機ではサラウンドバック端子にサブウーファーを接続することができます(➡28ページ)。その場合「サラウンドバックスピーカーの設定」(➡ 57ページ)は「SB　SW」を選択しなければなりませんが、「SB SW」を選択したときはオートセットアップを行うことができません。「SB SW」を選択したときは「細やかな設定の設定内容」と「スピーカー出力レベル(各チャンネルの音量レベル)の調整」(➡51～67ページ)をご覧になり手動で設定を行ってください。

メモ
- 測定を途中で解除したときはオートセットアップ (MCACC)の測定結果は設定されません。
- 測定中は静かにしてください。測定中に騒音があると正確に測定できないことがあります。
- スピーカーとリスニングポジション(マイク)の間にある障害物を取り除いてください。
- サブウーファーを接続している場合は電源を入れてボリュームを適度に上げておいてください。
- 付属のオートセットアップ用マイクをTVモニターの近くに置いてオートセットアップを行わないでください。

1 AMPボタンを押してリモコンをアンプ操作モードにする。

2 MCACC SETUPボタンを押す。

ディスプレイに「AUTO」⇒「MCACC」と点滅表示しボリュームが上がりテストトーンが出力され、初期測定(測定設備チェック)になります。この自動測定は数十秒で終わりますので、手順3の画面になるまでしばらくお待ちください。

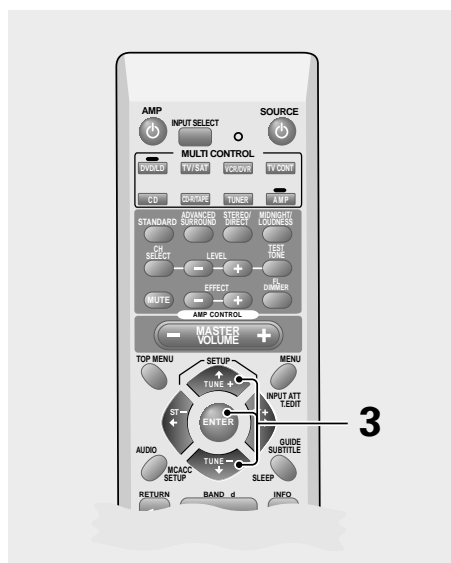
「ANALYZE」⇔「AMB.NOISE」
：暗騒音(部屋の騒音)を測定中です
「ANALYZE」⇔「MIC」
：マイクの感度を診断中です
「ANALYZE」⇔「SPEAKER」
：各スピーカーの有り無しを判定中です

メモ

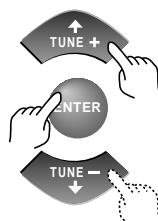
- オートセットアップが終了した時点で「システムセットアップ」(➡50ページ)と「スピーカー出力レベル(各チャンネルの音量レベル)の調整」(➡67ページ)での設定内容はリセットされますのでご注意ください。
- 手順2でMCACCボタンを押して初期測定に入った後、エラーメッセージがディスプレイに表示されることがあります。その場合は以下の操作を行ってください。

－「NOISY!」⇒「GO NEXT?」
MCACCボタンを押して設定を解除し、リスニングルームを静かにしてもう一度はじめから設定をやり直してください。
ENTERボタンを押してそのまま設定を続けることもできますが、その後にエラーメッセージがでることがあります。

－「ERR. MIC」
マイクの接続を間違えているか、しっかりと接続されていない可能性がありますので、マイクの接続を確認してください。

－「ERR～～」
F chと表示されたときはフロントスピーカーが、S chと表示されたときはサラウンドスピーカーが、SWと表示されたときはサブウーファーがしっかりと接続されていなかったり、F ch/S chと表示されたときはL/Rのどちらかが接続されていない可能性がありますので、何度やっても結果が同じようなときは一度電源を切り、スピーカーやサブウーファーの接続を確認してください。

3

ディスプレイに表示されたスピーカー有り無し判定結果が合っているときはENTERボタンを押します。

スピーカー有り無し判定の詳細については以下の表をご覧ください。
手順4へお進みください。

ディスプレイに表示されたスピーカー有り無し判定結果が間違っているときは⬇⬆ボタンで正しい設定に直した後ENTERボタンを押します。

スピーカー有り無し判定の詳細については以下の表をご覧ください。
手順4へお進みください。

	フロントスピーカー	センタースピーカー	サラウンドスピーカー	サラウンドバックスピーカー	サブウーファー
2.0ch	○	–	–	–	–
2.1ch	○	–	–	–	○
3.0ch	○	○	–	–	–
3.1ch	○	○	–	–	○
4.0ch	○	–	○	–	–
4.1ch	○	–	○	–	○
5.0ch	○	○	○	–	–
5.1ch	○	○	○	–	○
6.0ch	○	○	○	1本	–
6.1ch	○	○	○	1本	○
7.0ch	○	○	○	2本	–
7.1ch	○	○	○	2本	○

–(無し)
○(有り)

メモ

- 手順3でエラーメッセージがディスプレイに表示されることがあります。その場合は以下の操作を行ってください。
  –「SW.VOL.UP」⇒「GO NEXT?」
  サブウーファーのボリュームを上げてからENTERボタンを押します。
  –「SW.VOL.DWN」⇒「GO NEXT?」
  サブウーファーのボリュームを下げてからENTERボタンを押します。
- 手順3では、7.0chまたは7.1chで接続していても6.0chまたは6.1chと測定されてしまいますので、必ず⬇⬆ボタンで正しい設定に直した後ENTERボタンを押して手順4へお進みください。

4

補正用測定が開始されます。

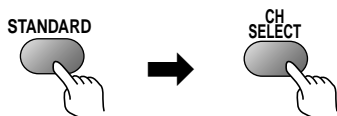
「ANALYZE」⇔「SP SIZE」
：各スピーカーの低域再生能力を判定中です
「ANALYZE」⇔「AMB.NOISE」
：暗騒音(部屋の騒音)を測定中です(SW接続時のみ)
「ANALYZE」⇔「DISTANCE」
：最適なディレイ値を解析中です
「ANALYZE」⇔「LEVEL」
：各chの出力バランスを補正中です
これらの自動設定には3～6分程度の時間がかかりますので、「COMPLETE」とディスプレイに表示されるまでしばらくお待ちください。

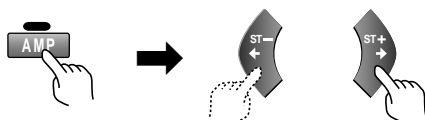
5

「COMPLETE」→「RESUME」と表示し自動測定を終了します。

ボリュームが下がり通常動作に戻ります。

測定結果の確認

スピーカーの出力レベルを確認する

・ CH SELECTボタンを押すたびに各チャンネルのレベルを確認することができます（➡67ページ）。

スピーカーからの距離を確認する

・ ⬅ ➡ボタンを押して各スピーカーまでの距離の設定の項目を選んで、確認することができます（➡59〜62ページ）。

メモ

- 同じスピーカーを接続していても、コーンサイズが約12cm程度のスピーカーでは部屋の環境に影響してスピーカーの大小判定が一致しないことがあります。その場合、設定を変更したいときはシステムセットアップの「スピーカーの設定」（➡56ページ）と「サラウンドバックスピーカーの設定」（➡57ページ）を行ってください。
- サブウーファーまでの距離の設定は、他のスピーカーに比べて部屋の環境の影響を受けやすい上にサブウーファー本体が持つ回路の影響で、距離がやや遠くなることがあります。しかし、ここで設定された距離は、それらの影響を含めた最適な測定結果ですので、距離を修正する必要はありません。

3 より快適にサラウンドを楽しむために

1 いろいろな音場効果を加えることができます

「いろいろな使い方」をご覧になってリスニングモードを選択したり（➡38〜40ページ）、便利な音声再生用機能をお好みで選択してみてください（➡44〜45ページ）。

2 マニュアルでより細やかな設定を行うこともできます

細やかな設定（システムセットアップ）をご覧になり（➡50ページ）、必要に応じて細やかな設定を行うこともできます。

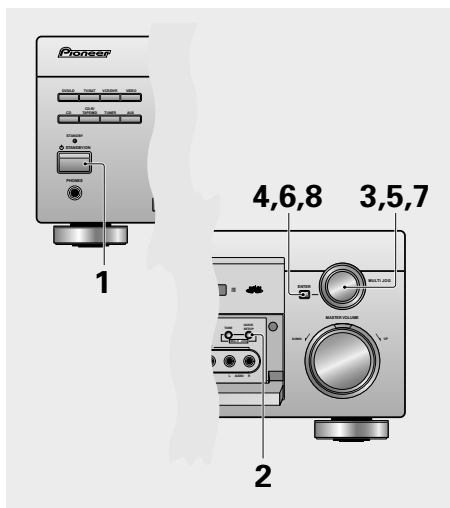
VSX-D912の場合、ホームシアター入門は以上で終了です。
以下の「簡単設定(QUICK SETUP)」を行う必要はありません。

1 簡単設定(QUICK SETUP)

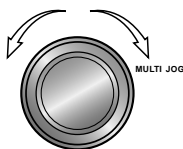
VSX-D912にて「オートセットアップ」を行った場合はここでの設定を行う必要はありません。VSX-D812の場合はここでの設定を行うことをおすすめします。

以下の手順の通りに設定を行うことで、快適なリスニング環境を簡単に設定することができます。簡単設定の中にあるルームサイズの設定ではS、M、Lの中からご自分の部屋に近いサイズを選び、リスニングポジションの設定ではFWD、MID、BACKの中からご自分のリスニングポジションに近い設定を選びます。それらを設定することでスピーカーから聴こえる音のタイミングや大きさのズレなどを補正し、適切なサラウンド効果が得られるようなります。

メモ

・簡単設定を行った時点で「システムセットアップ」(➡50ページ)と「スピーカー出力レベル(各チャンネルの音量レベル)の調整」(➡67ページ)での設定内容はリセットされますのでご注意ください。

1 本機の電源を入れる。

2 簡単設定モードにする。

ディスプレイに「SW DET」と点滅表示した後、サブウーファーが接続されているかどうかの自動検出を行います。サブウーファーを検出したときは「YES」と表示され、検出しなかったときは「NO」と表示されます。

3 接続しているスピーカーの本数を選ぶ。

MULTI JOG

マルチジョグを回すたび以下のように切り換わります。

サブウーファーの自動検出が「YES」の場合
2.1ch ↔ 3.1ch ↔ 4.1ch ↔ 5.1ch ↔ 6.1ch ↔ 7.1ch ↔ (2.1chへ戻る)

サブウーファーの自動検出が「NO」の場合
2.0ch ↔ 3.0ch ↔ 4.0ch ↔ 5.0ch ↔ 6.0ch ↔ 7.0ch ↔ (2.0chへ戻る)

それぞれの詳細は以下の通りです。

	フロントスピーカー	センタースピーカー	サラウンドスピーカー	サラウンドバックスピーカー	サブウーファー
2.0ch	○	−	−	−	−
2.1ch	○	−	−	−	○
3.0ch	○	○	−	−	−
3.1ch	○	○	−	−	○
4.0ch	○	−	○	−	−
4.1ch	○	−	○	−	○
5.0ch	○	○	○	−	−
5.1ch	○	○	○	−	○
6.0ch	○	○	○	1本	−
6.1ch	○	○	○	1本	○
7.0ch	○	○	○	2本	−
7.1ch	○	○	○	2本	○

−(無し)
○(有り)

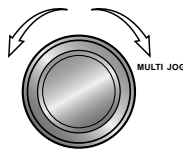
メモ

・ルームサイズとリスニングポジションの設定では、各スピーカーまでの距離（➡49〜51ページ）と各スピーカーの出力レベル（➡67ページ）を切り換えています。
　リスニングルームのサイズが、約3.5 m×4.5 mの場合は「S」を、約5.5 m×6 mの場合は「M」を、約7.5 m×9 mの場合は「L」を選択します。

4 ENTER

スピーカーの本数を決定する。

ルームサイズの選択になります。

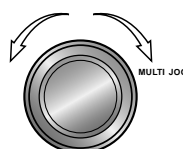
5

ルームサイズを選ぶ。

マルチジョグを回すたびS、M、Lが切り換わります。詳しくは左記のメモをご覧ください。

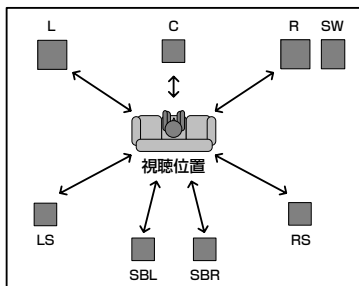
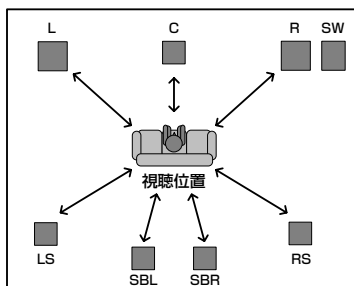
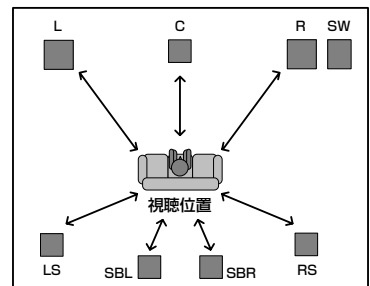
6 ENTER

ルームサイズを決定する。

リスニングポジションの選択になります。

7

リスニンングポジションを選ぶ。

マルチジョグを回すたびＦＷＤ、MID、BACKが切り換わります。

FWD（フロントスピーカーに近いとき）

MID（全てのスピーカーがほぼ等距離のとき）

BACK（サラウンドスピーカーに近いとき）

8

リスニングポジションを決定する。

ディスプレイに「CONFIRM YOUR SELECTION」と表示され、スピーカーの本数とルームサイズ、リスニングポジションの設定確認が表示されます。
設定確認の表示が終了後、簡単設定は自動的に終了します。

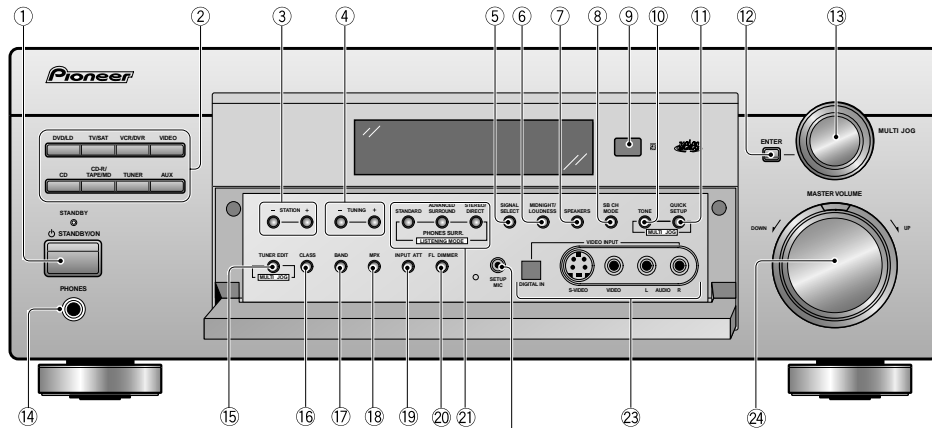
より快適にサラウンドを楽しむために

1 **いろいろな音場効果を加えることができます**

「いろいろな使い方」をご覧になってリスニングモードを選択したり（➡38〜40ページ）、便利な音声再生用機能をお好みで選択してみてください（➡44〜45ページ）。

2 **快適にお使い頂くために細やかな設定を行うこともできます**

細やかな設定（システムセットアップ）をご覧になり（➡50ページ）、必要に応じて細やかな設定を行ってください。また、MCACCセットアップ（音場補正）をご覧になり（➡68ページ）、より厳密なサラウンドの設定を行うこともできます。

フロントパネル

㉒ VSX-D912のみ

① ⏻STANDBY/ONボタン
本機の電源を入れたり、スタンバイモードにするときに押します。
STANDBYインジケーター
本機がスタンバイモードにあるとき点灯します。

② INPUT SELECTボタン
本機の入力を選択します。

③ STATION(＋/－)ボタン (P71〜73)
記憶した放送局を呼び出すときに押します。

④ TUNING(＋/－)ボタン (P70)
放送局を選択します。

⑤ SIGNAL SELECTボタン (P37)
デジタルとアナログの入力を切り換えます。

⑥ MIDNIGHT/LOUDNESSボタン (P44)
ミッドナイトリスニングモードやラウドネスモードのON/OFFを選択するときに押します。

⑦ SPEAKERSボタン (P29)
スピーカーシステムを選択するときに押します。

⑧ SB CH MODEボタン (P41)
サラウンドバックチャンネルのON/AUTO/OFFを選択します。またサラウンドバックスピーカーを無し(＊)で設定しているときは、バーチャルサラウンドバックモードのON/AUTO/OFFを選択します。

⑨ リモコン受光部
本機をリモコンで操作する場合は、ここにリモコンを向けます。

⑩ TONEボタン (P45)
トーンコントロールを調整するときに押します。押すたびにBASSとTREBLEが切り換わります。調整はTONEボタンを押した後にMULTI JOGとENTERボタンで行います。

⑪ QUICK SETUPボタン (P17)
QUICK SETUPを行うときに押します。設定はQUICK SETUPボタンを押した後にMULTI JOGとENTERボタンで行います。

⑫ ENTERボタン
設定項目などの決定を行います。

⑬ MULTI JOG
TONE、QUICK SETUP、TUNER EDITなどの設定に使用します。

⑭ PHONES(ヘッドホン)端子 (P49)
ヘッドホンを差し込む端子です。

⑮ TUNER EDITボタン (P71、72)
放送局を記憶するときや放送局に名前をつけるときに押します。

⑯ CLASSボタン (P72〜73)
放送局に名前をつけたり呼び出したりするときにA〜Cの分類を変更、選択するときに押します。

⑰ BANDボタン (P70)
AMとFMを切り換えるときに押します。

⑱ MPXボタン (P71)

⑲ INPUT ATTボタン
アナログ信号が入力されているとき、入力信号のレベルが高すぎて音が歪んでいるときに押すと聴きやすくなります。

⑳ FL DIMMERボタン (P48)
表示部の明るさを調整します。

㉑ リスニングモード選択ボタン (P38〜40)
リスニングモードを選択するときに押します。

㉒ SETUP MIC端子 (P13)
オートセットアップを行うときに付属のオートセットアップ用を差し込む端子です。SETUP MIC端子はVSX-D912にのみ装備です。

㉓ VIDEO INPUT
VIDEOファンクション用の入力端子です。デジタル入力端子(DIGITAL IN)はVSX-D912にのみ装備です。

㉔ MASTER VOLUME
本機の音量を調節するとき回します。

リモートコントロール

アンプコントロール部

本機を操作するときに使います。

AMP ⏻ ボタン
本機の電源をONまたはOFF（スタンバイ状態）にします。

AMP CONTROLボタン
STANDARD：マルチチャンネル信号はそのまま忠実にデコード再生し、2チャンネル信号はドルビープロ ロジックIIまたはNeo:6でデコードするのでサラウンド再生をしたいときに効果的です。
ADVANCED SURROUND：パイオニアオリジナルのサラウンドモードです。7つのモードから好みの音場を選択することができます。
STEREO/DIRECT：あらゆる入力信号をステレオ再生（左右2つのスピーカーのみでの再生）します。
MIDNIGHT/LOUDNESS：ミッドナイトリスニングモードやラウドネスモードをONにすると、音量を下げて映画などを楽しむ場合などでも、サラウンド効果が最適なレベルに自動調整されます。
CH SELECT：テストトーンを使わずに、手動でチャンネルを切り換えて各チャンネルのスピーカーレベルを調整するときに使います。
LEVEL＋/－：スピーカーレベル（CHレベル）の調整で、各チャンネルのスピーカーレベルを調整します。
TEST TONE：テストトーンを使って各チャンネルのスピーカーレベルを調整するときに使います。
MUTE：音量を一時的に最小にします。
EFFECT＋/－：ADVANCED SURROUNDモードのエフェクトレベルを調整します。
FL DIMMER：表示部の明るさを調整します。

INPUT SELECTボタン
本機の入力を切り換えます。

LEDランプ
リモコンから信号を発信しているときやリモコンの設定を行っているときに点灯します。

SOURCE ⏻ ボタン
他機器の電源をONまたはOFF（スタンバイ状態）にします。

MULTI CONTROLボタン
本機の入力を切り換えます。また他機器を操作するときのリモコンの操作モードを切り換えます。

AMPボタン
リモコンをアンプ操作モードにします。

MASTER VOLUMEボタン
本機の音量を調節するとき押します。

アンプ操作ボタン
INPUT ATT：アナログ信号が入力されているとき、入力信号のレベルが高すぎて音が歪んでいるときに押すと聴きやすくなります。
SLEEP：スリープタイマーを設定します。
MCACC SETUP：サラウンドの設定においてVSX-D912の場合はマイクを接続してオートセットアップを行うことができます。また、VSX-D812の場合やVSX-D912でマイクを接続しないときはテストトーンを聞きながら高精度な調整を行うことができます。

チューナーコントロール部

チューナーを操作するボタンです。本機のチューナーをこれらのボタンで操作するには、上記「アンプコントロール部」のMULTI CONTROLボタンで「TUNER」を押します。
DVDやCDなどの他機器の操作については「他機器の操作一覧表」（➡79ページ）をご覧ください。

BANDボタン（70ページ）
AM放送とFM放送を切り換えます。

CLASSボタン（72～73ページ）
放送局に名前をつけたり呼び出したりするときにA～Cの分類を変更、選択するときに押します。

DISPLAYボタン（72ページ）
入力がチューナーのときに周波数とメモリーさせた名前を切り換えます。

T.EDITボタン（71、72ページ）
放送局を記憶したり、放送局に名前をつけます。

MPXボタン（71ページ）
モノラル受信とステレオ受信を切り換えます。

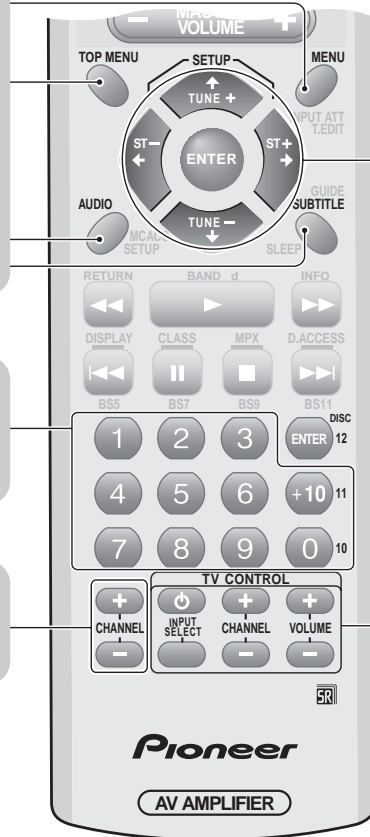
D.ACCESSボタン（70ページ）
数字ボタンを使ってダイレクトに放送局を受信します。

TVコントロール部や他機器/アンプコントロール部

TVや他機器/本機を操作するときに使います。
お手持ちのテレビをTV CONTROLボタンで操作するには、MULTI CONTROLボタンの「TV CONT」にお手持ちのテレビのプリセットコードを割り当ててください。（74～75ページ）
お手持ちのDVDをDVD CONTROLボタンで操作するには、MULTI CONTROLボタンの「DVD」にお手持ちのDVDのプリセットコードを割り当ててください。（74～75ページ）

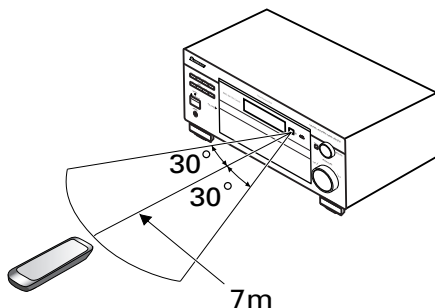
DVD CONTROLボタン
リモコンがDVD操作モードのときにDVDプレーヤーを以下のように操作することができます。
TOP MENU：DVDプレーヤーのトップメニュー画面を表示します。
AUDIO：ディスクに記録されている音声を選択します。
MENU：DVDプレーヤーのメニュー画面を表示させます。
SUB TITLE：ディスクに記録されている字幕を選択します。

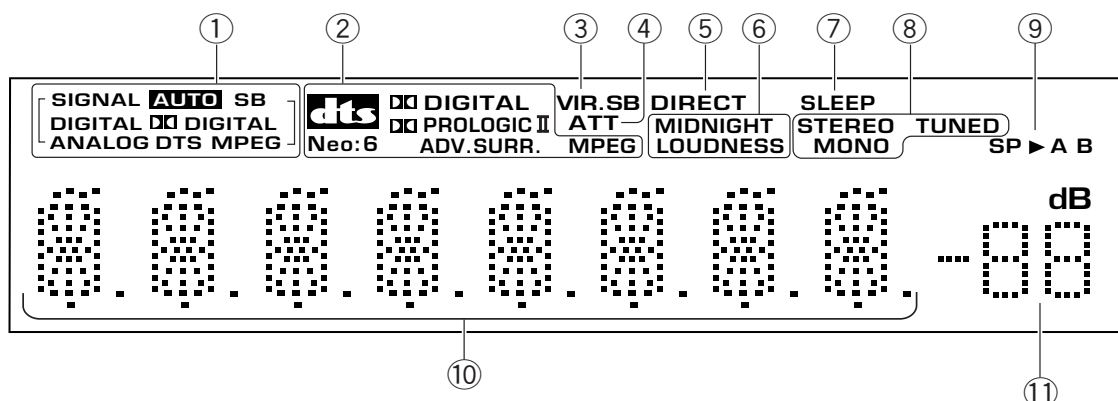
数字ボタン
リモコンがTUNERの操作モードのときは周波数のダイレクト選局を行い、CDやDVDの操作モードのときはトラックやチャプターを選ぶときに使います。

CHANNNEL＋/－ボタン
リモコンがDVRやVCRなどの操作モードのときにDVRやVCRなどのチャンネルを変えることができます。

⬆/⬇/⬅/➡/ENTERボタン
リモコンがアンプ操作モードのときは、システムセットアップで項目の選択、決定を行います。
リモコンがTUNER操作モードのときは、放送局の受信やステーションメモリークラスの選択などに使います。

TV CONTROLボタン
MULTI CONTROLボタンの「TV CONT」にプリセットコードを割り当てられたTVの操作ができます。リモコンがアンプ操作モードや他機器の操作モードのときでも操作することができます。
⏻：TVの電源をONまたはOFF（スタンバイ状態）にします。
INPUT SELECT：TVの入力を切り換えるときに押します。
CHANNEL +/－：TVのチャンネルを切り換えるときに押します。
VOLUME +/－：TVの音量を調節するとき押します。

リモコンの操作範囲

本機をリモコンで操作するときは、リモコンをフロントパネルのリモコン信号受光部に向けてください。

- リモコンと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作ができない場合があります。
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。
- 赤外線を発射する機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用したほかのリモコン装置を使用したりすると、本機が誤動作することがあります。逆にこのリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。

ディスプレイ

① SIGNAL SELECTインジケーター

DIGITAL :
デジタル音声信号が選択されているとき点灯します。

ANALOG :
アナログ音声信号が選択されているとき点灯します。

AUTO :
SIGNAL SELECTの設定をAUTOに設定しているときに点灯します。アナログ信号よりもデジタル信号を優先します。

DD DIGITAL :
ドルビーデジタル信号が入力されると点灯します。

DTS :
DTS信号が入力されると点灯します。

MPEG :
MPEG-2 AAC信号が入力されると点灯します。

SB :
EX、ES等の6.1ch検出信号が入力されると点灯します。

② デコードインジケーター

DTS :
STANDARDモードがONのときにDTSマルチチャンネル信号が入力されると点灯します。

Neo:6 :
Neo:6処理をしているときに点灯します。

DD DIGITAL :
STANDARDモードがONのときにマルチチャンネルのドルビーデジタル信号が入力されると点灯します。

DD PROLOGICII :
ドルビープロロジックII処理をしているときに点灯します。

ADV.SURR :
ADVANCED SURROUND処理をしているときに点灯します。

MPEG :
STANDARDモードがONのときにMPEG-2 AACマルチチャンネル信号が入力されると点灯します。

③ バーチャルサラウンドバックインジケーター (P42)
バーチャルサラウンドバック処理をしているときに点灯します。

④ ATTインジケーター
INPUT ATTがONのときに点灯します(アナログ信号を選択している場合のみ効果があります)。

⑤ DIRECTインジケーター (P40)
ダイレクト再生モードが ON のときに点灯します。

⑥ MIDNIGHTインジケーター (P44)
ミッドナイトリスニングモードが ON のときに点灯します。

LOUDNESSインジケーター (P44)
ラウドネスモードがONのときに点灯します。

⑦ SLEEPインジケーター (P49)
スリープタイマーモードが設定されているときに点灯します。

⑧ TUNERインジケーター (P70〜73)

STEREO :
ステレオで受信しているときに点灯します。

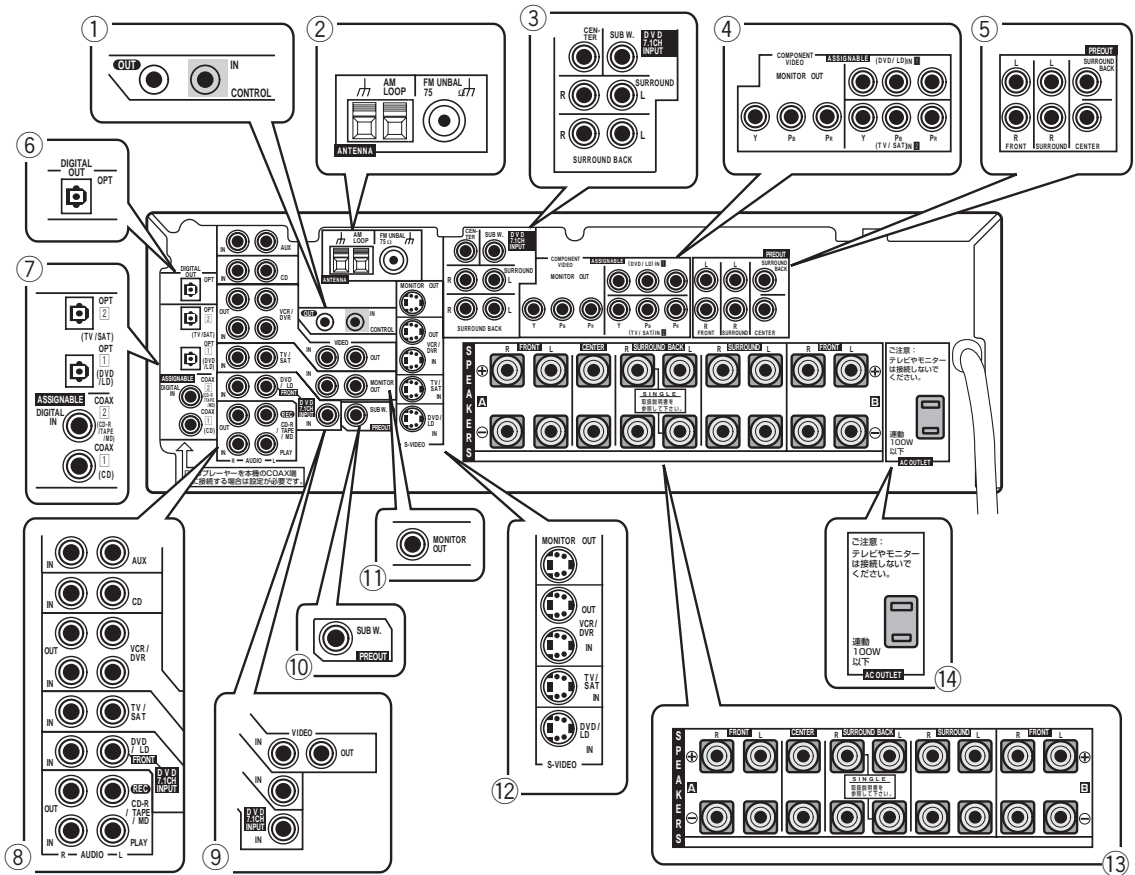
MONO :
MPXボタンを押してFM受信をモノラルに設定したときに点灯します。

TUNED :
ラジオ放送を受信しているときに点灯します。

⑨ スピーカーインジケーター (P29)
現在選択されているスピーカーシステムが点灯します。

⑩ キャラクター表示部

⑪ VOLUME(音量レベル)表示部
現在の主音量レベルを表示します。音量レベルは、電源がオフにされても保持されています。− − − dBでMINレベルを表わし、−0 dBでMAXレベルを表わします。

後面部(リアパネル)

① **コントロール入出力端子**
コントロール端子の付いた複数のパイオニア製品を1つの機器のリモコン受光部を使って、集中コントロールするための端子です。

② **アンテナ端子**
付属のAM/FMアンテナを接続します。

③ **DVD 7.1CH INPUT端子**
5.1CHまたは7.1CHアナログ出力の付いたDVDプレーヤーと接続します。FRONT L/Rは、⑧のDVD/LD端子に接続します。

④ **COMPONENT VIDEO 入力端子**
COMPONENT VIDEO出力を持つ機器と接続します。端子に表示された機器と違う機器を接続するときはコンポーネントビデオ入力の設定が必要です。(➡64ページ)

COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子
COMPONENT VIDEO入力端子に入力された信号を出力します。

⑤ **PREOUT端子**
パワーアンプ内蔵型のスピーカー(パワードスピーカー)または他のパワーアンプと接続します。

⑥ **デジタル出力端子**
デジタル入力を持つ機器と接続します。

⑦ **デジタル入力端子**
デジタル出力を持つ機器と接続します。端子に表示された機器と違う機器を接続するときはデジタル入力の設定が必要です。(➡66ページ)

⑧ **アナログ音声入出力端子**
アナログ機器の入出力端子と接続します。

⑨ **VIDEO入出力端子**
ビデオ機器のアナログ映像入出力端子と接続します。

⑩ **サブウーファーPREOUT端子**
パワーアンプ内蔵型サブウーファーと接続します。

⑪ **MONITOR OUT端子**
⑨のVIDEO入力端子に入力された信号を出力します。

⑫ **S-VIDEO MONITOR OUT端子**
以下のS-VIDEO入力端子に入力された信号を出力します。

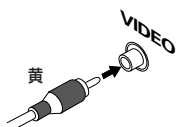
S-VIDEO入出力端子
ビデオ機器のS-VIDEO入出力端子と接続します。

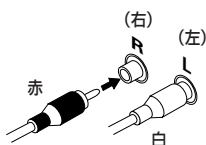
⑬ **スピーカー端子**
各チャンネル用のスピーカーと接続します。

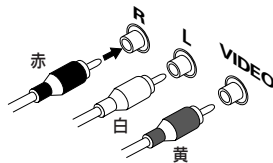
⑭ **AC OUTLET**
他機器の電源コードを接続します。

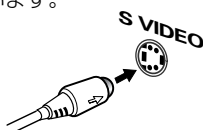
接続コードについて

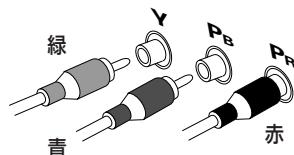
■ビデオコード

一般的な映像用コードで、コンポジットフォーマットの映像信号を伝送します。

■オーディオコード

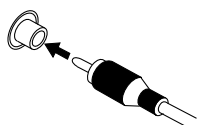
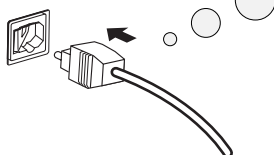
オーディオ機器の接続に使用します。

■オーディオ/ビデオコード

オーディオコードとビデオコードの一体化したもの。

■Sビデオケーブル

映像信号のY とC の2 つの信号(色差信号)からなり、コンポジットよりも高品位な映像品質を楽しむのに適しています。

■コンポーネント映像ケーブル

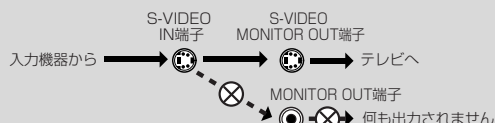
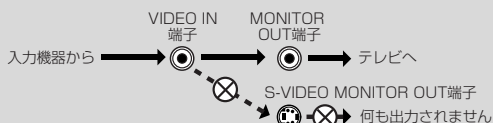
映像信号のY、CB/PB、CR/PRの3つの信号(色差信号)からなり、S ビデオケーブルよりも高品位な映像品質を楽しむのに適しています。(ビデオコード3本での接続も可能です)

■同軸ケーブル/光ファイバーケーブル

デジタル機器の接続に使用します。

同軸ケーブル
(またはオーディオ/
ビデオコード)

光ファイバーケーブル

- 接続の際は端子の向きを合わせてください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉らなくなることがあります。
- 長さは3m以下のものを使用してください。
- プラグにホコリが付着したときは、柔らかい布で拭いてから接続してください。

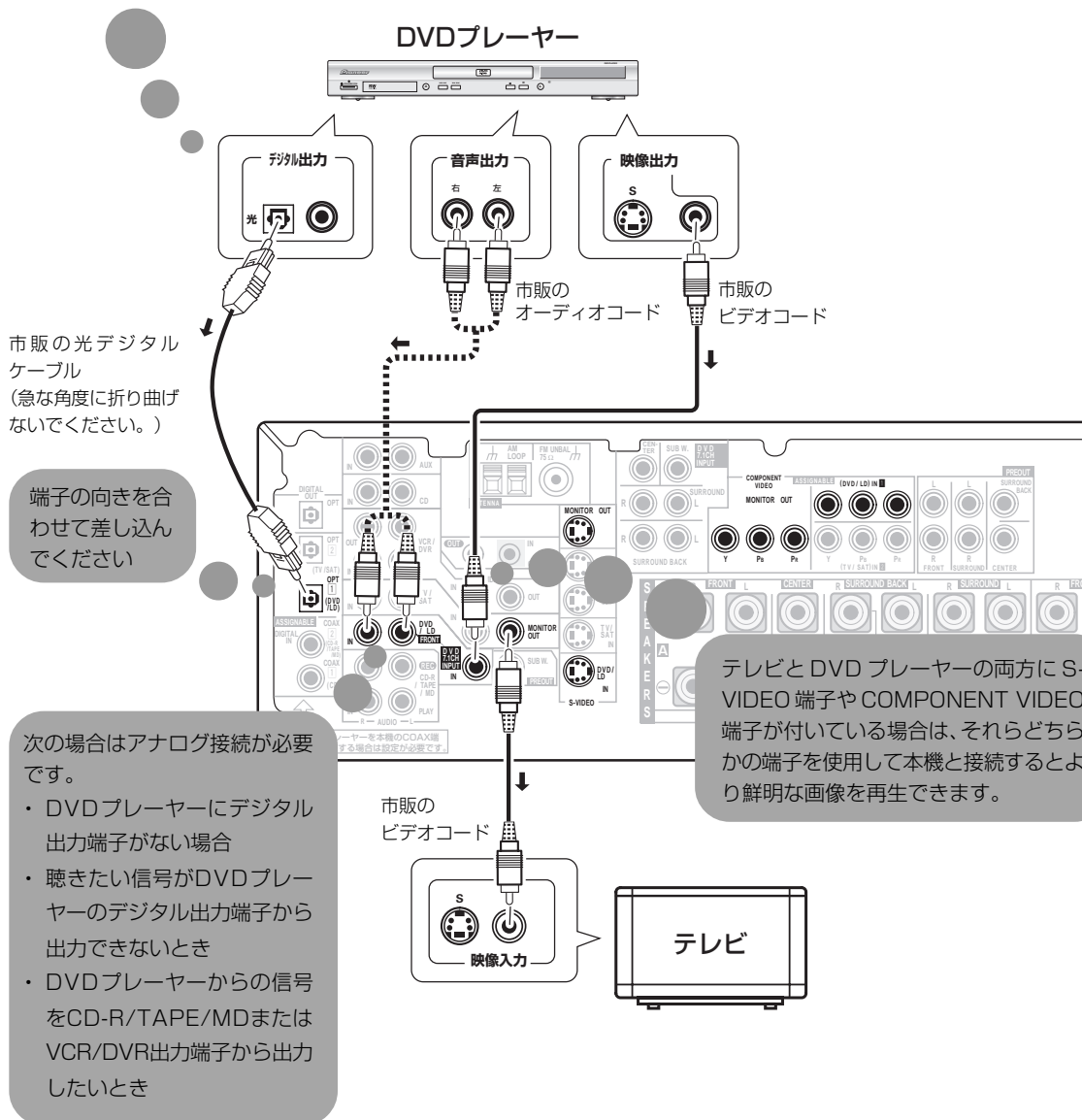
映像信号について

テレビとの接続で映像信号は各入力機器と同じタイプのコードを使用してください。S-VIDEO入力端子に入力された信号はS-VIDEOMONITOR OUT端子からのみ出力され、映像入力端子に入力された信号は映像出力端子からのみ出力されます。同じようにCOMPONENT VIDEO入力端子に入力された信号はCOMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子からのみ出力されます。

例)

ただしテレビによっては、S-VIDEO入力と映像入力の両方を接続していると、信号の有り無しに関わらず常にS-VIDEO入力が優先され、本機と映像入力端子でのみ接続している機器の映像を見ることができない場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

DVDプレーヤーとTV(モニター)の接続

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

ドルビーデジタル、DTS信号を再生するにはデジタル接続が必要です。

DVDプレーヤー

デジタル出力

光

音声出力

右 左

映像出力

S

市販のオーディオコード

市販のビデオコード

市販の光デジタルケーブル
(急な角度に折り曲げないでください。)

端子の向きを合わせて差し込んでください

テレビとDVDプレーヤーの両方にS-VIDEO端子やCOMPONENT VIDEO端子が付いている場合は、それらどちらかの端子を使用して本機と接続するとより鮮明な画像を再生できます。

次の場合はアナログ接続が必要です。
- DVDプレーヤーにデジタル出力端子がない場合
- 聴きたい信号がDVDプレーヤーのデジタル出力端子から出力できないとき
- DVDプレーヤーからの信号をCD-R/TAPE/MDまたはVCR/DVR出力端子から出力したいとき

市販のビデオコード

S

映像入力

テレビ

メモ

- S-VIDEO端子を使って接続する場合は、DVDプレーヤーの「S映像出力端子」と本機の「S-VIDEIO DVD/LD IN端子」を接続し、テレビの「S映像入力端子」と本機の「S-VIDEIO MONITOR OUT端子」を接続します。
- COMPONENT VIDEO端子を使って接続する場合は、DVDプレーヤーの「COMPONENT VIDEO映像出力端子」と本機の「COMPONENT VIDEO (DVD/LD) IN❶端子」を接続し、テレビの「COMPONENT VIDEO映像入力端子」と本機の「COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子」を接続します。

TVまたは衛星チューナーの接続

注意

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

BSデジタルチューナー内蔵テレビの場合

MPEG-2 AAC信号を再生するにはデジタル接続が必要です。

次の場合はアナログ接続が必要です。
- チューナーにデジタル出力端子がない場合
- 地上波放送などのアナログ信号を本機を通して楽しみたいとき

端子の向きを合わせて差し込んでください

市販の光デジタルケーブル（急な角度に折り曲げないでください。）

市販のオーディオコード

市販のビデオコード

デジタル出力

アナログ出力

映像入力

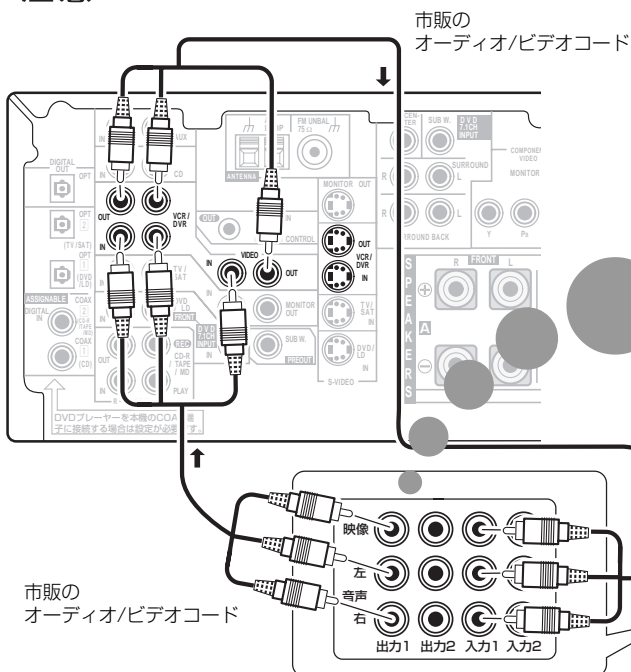
BSデジタルチューナー内蔵テレビ

メモ

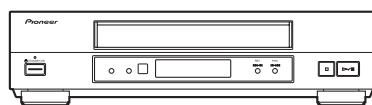
- S-VIDEO端子を使って接続する場合は、BSデジタルチューナー内蔵テレビの「S映像入力端子」と本機の「S-VIDEIO MONITOR OUT端子」を接続します。
- COMPONENT VIDEO端子を使って接続する場合は、BSデジタルチューナー内蔵テレビの「COMPONENT VIDEO映像入力端子」と本機の「COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子」を接続します。

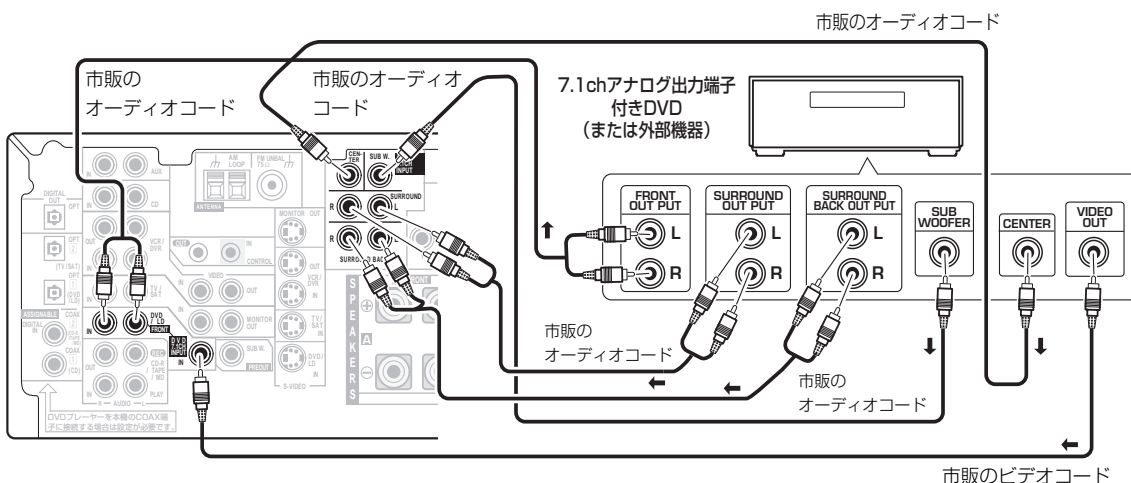
ビデオ機器の接続

注意 機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

ビデオデッキ、
DVDレコーダーなど

VCR/DVR OUT端子を通して本機を録画(録音)用のセレクターとして使用するには

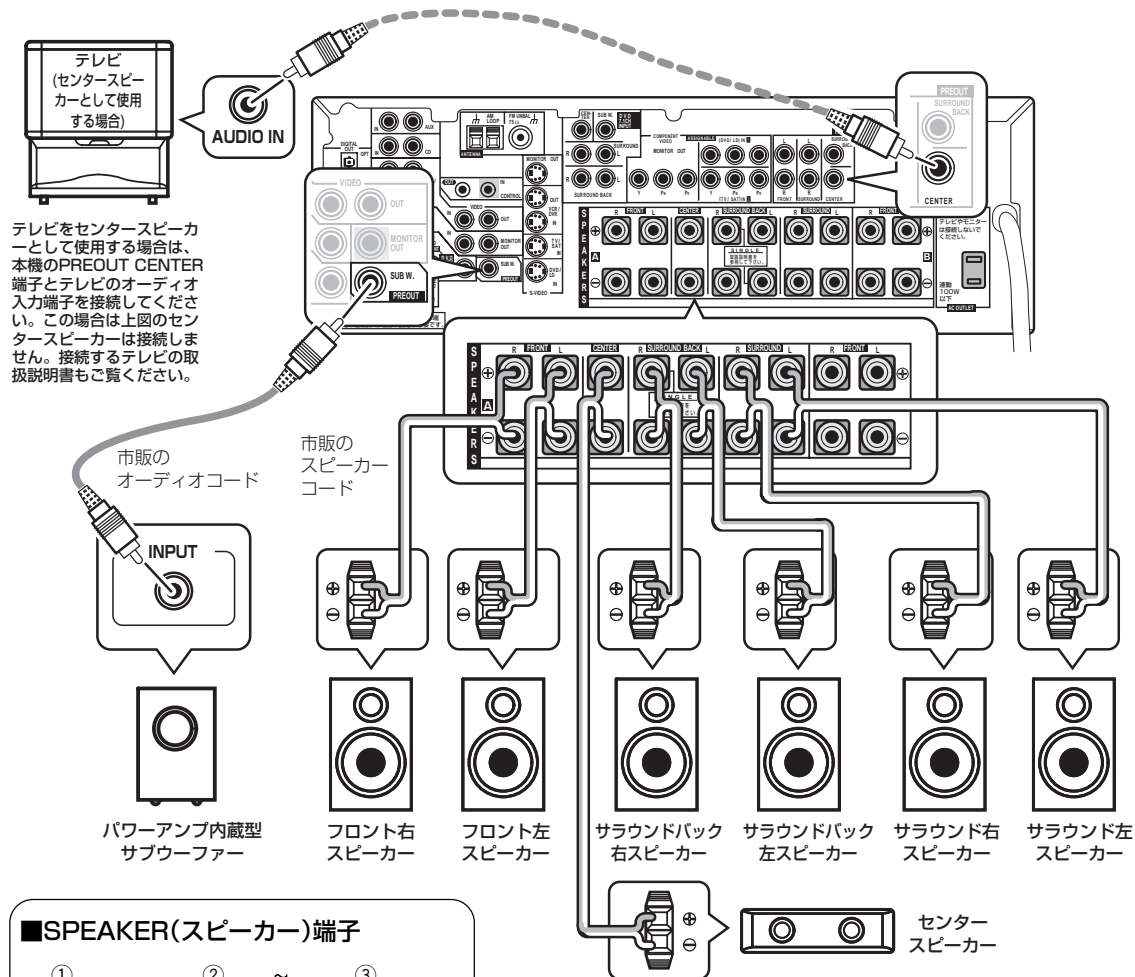
VCR/DVR OUT端子からは、デジタル接続の有無に関わらず、各映像入力端子に入力された映像信号と、各音声入力端子に入力された音声信号が、そのまま何の加工もされずに出力されます(リスニングモードなどの本機の各機能の効果も同様に盛り込まれません)。入力機器と本機を、デジタル接続やS映像ケーブルだけで接続している場合は、ビデオコードやオーディオコードでも接続してください。

メモ

- S-VIDEO端子を使って接続する場合は、ビデオデッキなどの「S映像出力端子」と本機の「S-VIDEIO VCR/DVR IN端子」を接続し、ビデオデッキなどの「S映像入力端子」と本機の「S-VIDEIO VCR/DVR OUT端子」を接続します。

DVD 7.1chアナログ接続

メモ 「マルチチャンネルサラウンドバック入力1ch/2ch設定」(➡65ページ)で「SB 1ch IN」に設定したときは、本機のDVD7.1CH INPUTのサラウンドバック端子のR ch側に接続します。

スピーカーの接続

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

- センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカー、サブウーファーのいずれかを接続しない場合は、設定(➡56〜58ページ)が必要になります。
- スピーカーは公称インピーダンスが6Ω〜16Ωのものを使用してください。
- 本機とスピーカーの⊕端子および⊖端子どうしを正しく接続してください。
- サラウンドバックスピーカー端子にはアンプを内蔵していないサブウーファーを接続することも可能です。その場合は「サラウンドバックスピーカーの設定」(➡57ページ)で「SB SW」を選択して下さい。

テレビ
(センタースピーカーとして使用する場合)

AUDIO IN

テレビをセンタースピーカーとして使用する場合は、本機のPREOUT CENTER端子とテレビのオーディオ入力端子を接続してください。この場合は上図のセンタースピーカーは接続しません。接続するテレビの取扱説明書もご覧ください。

市販のオーディオコード

市販のスピーカーコード

INPUT

パワーアンプ内蔵型サブウーファー

フロント右スピーカー

フロント左スピーカー

サラウンドバック右スピーカー

サラウンドバック左スピーカー

サラウンド右スピーカー

サラウンド左スピーカー

センタースピーカー

■SPEAKER(スピーカー)端子

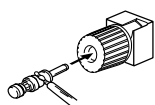
①　②　③

10mm

① 線をねじる。

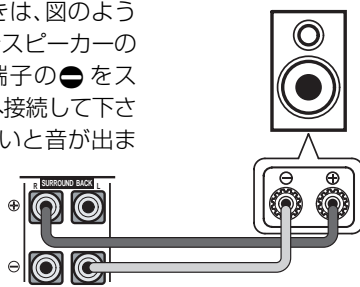
② スピーカー端子をゆるめ、スピーカーコードを差し込む。

③ スピーカー端子を締めつける。

バナナプラグを接続することもできます(詳しくはプラグの説明書をお読みください。)

メモ

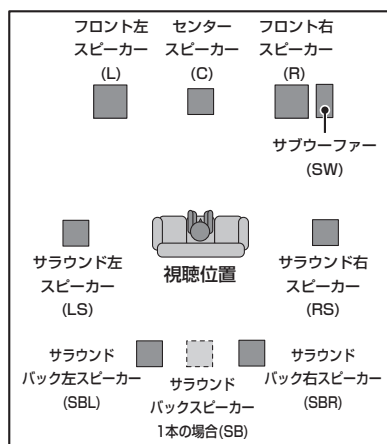
- サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続するときは、図のように本機R端子の⊕をスピーカーの⊕ 端子へ、本機L端子の⊖ をスピーカーの⊖端子へ接続して下さい。この接続をしないと音が出ません。

サラウンドバックスピーカー
(またはサブウーファー)

メモ

スピーカーコードの芯線をねじるときは、ばら線が束からはみ出さないように注意してねじってください。はみ出した線があると、その線が隣りのチャンネルのスピーカーコードやリアパネル(後面の金属部分)にショート(接触)し、本機の電源が入らない場合があります。

スピーカーの配置

サラウンド効果を最大限に引き出すため、下図のようにスピーカーを配置してください。

メモ

- 左右のスピーカーはテレビから等距離になるように設置してください。
- テレビの近くに設置するスピーカーは、テレビが色ずれ等を起こすのを防止するため、防磁型のものを使用してください。防磁型でない場合は、テレビから離して設置してください。
- センタースピーカーはテレビの上側または下側に置き、センターチャンネルの音がテレビと同じ位置に配置されるようにしてください。
- サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーは耳の高さからやや上方に設置すると効果的です。
- サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーをフロントスピーカーとセンタースピーカーから極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。
- サブウーファーは前方で、フロントスピーカーまでの距離と等距離になる位置に置くことをおすすめします。

ご注意:

センタースピーカーをテレビの上に置くときは、適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動により、スピーカーがテレビから落下してケガをしたり、スピーカーを破損する原因となります。

スピーカーBシステムについて

本機はAとBの2組のスピーカーを接続できます。スピーカーシステム「A」、「B」、「A+B」の選択は各ファンクションごとに設定することができます。スピーカーシステムの切り換えはSPEAKERSボタンで行います。

- スピーカー「A」を選択したときはサラウンド再生に対応し、最大7.1チャンネルのスピーカーでお楽しみ頂けます。この場合はSTANDARDボタンやADVANCEDボタンを押してください。
- スピーカー「B」または「A+B」を選択したときはサラウンド再生に対応しません。スピーカー「B」を選択したときは自動的にステレオモードとなりスピーカーBからのみ音が出ます。このとき、フロントチャンネル以外の音声はダウンミックスされ、スピーカーBより出力されます。「A+B」を選択したときも、同じようにステレオモードになります。サブウーファーを除く他のチャンネルの音声はすべてダウンミックスされ、スピーカーAとBから出力されます。

オーディオ機器の接続

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

アナログ接続

デジタル接続

DVD/LDまたはLDプレーヤーの接続

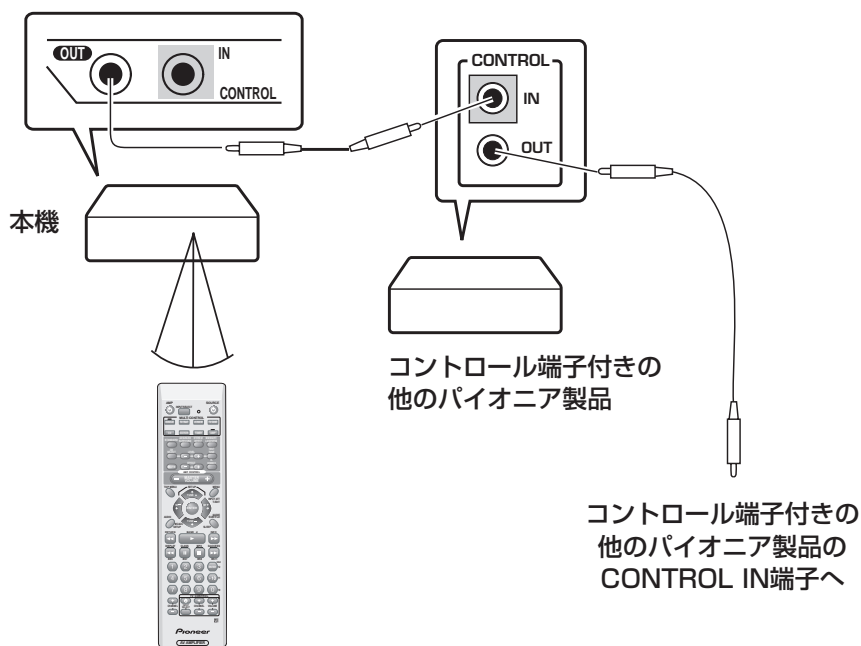
ドルビーデジタルやDTSサラウンド対応ソフトを再生するには、デジタルオーディオ接続が必要です。

DVD/LDプレーヤーまたはLDプレーヤーに RF出力端子がある場合は、市販のRFデモジュレーターを使用して RF端子も接続します。RFデモジュレーターはRF信号をデジタル信号に変換します。このデジタル信号を本機のデジタル入力端子に接続します。詳しくは、RFデモジュレーターの取扱説明書をご覧ください。LDのアナログオーディオディスクはデジタル出力されませんのでアナログオーディオ接続も行ってください。

メモ

- S-VIDEO端子を使って接続する場合は、DVDプレーヤーの「S映像出力端子」と本機の「S-VIDEIO DVD/LD IN端子」を接続します。
- COMPONENT VIDEO端子を使って接続する場合は、DVDプレーヤーの「COMPONENT VIDEO映像出力端子」と本機の「COMPONENT VIDEO (DVD/LD) IN1端子」を接続します。

他のパイオニア機器を操作するための接続

コントロールコードを接続すると、本機を通して他のコントロール端子付きのパイオニア製品を操作できるようになります。操作は本機のリモコン受光部に向けて行います。このとき、リモコン信号は本機のリモコン信号受光部で受信され、CONTROL OUT端子を通して他機器に送信されます。

メモ

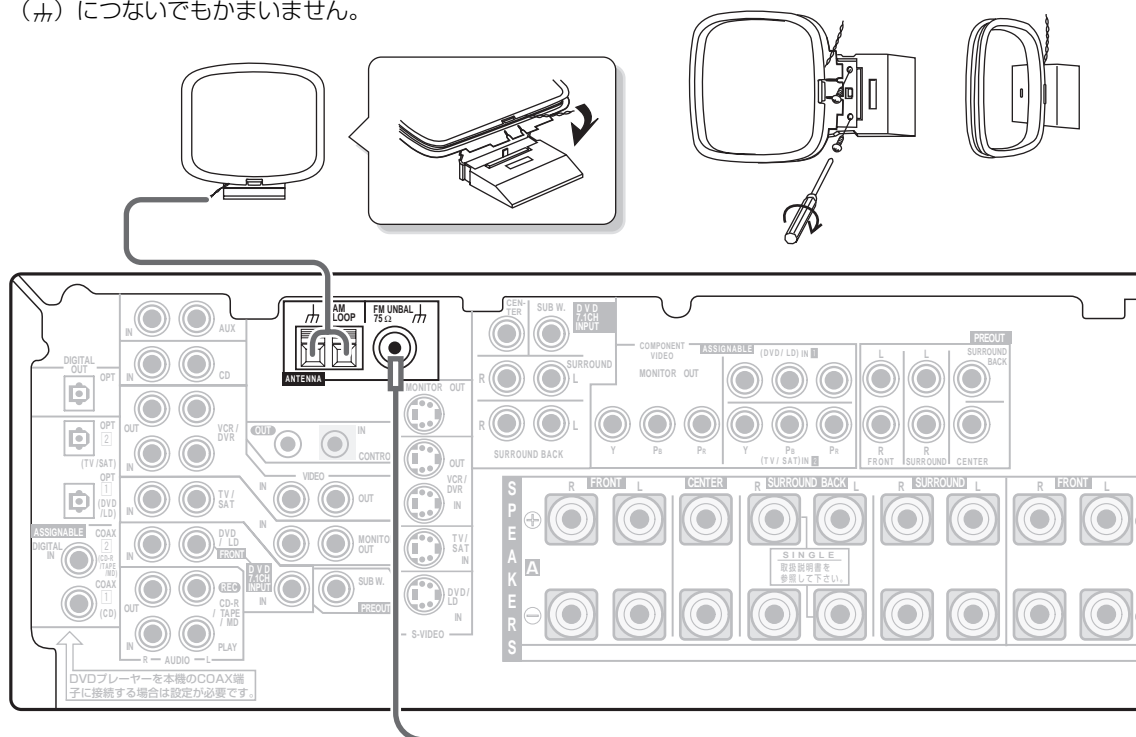
- コントロールコードは別売です。ご使用の際は、モノラルミニプラグ付きコードをお買い求めください。
- コントロール端子の接続をする場合は、必ずアナログの入出力も接続してください。デジタルの入出力だけでは、正しく動作しません。

アンテナの接続

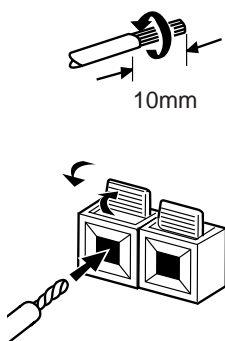
アンテナは下図のように接続します。付属のAM/FMアンテナは簡易アンテナです。感度が悪く聞こえにくい場合は次ページ「外部アンテナの接続」をご覧になり、外部アンテナを接続することをおすすめします。

● AMループアンテナ（付属）

下図のように組み立てます。AMループアンテナのコード2本をAMアンテナ接続端子に接続します。どちらをアース側端子（⏚）につないでもかまいません。

壁などに取り付けるにはネジやピンなどを使って取り付けます

● FMアンテナ（付属）

中央のピンにアンテナコードを差し込みます。

● アンテナコードと本機の接続端子

① コードの被服を回しながら引き抜きます。

② 端子のつめを押しながらコードを差し込み、奥までコードが入ったら端子のつめを戻します。

アンテナ接続に関するご注意

アンテナ接続について

アンテナ端子のアースマーク(⏚)はアンテナを接続した場合の雑音低減をはかるためのものです。安全アースではありません。

AM ループアンテナ

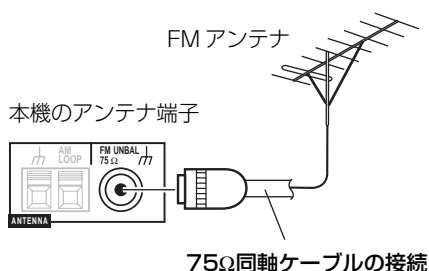
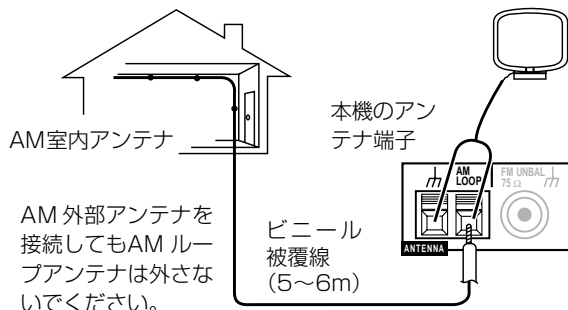
- 平らな面に置き、受信状態の最も良い方向に向けてください。
- アンテナは、本機から離して金属物と接触しない場所に置いてください。また、パソコン、テレビなどからもできるだけ離してください。ノイズの原因となります。
- 壁などに取り付ける場合は、AM 放送の受信状態が最も良い方向を見つけ、取り付け位置を決めてください。

FM アンテナ

- FMアンテナは、たらしておいたり、丸めたままにしないで最も良い受信状態が得られるように、ピンとはってください。
- 付属のFMアンテナは、FM放送を手軽に受信するためのものです。よりよい受信のためには専用アンテナを使用してください。

外部アンテナの接続

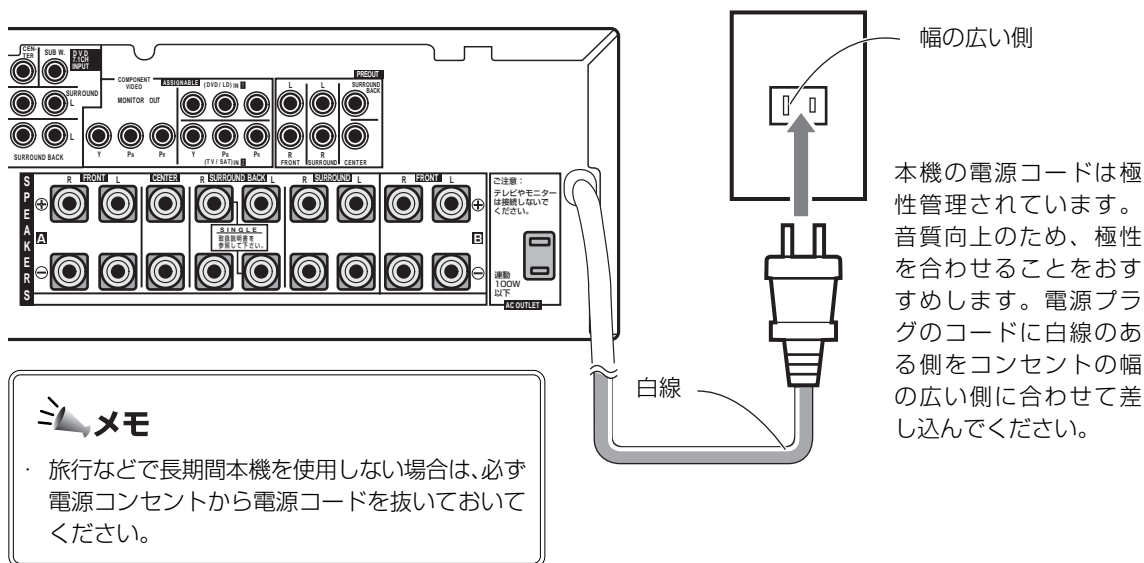
付属のアンテナでよく聞こえないときは、ＡＭ外部アンテナ（ビニール被覆線）、市販のＦＭ屋外アンテナを接続することをおすすめします。

● FM屋外アンテナ（75Ω同軸ケーブル）の接続
下図のように接続してください。

● AM外部アンテナ（ビニール被覆線）の接続
下図のように接続してください。

電源コードの接続

全ての接続が終了したら、電源コードを家庭用電源コンセント（AC 100V）に接続します。

本機の電源コードは極性管理されています。音質向上のため、極性を合わせることをおすすめします。電源プラグのコードに白線のある側をコンセントの幅の広い側に合わせて差し込んでください。

メモ

· 旅行などで長期間本機を使用しない場合は、必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。

予備電源コンセント（AC OUTLET）の接続（連動100W以下）

本機の電源スイッチのON/スタンバイ（OFF）の切換に連動して、接続した機器の電源をON/OFFできます。

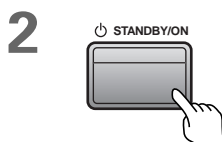
このとき、接続した機器の電源スイッチはONにしておいてください。また、消費電力が100Wを超えないようにしてください。

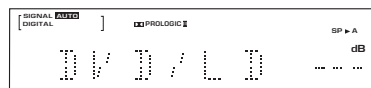
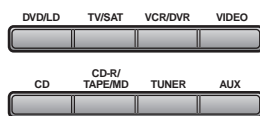
⚠注意

■ 消費電力がパネルに表示されているWの数値を超える電気器具（トースター、ドライヤーなど）は絶対に接続しないでください。機器の故障や火災の恐れがあります。

■ テレビは接続しないでください。
表示されている消費電力が本機のパネル表示値より少なくても、電源を入れたときに大きな電流が流れて、パネル表示値を超える場合があります。

基本再生

1 TV、入力機器（DVDプレーヤーなど）、サブウーファーの電源を入れる。

2 本体の⏻STANDBY/ONボタンを押して本機の電源を入れる。

表示部に入力名（DVD/LDなど）が表示されることを確認してください。

3 入力を選択する。

リモコンのMULTI CONTROLボタンまたはINPUT SELECTボタンでも選択することができます。

入力信号の設定（SIGNAL SELECT）はAUTOに設定されています。必要に応じて入力信号の種類を選びます。

「アナログ/デジタル信号を切り換える」（➡37ページ）

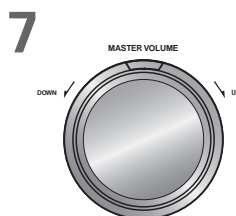
4 テレビの設定をする。

画面に、本機からの出力映像が映し出されるようにテレビの入力切り換えをしてください。（テレビ放送を楽しむときはこの操作をする必要はありません）

5 入力機器の設定をする。

DVDプレーヤーなどの場合、デジタル出力信号の設定が必要な場合があります。（詳しくは次ページの「入力機器の設定確認」をご覧ください。）

6 入力機器の再生を開始する。

ディスプレイの各インジケーターが点灯します。

7 音量を調整する。

–––dB（最小）〜 –0dB（最大）の間で調整できます。

音が出ないときは、「音が出ないスピーカーがあるときは、、」（➡85ページ）をご覧ください。

メモ

- ご使用後はリモコンのAMP⏻ボタンまたは本体の⏻STANDBY/ONボタンを押してください。電源が切れてスタンバイインジケーターが点灯します。
- 長時間ご使用にならないときは、電源コードをコンセントから抜いておいてください。

映像出力信号について

テレビや入力機器にS-VIDEO端子やCOMPONENT VIDEO端子が付いている場合は、本機のS-VIDEO入力端子やCOMPONENT VIDEO入力端子を使用して接続すると、より鮮明な画像を再生できます。

その際、テレビとの接続はS-VIDEO MONITOR OUT端子かCOMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子を使用してください。S-VIDEO入力端子に入力された信号はS-VIDEO MONITOR OUTからのみ出力され、COMPONENT VIDEO入力端子に入力された信号はCOMPONENT VIDEO MONITOR OUTからのみ出力されます。

ご注意:
- テレビによっては、S-VIDEO入力端子と映像入力の両方を接続していると、信号の有り無しに関わらず常にS-VIDEO入力が優先され、本機と映像入力端子でのみ接続している機器の映像を見ることができない場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

入力機器の設定確認

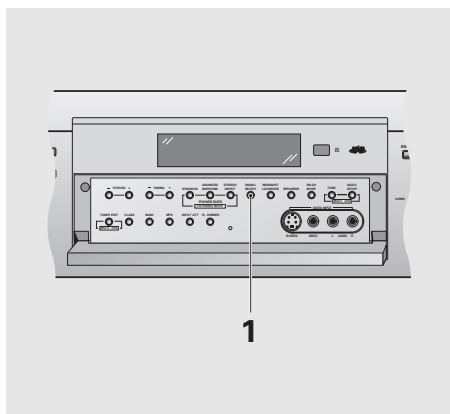
入力機器側で、次の2つの項目が正しく設定されていないと「音が出ない」、「音に迫力がない」などの症状が起こることがあります。各入力機器または各ソフトの説明書を見てご確認ください。

1. **入力機器のデジタル出力**
   入力機器側に以下の信号のデジタル出力設定がある場合、出力されるように設定してください。
   - ドルビーデジタル　(➡80ページ)
   - DTS　(➡80ページ)
   - MPEG(MPEG-2 AAC)　(➡81ページ)
   - 96 kHz PCM　(➡81ページ)　:2チャンネルステレオ信号

2. **再生ソフトの音声の確認**
   再生ソフトや放送が複数の音声を持つ場合、必要に応じてお聴きになりたい信号を選択してください。選んだ信号の種類やリスニングモードの選択(➡38～40ページ)に応じて音の出るスピーカーが変わります。

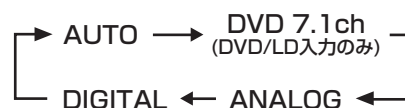
ご注意:
- プレーヤーまたはソフトによっては2チャンネルステレオ信号（アナログ信号やPCM信号など）以外は出力できないことがあります。そのような信号を本機に入力し、マルチチャンネルサラウンドでお楽しみ頂くためには、リスニングモードを「STANDARD」または「ADVANCED SURROUND」に切り換える必要があります。(➡38～40ページ)

アナログ／デジタル信号を切り換える

本機ではアナログとデジタルの入力信号を切り換えることができます。この入力信号を切り換えるにはSIGNAL SELECTボタンを使用します。工場出荷時は「AUTO」に設定されています。
この操作は本体での操作のみになります。

1

SIGNAL
SELECT

再生したい入力信号を選ぶ

ボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

AUTOにしたときはDIGITAL→ANALOGの優先順位で自動的に入力信号を選択します。7.1chについては「DVD 7.1chアナログ入力を再生する」(➡46ページ)をご覧ください。

AUTOのとき

SIGNAL AUTO

DVD 7.1chのとき

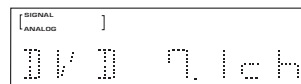
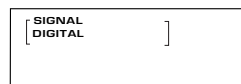
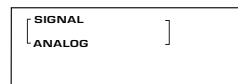
SIGNAL ANALOG

DV D 7.1ch

DIGITALのとき

SIGNAL DIGITAL

ANALOGのとき

SIGNAL ANALOG

デジタル接続をしているのに、DIGITALが選択できないときは以下の原因が考えられますのでご確認ください。

- 入力機器の電源が入っていない。
- 入力機器側でデジタル出力がOFFに設定されている。
- デジタル入力の設定が間違えて設定されている。
- デジタル出力信号が出ないソフトを再生している。(詳しくは入力機器の取扱説明書などでご確認ください)

メモ

- 4つのデジタル入力端子のいずれにも割り当てられていない入力については、SIGNAL SELECTはANALOGに固定されます。(66ページ「デジタル入力の設定」をご覧ください)
- カラオケ機器のマイク音声、およびアナログオーディオのみ収録されているLDの音声はデジタル出力からは出力されません。必ずSIGNAL SELECTでANALOGを選択してください。
- 本機は、ドルビーデジタル、PCM(32kHz〜96kHz)、DTS、DTS 96/24、MPEG-2 AACのデジタル信号にのみ対応しています。これ以外のデジタル信号は再生できませんので、その場合はアナログ接続してSIGNAL SELECTボタンでANALOGを選択してください。
- SIGNAL SELECTボタンでANALOGを選択した状態で DTS対応のソフトを再生すると、プレーヤーによってはDTS信号がデコーディングされずにそのまま再生されてしまうため、ノイズが発生します。ノイズの発生を防ぐには、これらの機器をデジタル接続し(25ページ)、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALを選択してください。
- DVDプレーヤーの機種によっては、DTS信号を出力しないものがあります。詳しくは、お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

リスニングモードの種類と効果

本機では再生するスピーカーの数や、お聴きになるソフトのジャンルに合わせて最適なサウンドを選択することができます。本機のリスニングモードは3つのタイプ(STANDARD、ADVANCED SURROUND、STEREO/DIRECT)に分かれています。モードの切換方法については、「リスニングモードの選択」(➡40ページ)をご覧ください。

STANDARD（ソフトに忠実な再生）

マルチチャンネルデジタル信号を入力しているときは、再生するソフトの音声フォーマットを検出しデコード方式を自動的に切り替えて再生します。2chソースについてはマトリクス・サラウンド・デコードを行います。その際、マトリクス・サラウンド・デコード方式を以下の5つの中から選択することができます。マルチチャンネル信号(5.1chソースや「6.1再生検出信号」の記録されたソースなど)を受信しているときはディスプレイにデコード名称が表示され、ソフトに忠実なデコードをしますので以下のモードを切り換えることはできません。

MOVIE（DDPRO LOGIC II MOVIE）

５.１ｃｈ化します。映画再生に適したモードで、特にドルビーサラウンド・エンコード作品をこのモードで視聴するとより効果的です。サラウンドｃｈへのダイアローグの漏れ込み(クロストーク)を聞こえにくくする処理などもあり、ドルビーデジタル５.１ｃｈに迫るセパレーションや移動感などが得られます。

MUSIC（DDPRO LOGIC II MUSIC）

5.1ch化します。音楽再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたソース(CDなど)を再生するときに効果的です。サラウンドchは定位よりも拡がり感を重視しています。

PROLOGIC（DDPRO LOGIC）

従来のドルビープロロジックと同等の再生モードです。特にドルビーサラウンドエンコード作品をこのモードで視聴すると効果的です。

CINEMA（Neo6: CINEMA）

６.１ch化します。映画再生に適したモードで、2chを6.1chソースと同じような雰囲気でお楽しみいただけます。映画館特有の移動感をお楽しみ頂けます。MPEG-2 AAC信号を入力しているときは選択できません。

MUSIC（Neo6: MUSIC）

６.１ｃｈ化します。フロントからは原音をそのまま再生するため音質の変化が無く、音楽再生に適したモードといえます。また、センターとサラウンド、サラウンドバックｃｈから出力される音声が音場にナチュラルな拡がり感を加えます。MPEG-2 AAC信号を入力しているときは選択できません。

ADVANCED SURROUND

このモードは、映画のサウンドトラックやそれ以外のオーディオビジュアルソフトを最適な音声で楽しむことができるオリジナルのサラウンドモードです。以下5つの中からお好きなモードを選択することができます。2chソースについてはあらかじめサラウンド化してからオリジナルの処理を加え、それ以外のソースについては忠実にデコードして処理を加えます。(DTS 96/24信号を入力しているときは選択できません)

ADV.MOVIE (ADVANCED MOVIE)

映画再生に適したモードで、特にドルビーサラウンド、ドルビーデジタル、DTS・エンコードの映画作品をこのモードで視聴するとより効果的です。映画館さながらの迫力や臨場感をお楽しみいただけます。

ADV.MUSIC (ADVANCED MUSIC)

音楽再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたソース(CDなど)に限らずドルビー、DTS・エンコードされた音楽作品を再生するときに効果的です。コンサートホールの雰囲気をお楽しみいただけます。

TV SURR. (TV SURROUUND)

テレビ放送のほとんどの割合を占めるモノラル信号やステレオ信号もマルチチャンネルサラウンドで再生します。モノラル放送の古い映画などをマルチチャンネルサラウンドでお聴きになりたいときに効果的です。

SPORTS

スポーツ中継の臨場感を体感できるモードです。会場の雰囲気をマルチチャンネルサラウンドで再現します。

GAME

ゲームのスピード感、躍動感をよりいっそう高めます。シューティングゲームやレーシングゲーム等、右へ左へ駆け巡るような流れのあるシーンの多いゲームに効果的です。

EXPANDED

ドルビーサラウンドや2チャンネルで録音されているソースに対しては、ドルビーデジタルの5.1chサラウンドのような効果を実現します。また、ドルビーデジタルに対してはより広がりのある音場を実現します。

6-STEREO (6 CHANNEL STEREO)

標準のステレオ(2チャンネル)音声を加工することなく、6チャンネルにて再生しますので、部屋のどの場所にいてもステレオ感をお楽しみいただけます。

PHONES SURROUND

ヘッドホンでありながら仮想立体音響を再現し、マルチチャンネルサラウンド再生時の臨場感をお楽しみ頂けます。

STEREO/DIRECT

左右のフロントスピーカーからステレオ音声(2ch)で再生するモードです。
ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネルソースは2chにダウンミックス(変換)して再生します。

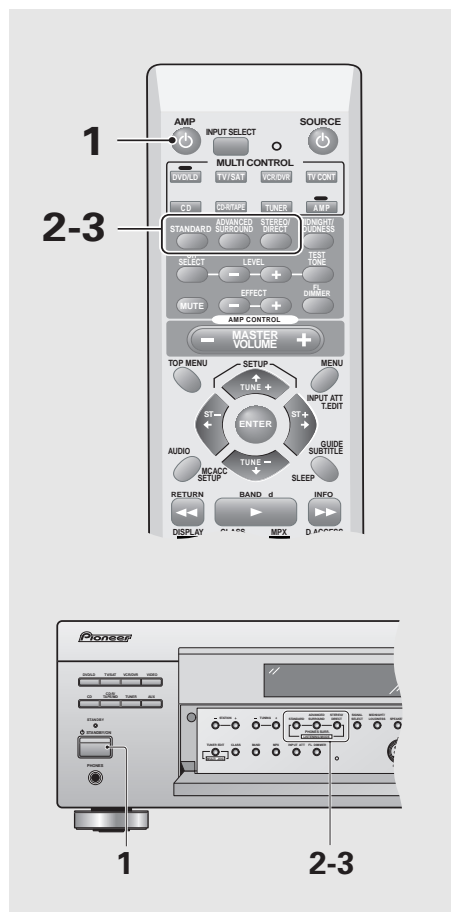
STEREO

サラウンドに関する設定での各設定を反映し、「便利な音声再生用機能」(➡44～45ページ)の効果を加えてステレオ再生することができます。

DIRECT

2chソースを原音に忠実な高品位ステレオ再生します。「スピーカーの設定」(➡56ページ)における設定は反映されます。

メモ
- 「DIRECT」を選択しているときに、「便利な音声再生用機能」(➡44～45ページ)をONにすると、自動的に「STEREO」に切り換わります。

リスニングモードの選択

1
本機の電源を入れる。

2
リスニングモードのタイプを選ぶ。

3
手順2で選んだタイプのボタンを押してお好みのリスニングモードを選ぶ。

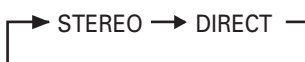
各タイプごと、ボタンを押すたび以下のように切り換わります。

STANDARD

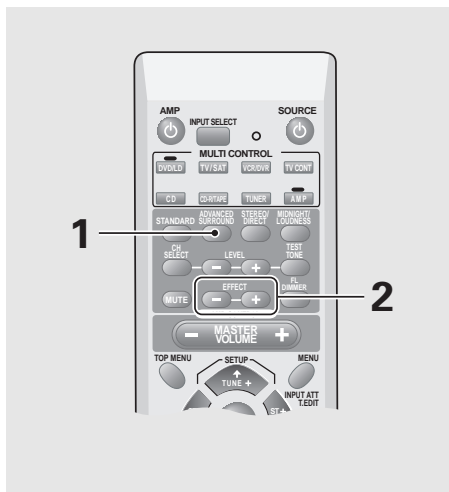
2chソースについてのみ以下のモードが切り換わります。マルチチャンネル信号を受信しているときはディスプレイにデコード名称が表示され、ソフトに忠実なデコードをしますので以下のモードを切り換えることはできません。

ADVANCED SURROUND

（ヘッドホン挿入時は「PHONES SURROUND」）

STEREO

メモ

- 工場出荷時は「STEREO」に設定されています。ただしDVD入力のみ「STANDARD」に設定されています。
- 96kHz リニアPCMまたはDTS 96/24ステレオ信号を再生しているときは、「STEREO」のみ選択することができます。それ以外のモードに設定しているときに96kHz リニアPCMまたはDTS 96/24ステレオ信号が入力されると、自動的に「STEREO」に切り換わります。
- DTS 96/24信号を再生しているときは、ADVANCED SURROUNDを選択することはできません。
- MPEG-2 AAC信号を入力しているときは、Neo:6 CINEMAとNeo:6 MUSICを選択することはできません。

ADVANCED SURROUNDモードの効果を調整する

1 ADVANCED SURROUNDモードに設定する（➡40ページ）。

2 EFFECT

エフェクトレベルの効果を調整する。

エフェクトレベルは10～90の範囲で調整することができます。

メモ

・ 工場出荷時の設定は70に設定されています。ただし6-STEREOのみ90に設定されています。

SB CH MODE（サラウンドバックチャンネルモード）

本機ではサラウンドバックスピーカーを接続しているときに、サラウンドバックスピーカーから音を出す(6.1chまたは7.1ch再生)か出さない(5.1ch再生)かを設定することができます。また、サラウンドスピーカーを接続していればサラウンドバックスピーカーを接続していないときでも、サラウンドスピーカーから仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出すか出さないかを設定することもできます(バーチャルサラウンドバックモード)。

サラウンドバックチャンネルのON/AUTO/OFF

サラウンドバックスピーカーを接続しているときに、サラウンドバックスピーカーをON、AUTO、OFFのいずれかに設定します。設定内容は以下の通りです。入力信号の種類やリスニングモードの選択によってサラウンドバックスピーカーから音が出る場合と出ない場合があります。詳細は次ページの表をご覧ください。また、入力信号がDTS 96/24のときは、6.1chの設定に関係なくサラウンドバックチャンネルから音はでません。

- ON　 ：リスニングモードでSTANDARDまたはADVANCED SURROUNDが選択されているときは最大7.1chでの再生を行います。
- AUTO：6.1ch再生検出信号を含んだソースやリスニングモードによってサラウンドバックチャンネルがON/OFFします。
- OFF　：最大5.1chでの再生を行います。（サラウンドバックスピーカーから音は出ません）

1

SB CH MODEボタンを押してサラウンドバックチャンネルモードを選択する。

ボタンを押すたびに、ONとAUTOとOFFが切り換わります。

メモ

・ DVD7.1ch入力モードを選んでいるときは切り換えができません。(➡46ページ)
・ サラウンドバックスピーカーが無し(＊)の設定のときは切り換えができません。(➡57ページ)

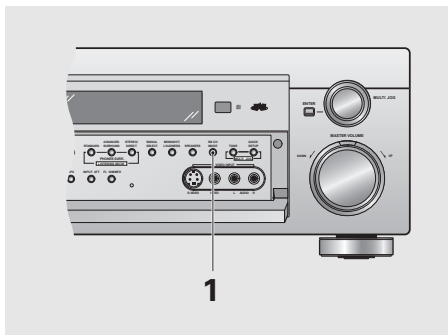
各リスニングモードにおけるサラウンドバックスピーカーからの音声出力

入力信号（ソース）	SB CH MODE	STANDARD			ADVANCED SURROUND
		ソフトに忠実なデコード	PRO LOGIC II MOVIE PRO LOGIC II MUSIC PRO LOGIC	Neo:6 CINEMA Neo:6 MUSIC	すべてのモード共通
ドルビーデジタルサラウンドEX、DTS-ES（6.1chソース）	AUTO	○	−	−	○
	ON	○	−	−	○
ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC（4.1、5.1chソース等）	AUTO	✘	−	−	○
	ON	○	−	−	○
ドルビーデジタル、DTS、（ステレオソース）	AUTO	−	✘	○	○
	ON	−	○	○	○
MPEG-2 AAC（ステレオソース）	AUTO	−	✘	−	○
	ON	−	○	−	○
PCM、アナログソース	AUTO	−	✘	○	○
	ON	−	○	○	○

○：サラウンドバックスピーカーから音が出ます。
✘：サラウンドバックスピーカーから音が出ません。
−：リスニングモードを選択できません。

バーチャルサラウンドバックモードのON/AUTO/OFF

サラウンドバックスピーカーを接続していないときに、サラウンドスピーカーから仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出すモードです。ON、AUTO、OFFのいずれかに設定します。入力信号の種類やリスニングモードの選択によってサラウンドスピーカーから仮想のサラウンドバックチャンネル音声が出る場合と出ない場合があります。詳細は次ページの表をご覧ください。また、入力信号がDTS 96/24のときは、バーチャルサラウンドバックモードの設定に関係なくサラウンドチャンネルから仮想のサラウンドバックチャンネル音声はでません。

- ON　：リスニングモードによってサラウンドスピーカーから仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出します。
- AUTO：6.1ch再生検出信号を含んだソースやリスニングモードによってサラウンドスピーカーから仮想のサラウンドバックチャンネル音声を創り出します。
- OFF　：サラウンドスピーカーから仮想のサラウンドバックチャンネル音声は出ません。

1 SB CH MODE

SB CH MODEボタンを押してバーチャルサラウンドバックチャンネルモードを選択する。

ボタンを押すたびに、ONとAUTOとOFFが切り換わります。

メモ

- DVD7.1ch入力モードを選んでいるときは切り換えができません。（➡46ページ）
- サラウンドスピーカーが無し（S＊）の設定のときは切り換えができません。（➡56ページ）

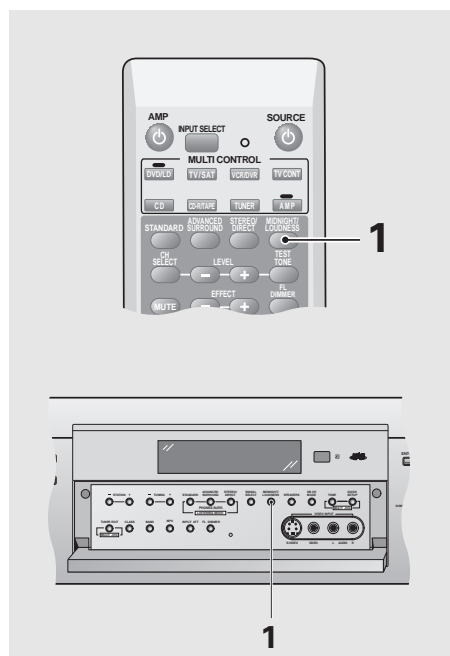
各リスニングモードにおけるサラウンドスピーカーからの仮想サラウンドバック音声出力

入力信号（ソース）	バーチャルサラウンドバックモード	STANDARD			ADVANCED SURROUND
		ソフトに忠実なデコード	PRO LOGIC II MOVIE PRO LOGIC II MUSIC PRO LOGIC	Neo:6 CINEMA Neo:6 MUSIC	すべてのモード共通
ドルビーデジタル サラウンドEX、DTS-ES （6.1chソース）	AUTO	○	−	−	○
	ON	○	−	−	○
ドルビーデジタル、DTS、 MPEG-2 AAC （4.1、5.1chソース等）	AUTO	✘	−	−	○
	ON	○	−	−	○
ドルビーデジタル、DTS、 （ステレオソース）	AUTO	−	✘	○	○
	ON	−	○	○	○
MPEG-2 AAC （ステレオソース）	AUTO	−	✘	−	○
	ON	−	○	−	○
PCM、アナログソース	AUTO	−	✘	○	○
	ON	−	○	○	○

○：サラウンドスピーカーから仮想サラウンドバック音声が出ます。
✘：サラウンドスピーカーから仮想サラウンドバック音声が出ません。
−：リスニングモードを選択できません。

便利な音声再生用機能

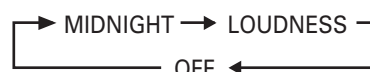
ミッドナイトリスニングモードで楽しむ

夜間など小音量で聴いていると、どうしても響きが少なくなったり、微小な音やセリフが聞こえなかったりします。ミッドナイトリスニングモードをＯＮにすると、小音量でも映画や音楽の情報を聞き漏らすことなくお楽しみいただけます。（各入力ごとにON/OFFを設定できます）

1

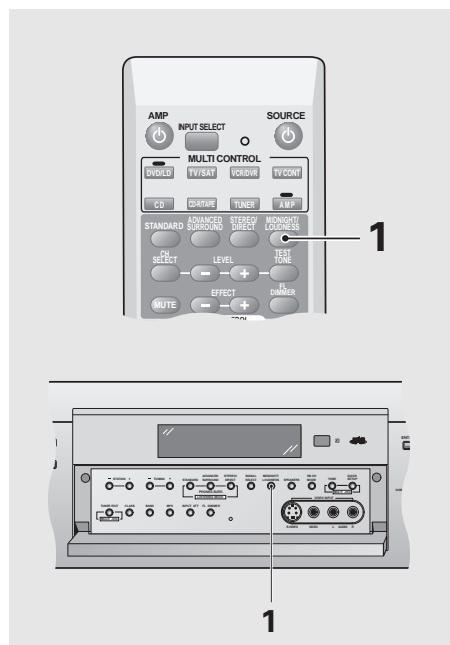
ミッドナイトリスニングモードをONにする。

MIDNIGHTインジケーターが点灯します。

ボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

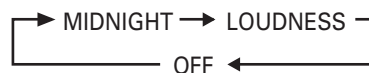
メモ

- 音量に合せてサラウンド効果も自動調整されます。
- DVD 7.1ch 入力モードでは､ミッドナイトリスニングモードは選択できません。
- ダイレクト再生モードのときにミッドナイトリスニングモードをONにすると､ダイレクト再生モードは自動的にOFFになります。
- DTS 96/24信号を入力しているときは操作できません。

小さな音でも音楽を聴き取りやすくする(ラウドネスモード)

ラウドネスモードを使用すると、低音域、高音域のレベルが上がり、小さな音でも音楽を聴き取りやすくできます。

1

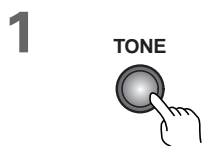
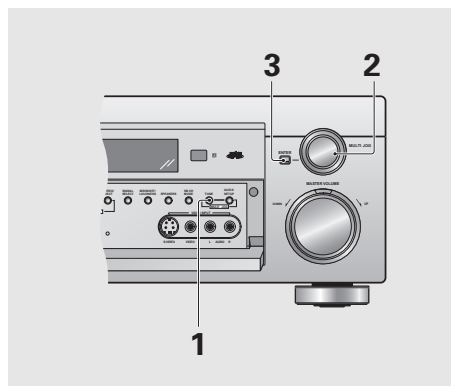
ラウドネスモードをONにする。

LOUDNESSインジケーターが点灯します。

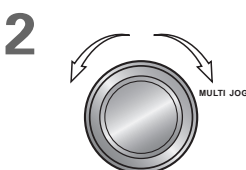
ボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

メモ

- DVD 7.1ch 入力モードでは､ラウドネスモードは選択できません。
- ダイレクト再生モードのときにラウドネスモードをONにすると､ダイレクト再生モードは自動的にOFFになります。
- DTS 96/24信号を入力しているときは操作できません。

低音、高音を調整する(トーンコントロール)

低音、高音の調節(トーンコントロール)は本体のTONEボタンとマルチジョグを使って調整できます。

1

低音(BASS)か高音(TREBLE)のどちらのトーンを調整するか選択する。

ボタンを押すたびに、低音(BASS)と高音(TREBLE)が切り換わります。

2

トーンを調整する。

トーンコントロールはそれぞれ±6dBの範囲内で2dBステップで調整できます。

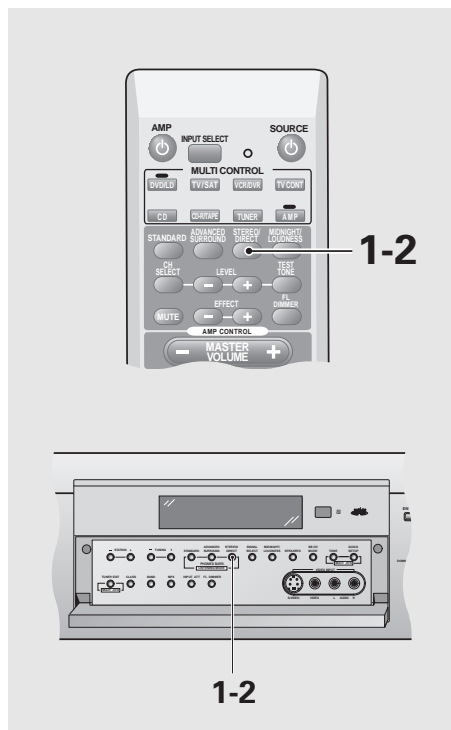
3

トーンを決定する。

メモ

- トーンコントロールはステレオ再生モードのときのみ有効です。その他のリスニングモードや、DVD7.1chアナログ入力、スピーカーシステムBを選んでいるときはトーンコントロールを使用することはできません。

ダイレクト再生モード

トーンコントロールやチャンネルレベルなど通さずにステレオ再生します。2 チャンネルソースを忠実に再生したいときはこのモードをONにします。CDなどのステレオソースを高音質でお楽しみ頂けます。

1

ステレオ再生モードにする。

ディスプレイにSTEREOと表示されます。

2

もう一度ボタンを押してダイレクト再生モードにする。

ボタンを押すたびに、ステレオ再生モードとダイレクト再生モードが切り換わります。

メモ

- トーンコントロールやその他のリスニングモードをONにすると、ダイレクト再生モードは自動的にOFFになります。

DVD 7.1chアナログ入力を再生する

DVDオーディオ対応のDVDプレーヤーや、外部デコーダーなどの5.1チャンネルまたは7.1チャンネルアナログ出力付き機器を接続して、5.1チャンネルまたは7.1チャンネルのサラウンド再生を楽しむことができます。DVD 7.1chアナログ入力の再生はDVD/LDの入力を選んでいるときのみ操作することができます。

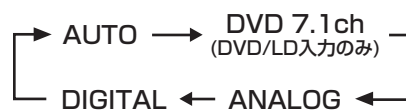
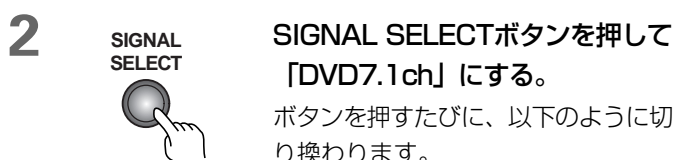
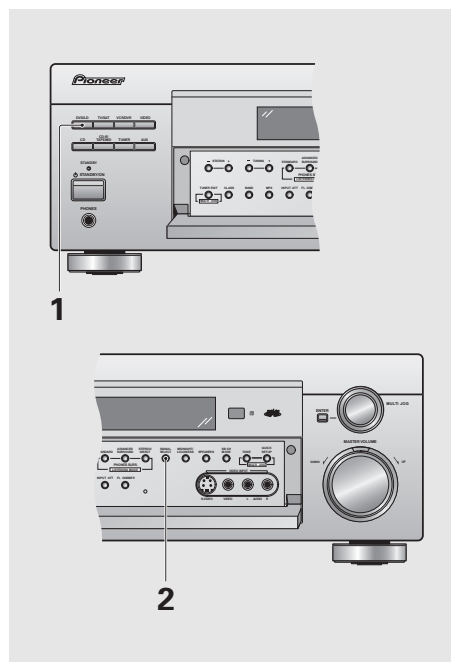
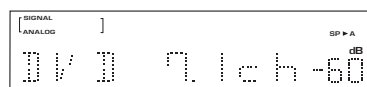
1

再生するソースをDVD/LDにする。

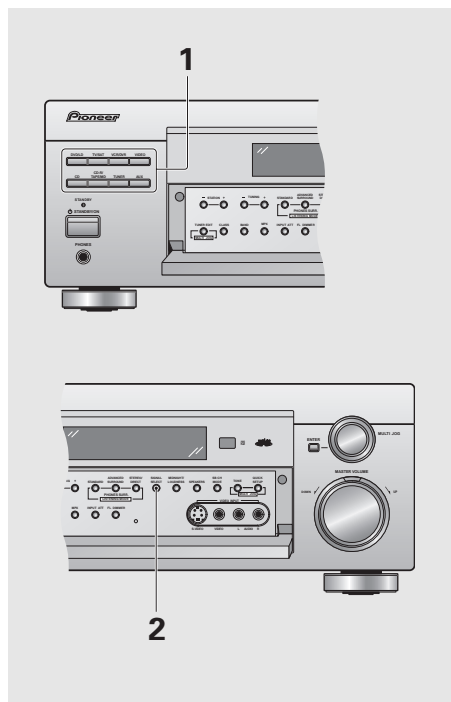
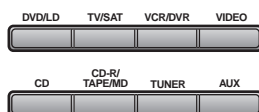
2

SIGNAL SELECT

SIGNAL SELECTボタンを押して「DVD7.1ch」にする。

ボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

7.1ch入力を選択したとき

- DVD 7.1ch入力のときは、STANDARDモード、ADVANCED SURROUNDモード、INPUT ATT、ダイレクト再生モード、トーンコントロール、ミッドナイトリスニングモード、ラウドネスモードの操作はできません。
- DVD7.1ch入力のときは、音量レベルと各チャンネルレベル以外の設定は本機ではできません。

本機を使った録音／録画

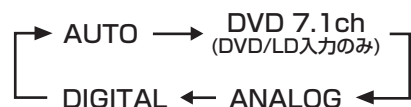
オーディオ機器からの音声を、本機の端子に接続された録音機器に録音することができます。
アナログ録音する場合は本機のリアパネルのCD-R/TAPE/MD端子またはVCR/DVR端子に録音機器を接続してください(➡27、30ページ)。デジタル録音する場合は本機のリアパネルのDIGITAL OUT端子に光デジタル入力端子を持つデジタル録音機器を接続し、DIGITAL IN端子に録音ソースのデジタル機器を接続してください(➡30ページ)。

1

録音するソースを選ぶ。

リモコンのMULTI CONTROLボタンまたはINPUT SELECTボタンでも選択することができます。

2

SIGNAL SELECT

アナログ録音するときはANALOGを、デジタル録音するときはDIGITALを選ぶ。

押すたびに、以下のように切り換わります。

3 **録音機器の録音を開始する。**

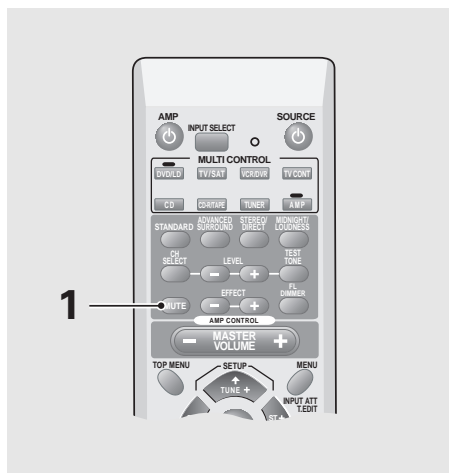
4 **録音するソースを再生する。**

メモ

- アナログ録音したいときはアナログ接続されている機器どうしの場合のみ録音することができます。デジタル録音の場合も、デジタル接続されている機器どうしのみ録音することができます。
- 録画を行うときは、同じタイプのコードで接続している機器どうしの場合のみ録画することができます。例えば、録画機器をSビデオケーブルで接続しているときは再生機器もSビデオケーブルで接続してください。
- 本機の音量、チャンネルレベル、トーンコントロール(TREBLE、BASS)、サラウンドの設定は、録音信号には効果がありません。
- 信号や録音機器によっては、デジタル出力はできてもコピーガードによりデジタル録音できないものがあります。この場合はアナログ接続で録音してください。

その他の機能

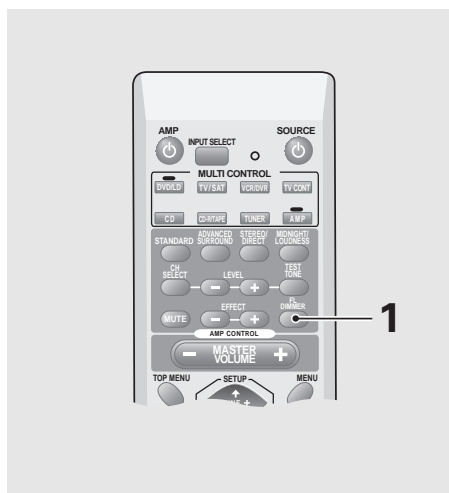
消音（MUTE）

ボタン1つで一時的に音を消す（ミュートする）ことができます。

1

MUTEボタンを押す。

一時的に音が消えます。もう一度押すと、元の音量に戻ります。音量＋／－ボタンでもミュートを解除します。

表示部の明るさ調整（FL DIMMER）

表示部の明るさを4段階に調整することができます。

1

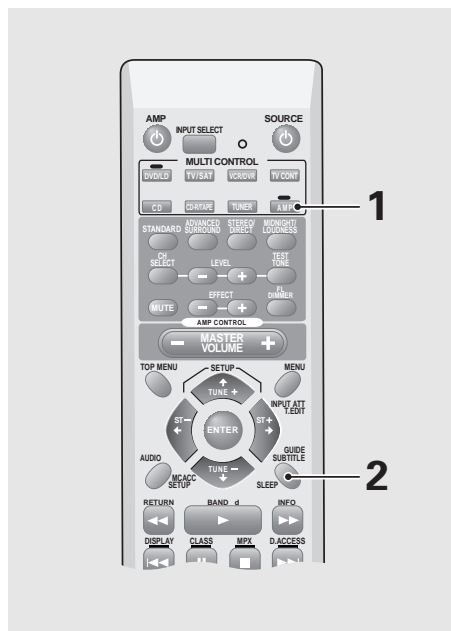
好みの明るさに調整する。

押すたびに表示部の明るさが「明るい」「少し暗い」「暗い」「OFF」の4段階で切り換わります。

- OFFのときはインジケーターも消灯し、音量レベル表示のみがうっすらと点灯します。
- 設定した明るさに関わらず、何かの操作をしたときは明るく点灯し、2秒後に元の明るさに戻ります。

スリープタイマーの設定(SLEEP)

設定した時間が経過すると自動的に電源を切ることができます。

1

AMPボタンを押してリモコンをアンプ操作モードにする。

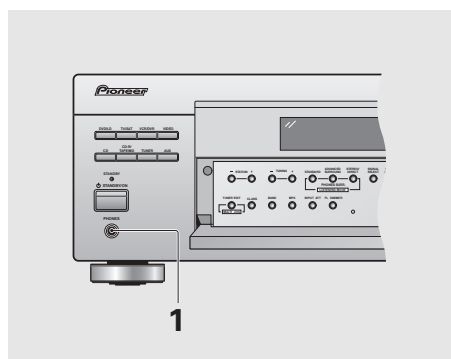
2

SLEEPボタンを押してタイマーを設定する。

押すたびにスリープタイマーの時間が「90 分後」「60 分後」「30 分後」「OFF」の4 段階で切り換わります。
スリープタイマーが設定されるとSLEEPインジケーターが点灯します。

メモ

・スリープタイマーを設定した後にスリープボタンを1 回押すことで、現在の残り時間が表示されます。表示中にもう一度スリープボタンを押すとタイマーの時間が切り換わります。

ヘッドホンを使う

1 **ヘッドホンプラグをヘッドホン端子に差し込む。**

・差し込むとスピーカーから音は出なくなります。
・リスニングモードは「STEREO」と「PHONES SURROUND」のみの選択になります。

メモ

・ヘッドホンを差し込んでいるときにADVANCED SURROUNDボタンを押すと「PHONES SURROUND」になります。「PHONES SURROUND」モードでは仮想立体音響を再現し、マルチチャンネルサラウンド再生時の臨場感をお楽しみ頂けます。

細やかな設定（システムセットアップ）

本機では、オートセットアップ(➡13ページ)や簡単設定(QUICK SETUP)(➡17ページ)でサラウンドに関する設定を行うことができます。
VSX-D912でオートセットアップを行ったときは、次ページの「細やかな設定の設定内容」にあります全ての項目を行う必要はありません。必要に応じて設定項目を選び、設定してください(詳しくは以下の表をご覧ください)。
VSX-D812で簡単設定(QUICK SETUP)を行ったときは、次ページの「細やかな設定の設定内容」にあるサラウンドに関する設定を行いますと、より快適なリスニング環境をつくり出すことができます(詳しくは以下の表をご覧ください)。

VSX-D912の場合

必要に応じて以下の設定を行ってください。
- クロスオーバー周波数の設定
- LFEアッテネータの設定
- ダイナミックレンジコントロールの設定
- デュアルモノの設定
- コンポーネントビデオ入力の設定
- マルチチャンネルサラウンドバック入力1ch/2ch設定
- デジタル入力の設定

オートセットアップを行うことをお薦めします。（➡13ページ）

VSX-D812の場合

START

QUICK SETUPを行った
- Yes → おおまかなサラウンドの設定は設定済みですが、より細やかにリスニング環境を設定したい。
  - Yes →
  - No →
- No → サラウンドの設定は必要最低限で簡単に済ませたい。
  - Yes →
  - No →

以下の設定を行ってください。
- スピーカーの設定
- サラウンドバックスピーカーの設定
- サブウーファーの設定
- クロスオーバー周波数の設定
- LFEアッテネータの設定
- フロント左スピーカーまでの距離の設定
- センタースピーカーまでの距離の設定
- フロント右スピーカーまでの距離の設定
- サラウンド右スピーカーまでの距離の設定
- サラウンドバックスピーカーまでの距離の設定
- サラウンド左スピーカーまでの距離の設定
- サブウーファーまでの距離の設定
- ダイナミックレンジコントロールの設定

↓

必要に応じて以下の設定を行ってください。
- デュアルモノの設定
- コンポーネントビデオ入力の設定
- マルチチャンネルサラウンドバック入力1ch/2ch設定
- デジタル入力の設定

必要に応じて以下の設定を行ってください。
- デュアルモノの設定
- コンポーネントビデオ入力の設定
- マルチチャンネルサラウンドバック入力1ch/2ch設定
- デジタル入力の設定

簡単設定（QUICK SETUP）を行ってください。（➡17ページ）

↓

必要に応じて以下の設定を行ってください。
- デュアルモノの設定
- コンポーネントビデオ入力の設定
- マルチチャンネルサラウンドバック入力1ch/2ch設定
- デジタル入力の設定

細やかな設定の設定内容

以下の「細やかな設定」を行った後に、MCACCセットアップ、オートセットアップまたは簡単設定を行うとそれらの値が優先されますのでご注意ください。工場出荷時の設定は55ページをご覧ください。

設定項目について

スピーカーの設定　（➡56ページ）

各スピーカー（サラウンドバックスピーカー以外）の有り/無し、ならびに低音域をそのスピーカーで再生するかどうかを設定します。

大（L）　：低音域（100Hz以下）を再生する能力が十分あるスピーカーを接続し、低音域をそのスピーカーで再生する場合。目安はコーンサイズ（振動板の口径）が約12cm以上です。
小（S）　：低音域を再生する能力がないスピーカーを接続し、そのチャンネルの低音域は、大（L）の設定をしたスピーカーやサブウーファーで再生する場合。目安はコーンサイズ（振動板の口径）が約12cm未満です。
無し（ ＊ ）　：接続しない場合。（そのチャンネルの音声は、ほかのスピーカーで再生されます）

- サブウーファーを接続しない場合は、フロントスピーカーを大（L）に設定しないと低音が損なわれます。

サラウンドバックスピーカーの設定　（➡57ページ）

サラウンドバックスピーカーのサイズ（大/小または無し）を設定します。また、サラウンドバックスピーカー端子にサブウーファーを接続する場合は、ここで「SB SW」を選択します。このとき次ページのサブウーファーの設定が「YES」でないと「SB SW」を選択することはできません。

大（L）　：低音域（100Hz以下）を再生する能力が十分あるスピーカーを接続し、低音域をそのスピーカーで再生する場合。目安はコーンサイズ（振動板の口径）が約12cm以上です。
小（S）　：低音域を再生する能力がないスピーカーを接続し、そのチャンネルの低音域は、大（L）の設定をしたスピーカーやサブウーファーで再生する場合。目安はコーンサイズ（振動板の口径）が約12cm未満です。
SB SW　：サラウンドバックスピーカー端子にサブウーファーを接続する場合の設定です。
無し（ ＊ ）　：接続しない場合。（そのチャンネルの音声は、ほかのスピーカーで再生されます）

サブウーファーの設定 （➡58ページ）

サブウーファー（低音域を専門に受け持つスピーカー）の有り/無し/プラスを設定します。

YES　：サブウーファーを接続する場合。
このときサブウーファーからはLFE成分（超低域信号成分）や「スピーカーの設定」で小（S）に設定したチャンネルの低音域が出力されます。ただし、FL–CS–SLと設定したときのセンターチャンネルの低音域はフロントスピーカーから出力されます。

PLUS　：サブウーファーを接続し常にサブウーファーから音を出したい場合。
このときサブウーファーからは「ON」に設定したときと同じ信号に加えて、大（L）に設定したチャンネルの低音域も出力されます。これにより、大に設定したチャンネルの低音域はそのチャンネルのスピーカーとサブウーファーの両方から出力されることになります。

NO　：サブウーファーを接続しない場合。
低音域は他のスピーカーで再生されます。（スピーカーの設定によって低音域を再生するスピーカーは変わります）

- 「スピーカーの設定」でフロントスピーカーを小（S）に設定していると、サブウーファーはYESに固定され、NOやPLUSを選ぶことはできません。
- サブウーファーを接続しない場合はフロントスピーカーを大（L）に設定して下さい。
大（L）に設定しないと低音が損なわれます。

クロスオーバー周波数の設定 （➡58ページ）

「スピーカーの設定」で小（S）に設定されたスピーカーがあるとき、何Hz以下の低音域を他のスピーカーで再生するのかを設定します。

LFEアッテネータの設定 （➡59ページ）

ドルビーデジタル信号やDTS信号に含まれるLFE成分（超低域信号成分）の信号レベルが大きすぎて、スピーカーから出る音に歪みが生じてしまう場合に、その信号レベルをアッテネート（減衰）する量を設定することができます。

0 dB　：収録されているレベルのまま再生します。
10 dB　：レベルを10dBアッテネート（減衰）します。
LFE ATT＊＊(OFF)　：LFE成分の音が出なくなります。

フロント左スピーカーまでの距離の設定 （➡59ページ）

リスニングポジション（視聴位置）からフロント左スピーカーまでの距離を設定します。

それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

センタースピーカーまでの距離の設定 （➡60ページ）

リスニングポジション（視聴位置）からセンタースピーカーまでの距離を設定します。

それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

フロント右スピーカーまでの距離の設定 （➡60ページ）

リスニングポジション（視聴位置）からフロント右スピーカーまでの距離を設定します。

それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

サラウンド右スピーカーまでの距離の設定　（➡61ページ）

リスニングポジション(視聴位置)からサラウンド右スピーカーまでの距離を設定します。

それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

サラウンドバックスピーカーまでの距離の設定　（➡61ページ）

リスニングポジション(視聴位置)からサラウンドバックスピーカーまでの距離を設定します。

それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

サラウンド左スピーカーまでの距離の設定　（➡62ページ）

リスニングポジション(視聴位置)からサラウンド左スピーカーまでの距離を設定します。

それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

サブウーファーまでの距離の設定　（➡62ページ）

リスニングポジション(視聴位置)からサブウーファーまでの距離を設定します。

サブウーファーまでの距離を入力することによって、低音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。

ダイナミックレンジコントロールの設定　（➡63ページ）

ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さな音からどのくらい大きな音までをきちんと(小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに)再生できるかを数値(dB)で表わしたものです。ダイナミックレンジコントロールとは、このダイナッミックレンジを圧縮する機能です。音量を下げて映画を楽しむときなどは、ダイナミックレンジを圧縮すると微小な音も聞きやすくなり、映画をより一層楽しむことができます。

OFF　：ダイナミックレンジを圧縮せずにソフトに収録されたまま再生します。
MAX　：ダイナミックレンジを最も圧縮します。
MID　：ダイナミックレンジを少し圧縮します。

- この機能の効果が得られるのは、ダイナミックレンジコントロール対応のドルビーデジタルソフトだけですが、他のソフトを小音量で楽しむときにはミッドナイトリスニングモード(➡44ページ）が効果的です。

デュアルモノの設定 （➡63ページ）

1+1デュアルモノラル信号とは、モノラルの音声チャンネルを2つもつデジタル信号のことで、ここではデュアルモノラル信号が入力されたときにどちらの音声をどのスピーカーから出力するかを設定します。この設定は例えば以下のような1+1デュアルモノラルフォーマットのソースにのみ有効です。

- BS デジタル放送のモノラルの二か国語放送や音声多重放送など
  ………… ステレオの二か国語放送などはデュアルモノラルとは異なるフォーマットになります。
- 2 か国語放送などを DVD レコーダーのデュアルモノラルモードで録画したもの
  ………… 録画モードの名称は機器によって異なります。
  詳しくは DVD レコーダーの取扱説明書をご覧ください。

ch1 ： チャンネル1の音声のみをセンタースピーカーから出力する場合。（スピーカーの設定やリスニングモードの選択によっては左右のフロントスピーカーからチャンネル1の音声が出力されます）
ch2 ： チャンネル2の音声のみをセンタースピーカーから出力する場合。（スピーカーの設定やリスニングモードの選択によっては左右のフロントスピーカーからチャンネル2の音声が出力されます）
Lch1.Rch.2： チャンネル1の音声を左のフロントスピーカーから、チャンネル2の音声を右のフロントスピーカーから出力する場合。

コンポーネントビデオ入力の設定 （➡64ページ）

工場出荷時と同じ接続（リアパネル表記と同じ機器を接続）をしたときはこの設定を変える必要はありません。ここでは、コンポーネントビデオ入力端子に接続した機器を、どの入力ファンクションで再生するかを設定します。どの機器をどこのコンポーネントビデオ入力端子に接続したかを確認しておいてください。

- 工場出荷時、COMPONENT VIDEO 1 は DVD/LD に、COMPONENT VIDEO 2 は TV/SAT に設定されています。

マルチチャンネルサラウンドバック入力1ch/2ch設定 （➡65ページ）

「DVD 7.1chアナログ接続」（➡27ページ）を行っていないときはこの設定を変える必要はありません。マルチチャンネル入力におけるサラウンドバック入力端子の接続が1chか2chかを設定します。
再生機器のサラウンドバック出力端子が1つのときは「SB 1ch IN」を選択し、再生機器のサラウンドバック出力端子がLとRの2つあるときは「SB 2ch IN」を選択します。

デジタル入力の設定 （➡66ページ）

工場出荷時と同じ接続（リアパネル表記と同じ機器を接続）をしたときはこの設定を変える必要はありません。ここでは、デジタル入力端子に接続したデジタル機器を、どの入力ファンクションで再生するかを設定します。どのデジタル機器をどこのデジタル入力端子に接続したかを確認しておいてください。

- 工場出荷時、COAX 1 は CD に、COAX 2 は CD-R/TAPE/MD に、OPT 1 は DVD/LD に、OPT 2 は TV/SAT に設定されています。

工場出荷時の設定

設定項目	初期値	参照ページ
スピーカーの設定	サブウーファーの自動検出がONのときは、、 フロント、センター、サラウンド、全て小（S） サブウーファーの自動検出がOFFのときは、、 フロントは大（L）、センター、サラウンドは小（S）	56ページ
サラウンドバックスピーカーの設定	小（S）	57ページ
サブウーファーの設定	自動検出	58ページ
クロスオーバー周波数	100Hz	58ページ
LFEアッテネータ	0dB	59ページ
フロント左スピーカーまでの距離	2.0m	59ページ
センタースピーカーまでの距離	2.0m	60ページ
フロント右スピーカーまでの距離	2.0m	60ページ
サラウンド右スピーカーまでの距離	2.0m	61ページ
サラウンドバックスピーカーまでの距離	2.0m	61ページ
サラウンド左スピーカーまでの距離	2.0m	62ページ
サブウーファーまでの距離	2.0m	62ページ
ダイナミックレンジコントロール	OFF	63ページ
デュアルモノの設定	ch1	63ページ
マルチチャンネルサラウンドバック 入力1ch/2ch設定	2ch IN	65ページ
シグナルセレクト	AUTO	37ページ
スピーカー出力レベル	フロント 左/右（0dB）、センター（0dB）、サラウンド 左/右（0dB） サブウーファー（0dB）、サラウンド バック左/右（0dB）	67ページ
表示部の明るさ調整（FL DIMMER）	明るい	48ページ
入力	DVD/LD	35ページ
リスニングモード	STEREO (DVD/LD入力のみSTANDARD)	40ページ
音量	−−−（最小）	35ページ

細やかな設定

各項目についての詳しい説明は51ページから55ページをご覧ください。

スピーカーの設定

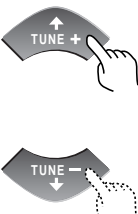
ここで設定の変更を行った時点で、その設定がMCACCのオートセットアップ/マニュアルセットアップまたは簡単設定よりも優先されます。

1 本機の電源を入れる。

2 AMPボタンを押してリモコンをアンプ操作モードにする。

AMP

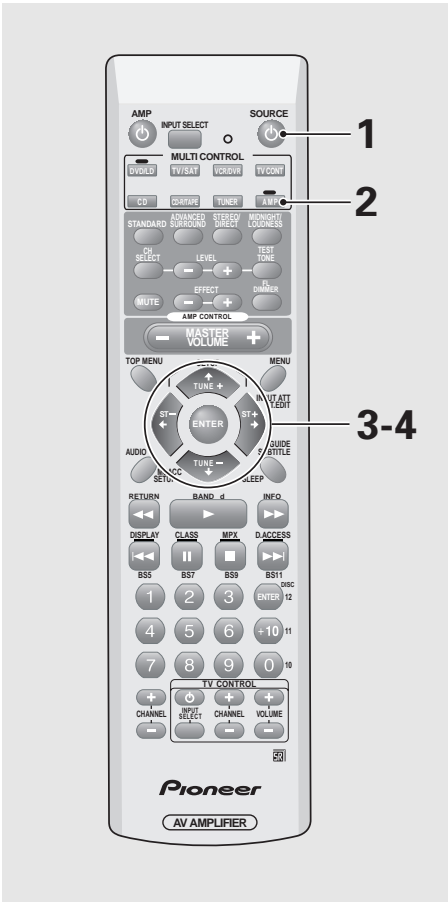
3 スピーカーの設定モードを選ぶ。

ST− ST＋

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

4 スピーカー設定の組み合わせを選ぶ。

TUNE ＋
TUNE −

押すたびに以下の13通りに切り換わります。

		フロントスピーカー（F）	センタースピーカー（C）	サラウンドスピーカー（S）
①	FL-CS-SS -80 dB	大(L)	小(S)	小(S)
②	FL-CS-S∗ -80 dB			無し（ ∗ ）
③	FL-C∗-SL -80 dB		無し（ ∗ ）	大(L)
④	FL-C∗-SS -80 dB			小(S)
⑤	FL-C∗-S∗ -80 dB			無し（ ∗ ）
⑥	FS-CS-SS -80 dB	小(S)	小(S)	小(S)
⑦	FS-CS-S∗ -80 dB			無し（ ∗ ）
⑧	FS-C∗-SS -80 dB		無し（ ∗ ）	小(S)
⑨	FS-C∗-S∗ -80 dB			無し（ ∗ ）
⑩	FL-CL-SL -80 dB	大(L)	大(L)	大(L)
⑪	FL-CL-SS -80 dB			小(S)
⑫	FL-CL-S∗ -80 dB			無し（ ∗ ）
⑬	FL-CS-SL -80 dB		小(S)	大(L)

メモ

- フロントスピーカーを小(S)に設定するときは、必ず低音域を再生するためにサブウーファーを接続して、「サブウーファーの設定」を「YES」にしてください。
- サブウーファーを接続しない場合は、フロントスピーカーを大(L)に設定しないと低音が損なわれます。
- 3分間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

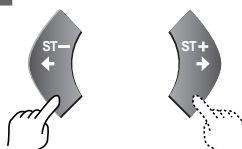
各項目についての詳しい説明は51ページから55ページをご覧ください。

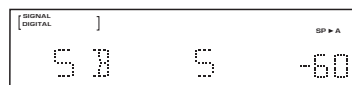
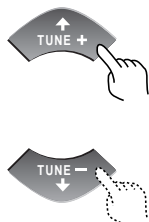
サラウンドバックスピーカーの設定

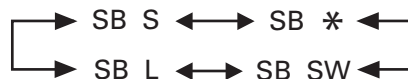
ここで設定の変更を行った時点で、その設定がMCACCのオートセットアップ/マニュアルセットアップまたは簡単設定よりも優先されます。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 56ページの手順1〜2の操作を行う。

2

サラウンドバックスピーカーの設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

サラウンドバックスピーカーのサイズを選ぶ。

押すたびに以下のように切り換わります。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

- 「スピーカーの設定」でサラウンドスピーカーが小(S)に設定されている場合は、ここで「SB L」を選択することはできません。
- 「スピーカーの設定」でサラウンドスピーカーが無し(＊)に設定されている場合は、ここで「SB SW」または「SB ＊」以外を選択することはできません。
- 「SB SW」は「サブウーファーの設定」がNOのときは選択することができません。
- 3分間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

細やかな設定

各項目についての詳しい説明は51ページから55ページをご覧ください。

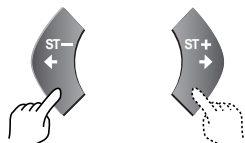
サブウーファーの設定

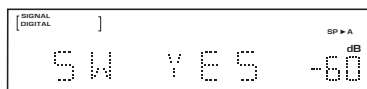
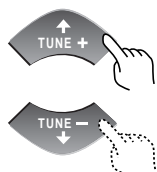
ここで設定の変更を行った時点で、その設定がMCACCのオートセットアップ/マニュアルセットアップまたは簡単設定よりも優先されます。

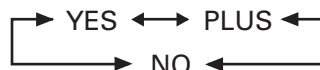
メモ

- 「スピーカーの設定」でフロントスピーカーが小(S)に設定されている場合、サブウーファーは「YES」に固定され、NOやPLUSを選ぶことはできません。
- 「YES」に設定していてもスピーカーの設定、リスニングモードの選択、入力信号の種類によってはサブウーファーから音が出ないことがあります。
- 3分間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 **56ページの手順1〜2の操作を行う。**

2 **サブウーファーの設定モードを選ぶ。**

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3 **YESまたはPLUS、NOを選ぶ。**

押すたびに以下のように切り換わります。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

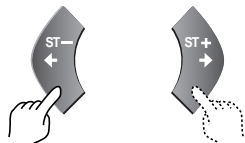
設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

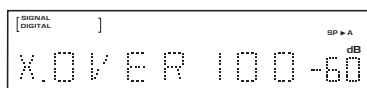
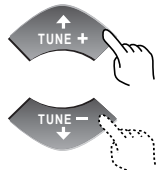
クロスオーバー周波数の設定

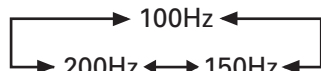
メモ

- それぞれのスピーカーの性能によりますが、全て小さいスピーカーを使用している場合は200Hzに設定することをお勧めします。
- 「スピーカーの設定」でフロント、センター、サラウンド、サラウンドバックスピーカーのいずれかが小(S)に設定されているときのみ、クロスオーバー周波数は設定できます。
- 3分間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 **56ページの手順1〜2の操作を行う。**

2 **クロスオーバー周波数の設定モードを選ぶ。**

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3 **クロスオーバー周波数を選ぶ。**

押すたびに以下のように切り換わります。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

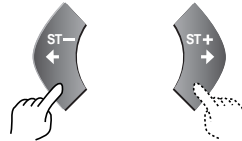
設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

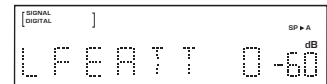
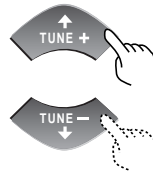
各項目についての詳しい説明は51ページから55ページをご覧ください。

LFEアッテネータの設定

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 56ページの手順1〜2の操作を行う。

2

LFEアッテネータの設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

アッテネート(減衰)量 を選ぶ。

押すたびに以下のように切り換わります。

- すべてのアッテネート(減衰)量で試し、最適な状態に設定することをおすすめします。
- 3分間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン を押します。

フロント左スピーカーまでの距離の設定

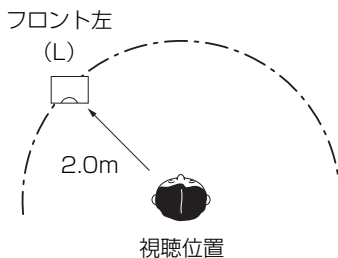
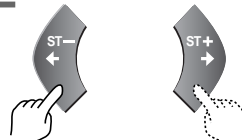
ここで設定の変更を行った時点で、その設定がMCACCのオートセットアップ/マニュアルセットアップまたは簡単設定よりも優先されます。

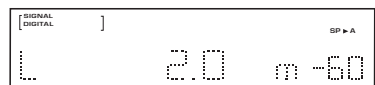
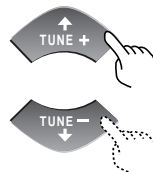
メモ

- 3分間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 56ページの手順1〜2の操作を行う。

2 ST－ ST＋

フロント左スピーカーまでの距離の設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

フロント左スピーカーまでの距離を設定する。

0.1〜9mの間を0.1m間隔で設定できます。

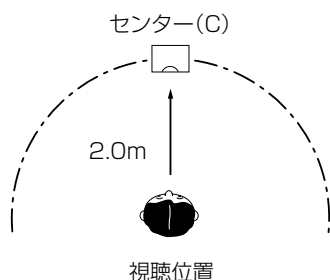
続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン を押します。

細やかな設定

各項目についての詳しい説明は51ページから55ページをご覧ください。

センタースピーカーまでの距離の設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定がMCACCのオートセットアップ/マニュアルセットアップまたは簡単設定よりも優先されます。

メモ

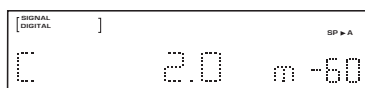
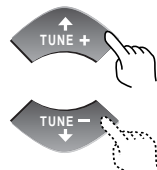
- 「スピーカーの設定」で、センタースピーカーが無し(＊)に設定されている場合は設定できません。
- 3分間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 **56ページの手順1～2の操作を行う。**

2

センタースピーカーまでの距離の設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

センタースピーカーまでの距離を設定する。

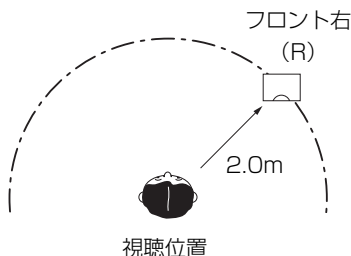
0.1～9mの間を0.1m間隔で設定できます。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

フロント右スピーカーまでの距離の設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定がMCACCのオートセットアップ/マニュアルセットアップまたは簡単設定よりも優先されます。

メモ

- 3分間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 **56ページの手順1～2の操作を行う。**

2 **フロント右スピーカーまでの距離の設定モードを選ぶ。**

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

フロント右スピーカーまでの距離を設定する。

0.1～9mの間を0.1m間隔で設定できます。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン を押します。

各項目についての詳しい説明は51ページから55ページをご覧ください。

サラウンド右スピーカーまでの距離の設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定がMCACCのオートセットアップ/マニュアルセットアップまたは簡単設定よりも優先されます。

視聴位置

2.0m

サラウンド右
（RS）

メモ

- 「スピーカーの設定」で、サラウンドスピーカーが無し（ ＊ ）に設定されている場合は設定できません。
- 3分間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 56ページの手順1～2の操作を行う。

2

サラウンド右スピーカーまでの距離の設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

サラウンド右スピーカーまでの距離を設定する。

0.1～9mの間を0.1m間隔で設定できます。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン を押します。

サラウンドバックスピーカーまでの距離の設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定がMCACCのオートセットアップ/マニュアルセットアップまたは簡単設定よりも優先されます。

視聴位置

2.0m　2.0m

サラウンドバック左（SBL）　サラウンドバック右（SBR）

メモ

- 「サラウンドバックスピーカーの設定」で、サラウンドバックスピーカーが無し（ ＊ ）またはSWに設定されている場合は設定できません。
- 3分間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 56ページの手順1～2の操作を行う。

2

サラウンドバックスピーカーまでの距離の設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

サラウンドバックスピーカーまでの距離を設定する。

0.1～9mの間を0.1m間隔で設定できます。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン を押します。

細やかな設定

各項目についての詳しい説明は51ページから55ページをご覧ください。

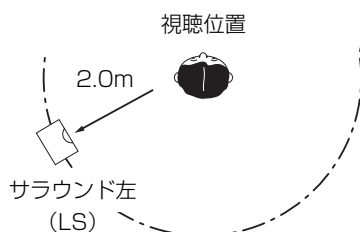
サラウンド左スピーカーまでの距離の設定

ここで設定の変更を行った時点で、その設定がMCACCのオートセットアップ/マニュアルセットアップまたは簡単設定よりも優先されます。

視聴位置

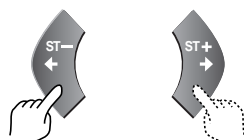
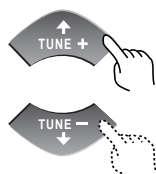
2.0m

サラウンド左
（LS）

メモ

- 「スピーカーの設定」で、サラウンドスピーカーが無し（ ＊ ）に設定されている場合は設定できません。
- 3分間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 **56ページの手順1～2の操作を行う。**

2

サラウンド左スピーカーまでの距離の設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

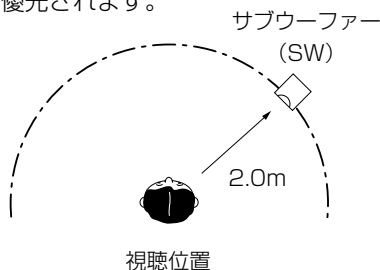
サラウンド左スピーカーまでの距離を設定する。

0.1～9mの間を0.1m間隔で設定できます。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン を押します。

サブウーファーまでの距離の設定

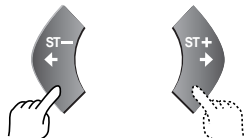
ここで設定の変更を行った時点で、その設定がMCACCのオートセットアップ/マニュアルセットアップまたは簡単設定よりも優先されます。

視聴位置

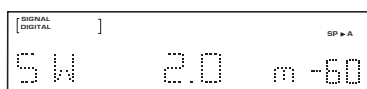
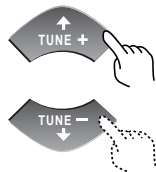
メモ

- 「サブウーファーの設定」で、サブウーファーが無し（NO）に設定されている場合は設定できません。
- サブウーファーとフロントスピーカーは視聴位置からほぼ同じ距離になるように設置してください。
- 3分間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 **56ページの手順1～2の操作を行う。**

2

サブウーファーまでの距離の設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

サブウーファーまでの距離を設定する。

0.1～9mの間を0.1m間隔で設定できます。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

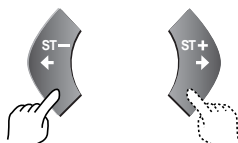
設定モードを終了するには決定ボタン を押します。

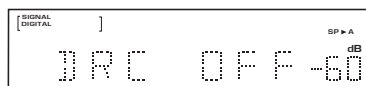
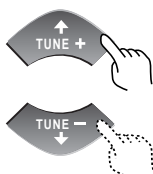
各項目についての詳しい説明は51ページから55ページをご覧ください。

ダイナミックレンジコントロールの設定

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 56ページの手順1～2の操作を行う。

2

ダイナミックレンジコントロールの設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

OFF、MIDまたはMAXを選ぶ。

押すたびに以下のように切り換わります。

メモ

- 小さい音量で楽しむ場合は、MAXに設定することをおすすめします。
- 3分間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

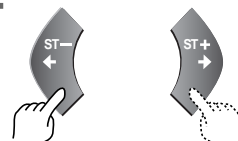
続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

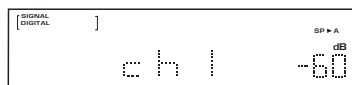
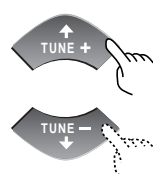
設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

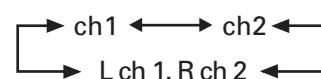
デュアルモノの設定

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 56ページの手順1～2の操作を行う。

2

デュアルモノの設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

再生するスピーカーと音声チャンネルを設定する。

押すたびに以下のように切り換わります。

メモ

- 3分間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

細やかな設定

各項目についての詳しい説明は51ページから55ページをご覧ください。

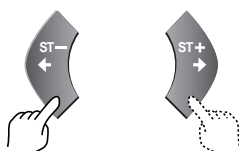
コンポーネントビデオ入力の設定

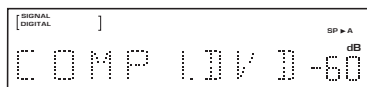
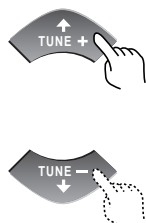
工場出荷時と同じ接続（リアパネル表記と同じ機器を接続）をしたときはこの設定を変える必要はありません。ここでは、コンポーネントビデオ入力端子に接続した機器を、どの入力ファンクションで再生するかを設定します。どの機器をどこのコンポーネントビデオ入力端子に接続したかを確認しておいてください。

メモ 工場出荷時、コンポーネントビデオ入力❶（COMP1）はDVDに、コンポーネントビデオ入力❷（COMP2）はTV/SATに設定されています。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 56ページの手順1～2の操作を行う。

2

コンポーネントビデオ入力❶の設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

コンポーネントビデオ入力❶の設定を切り換える。

押すたびに以下の様に切り換わります。

4 **コンポーネントビデオ入力❷も設定を切り換える必要があれば手順2へ戻り「COMP2.TV」を選んで手順3へ進み割り当てたい入力に設定します。**

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

- 3分間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

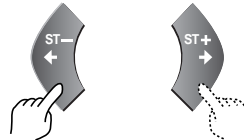
各項目についての詳しい説明は51ページから55ページをご覧ください。

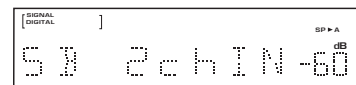
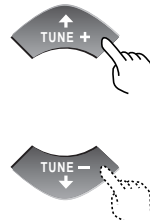
マルチチャンネルサラウンドバック入力1ch/2ch設定

「DVD 7.1chアナログ接続」(➡27ページ)を行っていないときはこの設定を変える必要はありません。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

1 56ページの手順1〜2の操作を行う。

2

マルチチャンネルサラウンドバック1ch/2ch設定モードを選ぶ。

押すたびに各項目の設定モードに切り換わり、現在の設定内容が表示されます。

3

入力が1chか2chかを切り換える。

押すたびに「SB 1ch IN」と「SB 2ch IN」が切り換わります。

続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

設定モードを終了するには決定ボタン ENTER を押します。

メモ

- 3分間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。
- 「SB 1ch IN」に設定したときは、本機のDVD7.1CH INPUTのサラウンドバック端子のR ch側に接続します。

各項目についての詳しい説明は51ページから55ページをご覧ください。

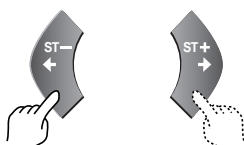
デジタル入力の設定

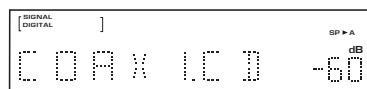
工場出荷時と同じ接続(リアパネル表記と同じ機器を接続)をしたときはこの設定を変える必要はありません。ここでは、デジタル入力端子に接続したデジタル機器を、どの入力ファンクションで再生するかを設定します。どのデジタル機器をどこのデジタル入力端子に接続したかを確認しておいてください。

メモ 工場出荷時、同軸デジタル入力1（COAX1）はCDに、同軸デジタル入力2（COAX2）はCD-R/TAPE/MDに、光デジタル入力1（OPT1）はDVD/LDに、光デジタル入力2（OPT2）はTV/SATに設定されています。

他の項目の設定操作から続けて行うときは手順2から始めます。

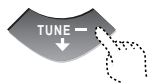
1 **56ページの手順1～2の操作を行う。**

2

同軸デジタル入力 1 の設定モードを呼び出す。

ディスプレイを下記の状態にします。

3

同軸デジタル入力 1 を設定する。

例えばＤＶＤを接続している場合、「DVD」に設定します。

押すたびに以下の様に切り換わります。

4 **同軸デジタル入力 2 と光デジタル入力の 1 、 2 も設定を切り換える必要があれば手順2へ戻り、切り換える入力を選んで手順3へ進み割り当てたい入力に設定します。**

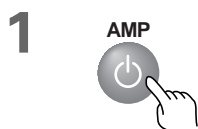
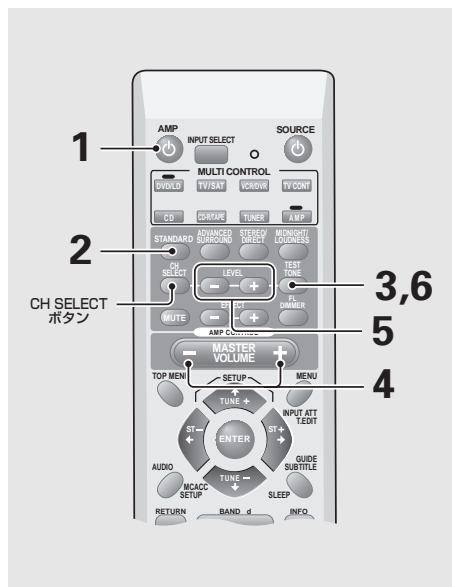
続けて他の項目の設定を行うときは、各項目の設定方法の手順2から始めます。

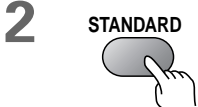
設定モードを終了するには決定ボタン を押します。

メモ

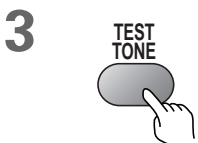
- 同軸デジタル入力(COAX1、2)と光デジタル入力(OPT1、2)はいずれも同じ入力を割り当てることはできません(デジタル入力の設定で２つ以上のデジタル端子を同じ入力切換に設定した場合、あとから設定したデジタル入力が優先され、前に設定されていたデジタル入力はオフになります)。
- デジタル入力の設定ができる入力切換はDVD/LD、TV/SAT、CD、CD-R/TAPE/MD、VCR/DVRです。フロントパネルにある光入力端子についてはVIDEOに固定されていますので変更することはできません（VSX-D912のみ）。

スピーカー出力レベル(各チャンネルの音量レベル)の調整

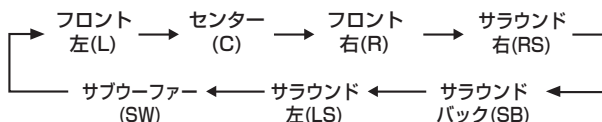
システムセットアップの設定が終わりましたら、以下の手順で各チャンネルの音量レベルを合わせてください。
ここで調整されたレベルは「STANDARD」と「ADVANCED SURROUND」モードに反映されます。
オートセットアップを行った場合は自動で高精度にスピーカー出力レベルが調整されますので、ここでの設定は必要ありません。

1 AMP

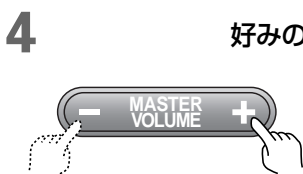
本機の電源を入れる。

2 STANDARD

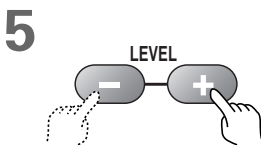
リスニングモードをSTANDARDにする。

3

TEST TONEボタンを押す。

テストトーン(ザーという音)がスピーカーの設定(➡56、57ページ)で有りに設定されているスピーカーからのみ以下の順番で出力されます。(手順4へお進みください)

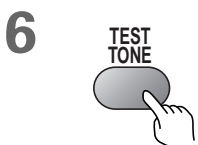
フロント左(L) → センター(C) → フロント右(R) → サラウンド右(RS) → サラウンドバック(SB) → サラウンド左(LS) → サブウーファー(SW) → フロント左(L)

またはCH SELECTボタンを押す。

テストトーンは出力されませんが、押すごとに各チャンネルのレベル調整モードになります。(選択できるチャンネルはスピーカーの設定(➡56、57ページ)やリスニングモードの選択(➡40ページ)によってかわります)

4

好みの音量に調整する。

5 LEVEL

テストトーンが出力されているチャンネルのレベルを調整する。

各スピーカーからの音が同じ大きさに聴こえるように調整してください。チャンネルレベルは±10dBの範囲で調整できます。

6

TEST TONEボタンを押す。

テストトーンが止まり、レベル調整を終了します。

メモ

- 工場出荷時は、各チャンネルとも0 dBに設定されています。
- CH SELECTボタンを押して各チャンネルのレベル調整モードに入った場合、10秒間なにも操作がないときは調整モードは終了します。
- CH SELECTボタンを押して各チャンネルのレベル調整を行う場合は「STANDARD」、「STEREO/DIRECT」、「各ADVANCED SURROUND」、「DVD7.1ch」の各モードそれぞれにレベルを設定することができます。
- サブウーファーのテストトーンは、周波数が低いので実際のレベルより小さく聞こえます。
- サブウーファーの調整は音楽や映画ソースなどを実際に使って適切な値に調整してください。
- サブウーファーのレベルはできるだけサブウーファー側で行い、本機での調整は補助としてお使いください。
- STEREO/DIRECTとDVD7.1chモードでは1dB間隔で、その他のモードでは0.5dB間隔で調整することができます。

ホームシアター入門
各部の名称
接続
基本操作
いろいろな使い方
設定
ラジオ
リモコン
その他

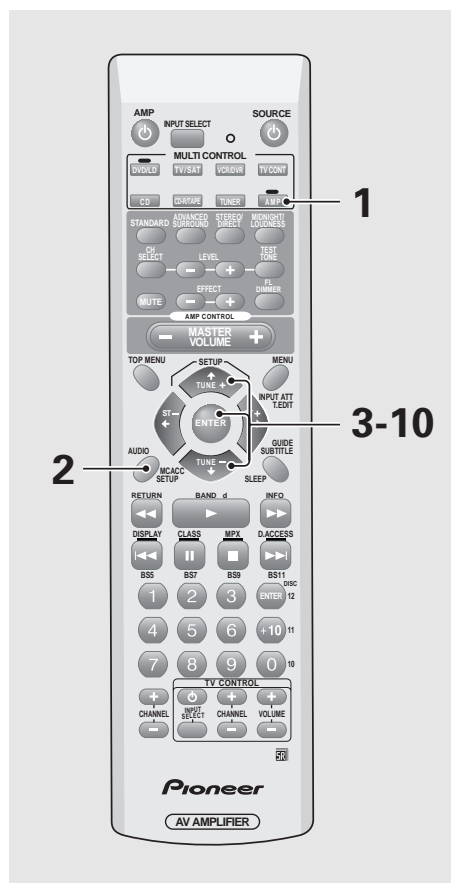
MCACCマニュアルセットアップ(音場補正)

VSX-D912においてオートセットアップを行ったときは、自動で高精度に調整されますのでここでの設定を行う必要はありませんが、お客様ご自身の耳で確かめながら調整を行いたいときはここでの方法で調整を行ってみてください。ここではオートセットアップ用マイクを接続する必要はありません。

細やかな設定で設定された各スピーカーのチャンネルレベルと各スピーカーまでの距離をより厳密に調整します。ここでの設定では調整するチャンネルとそのチャンネルに対して最も最適と思われるもう1つのチャンネルからテストトーンが再生されます。その2つのテストトーンを聞きながら調整を行ってください。
MCACCセットアップを行う前に必ず「スピーカーの設定」、「サラウンドバックスピーカーの設定」、「サブウーファーの設定」の各設定(➡56〜58ページ)を行うか「簡単設定(QUICK SETUP)」(➡17ページ)を行ってください。

1

AMPボタンを押してリモコンをアンプ操作モードにする。

2

MCACC SETUPボタンを押す。

ディスプレイに「REF Lch」と点滅表示しボリュームが上がりテストトーンが出力され、チャンネルレベルの調整になります。

〜ご注意〜
テストトーンは大きな音で再生されます。MASTER VOLUMEは自動的に−18dBになり、数秒後にテストトーンが再生されます。

3

フロント右スピーカーのチャンネルレベルを調整する。

調整するスピーカーに対して最も最適と思われるもう1つのチャンネルからテストトーンが交互に再生されますので、そのテストトーンどうしが同じ大きさに聞こえるように調整します。

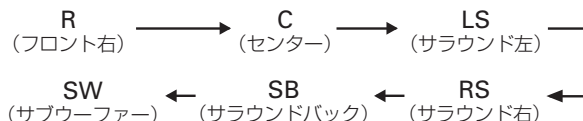
4

フロント右スピーカーのチャンネルレベルを決定する。

センタースピーカーの調整になります。

5

手順3〜4を繰り返して各スピーカーのチャンネルレベルを調整する。

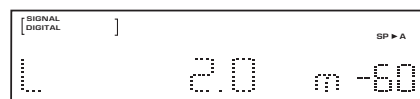
調整を決定すると以下の順で自動的にチャンネルが選ばれます。スピーカーの設定で無し(*)に設定されたチャンネルは選ばれません。

SW(サブウーファー)の調整を決定するとディスプレイに「Lch DISTANCE?」とスクロール表示し、各スピーカーまでの距離の調整になります。

メモ

- フロント左スピーカーのチャンネルレベルは調整の基準となるスピーカーのため調整することはできません。
- チャンネルレベルの調整は−10dBから+10dBの範囲内において0.5dB間隔で調整することができます。

6

フロント左スピーカーまでの距離を調整する。

以前に設定された値が表示されます。

7

フロント左スピーカーまでの距離を決定する。

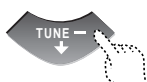
テストトーンが出力されます。

8

フロント右スピーカーまでの距離を調整する。

調整するスピーカーに対して最も最適と思われるもう1つのチャンネルからテストトーンが再生されますので、その2つのスピーカーに対して左図のように立ち、スピーカーから聞こえてくる2つのテストトーンの聞こえるポイントが真ん中になるように調整します。

メモ

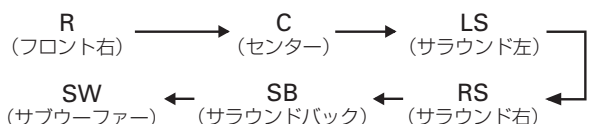
なお、サブウーファーは、この方法でディレイ値を合わせるのが困難です。サブウーファーを調整する場合は、テスト信号を出しながら距離の値を動かし、視聴ポイントでテスト信号の音量が最も大きくなるように調整してください。

9

フロント右スピーカーまでの距離を決定する。

センタースピーカーの調整になります。

10

手順8～9を繰り返して各スピーカーまでの距離を調整する。

調整を決定すると以下の順で自動的にチャンネルが選ばれます。

SW（サブウーファー）の調整を決定するとディスプレイに「COMPLETE」と表示され元のボリュームに戻り、MCACCセットアップを終了します。

メモ

・ 各スピーカーまでの距離は0.1mから9mの範囲内において0.1m間隔で設定できます。

MCACCとは、、

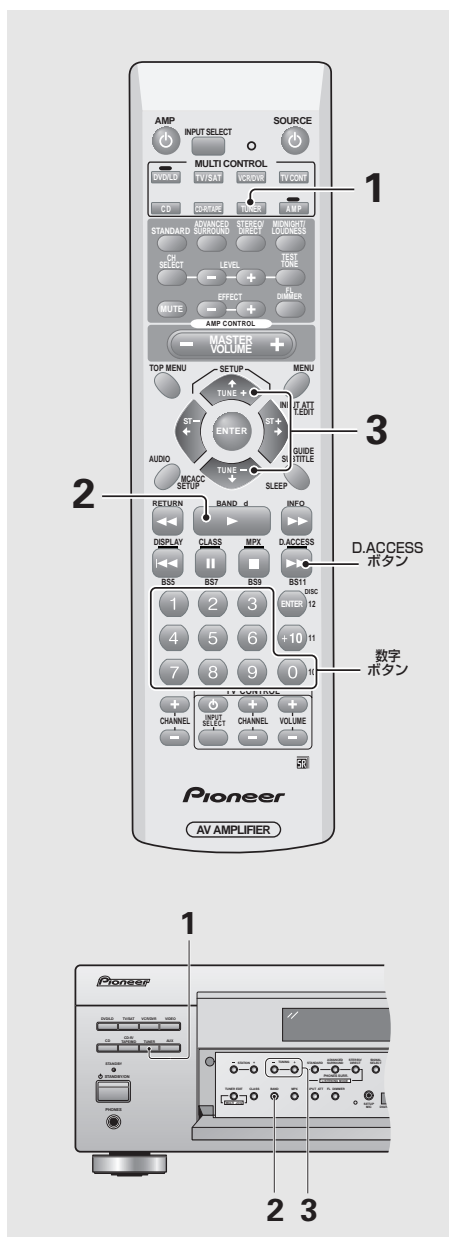
「MCACC」(マルチチャンネル・アコースティック・キャリブレーション・システム)とは当社が開発した音場補正システムのことで、録音スタジオにおけるモニタリング手法と同一レベルの音場調整を行うことが出来る画期的な技術です。マルチチャンネル再生に重要な各スピーカーのチャンネルレベルと各スピーカーまでの距離の補正を正確に行えるので、録音スタジオでしか体験できなかったリアルな音場をご家庭内で再現することが可能です。

ラジオ放送を聞く

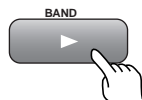
放送局の受信のしかた

アンテナが接続されていないと、FM/AM放送を聞くことはできません。

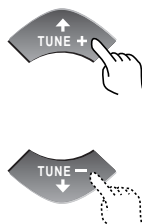
メモ

・ リモコンがTUNERモードのときにD.ACCESSボタンを押すと、数字ボタンを使ってダイレクトに放送局を選曲することができます。

1

チューナーモードにする。

2

AMとFMを切り換える。

押すたびに、AMとFMが切り換わります。

3

放送局を受信する。

受信のしかたには、3種類あります。自動的に放送局を受信するオートチューニング、手動で1ステップずつ周波数を合わせていくマニュアルチューニング、同じく手動で周波数を合わせるハイスピードマニュアルチューニングとがあります。

オートチューニング

ボタンを押して、周波数が動きはじめたら指を離す。

周波数が自動的に変化して、放送局を受信すると止まります。
途中で止めるときはTUNE＋ボタンまたはTUNE－ボタンを押します。

マニュアルチューニング

ボタンを1回ずつ押す。

周波数が1ステップずつ変化します。
1ステップはFM放送が0.05MHzで、AM放送が9kHzです。

ハイスピードマニュアルチューニング

ボタンを押し続けます。

周波数が連続して変化します。指を離すと止まります。

MPXモードを使う

FM局を聞いているとき、受信電波が弱いため、TUNEDもしくはSTEREOインジケーターが点灯しないときがあります。そのようなときはMPXモードでモノラル受信にすることでノイズを低減させることができます。

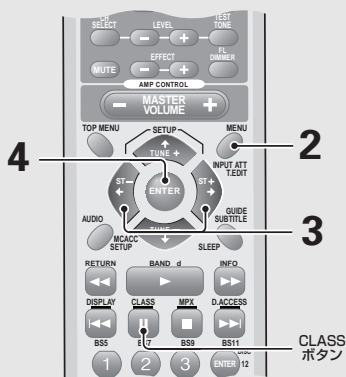
1

モノラル受信にする。

MONOインジケーターが点灯します。

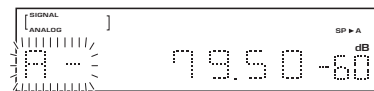
押すたびに、モノラル受信とステレオ受信が切り換わります。

放送局を記憶する

本機では、よく聞く放送局をA.B.Cのクラスに各10局、合計30局まで記憶することができます。

1 記憶したい放送局を受信する。（➡70ページ）

2

放送局の記憶モードにする。

ステーション番号が点滅します。

3

ステーション番号を選ぶ。

A0～C9までのステーション番号をお好みで選択することができます。

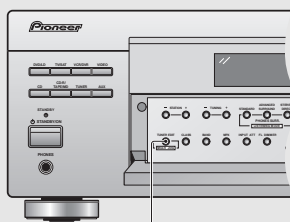
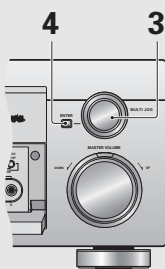
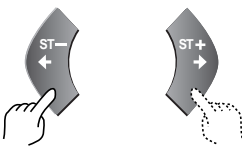
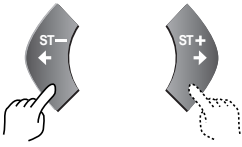
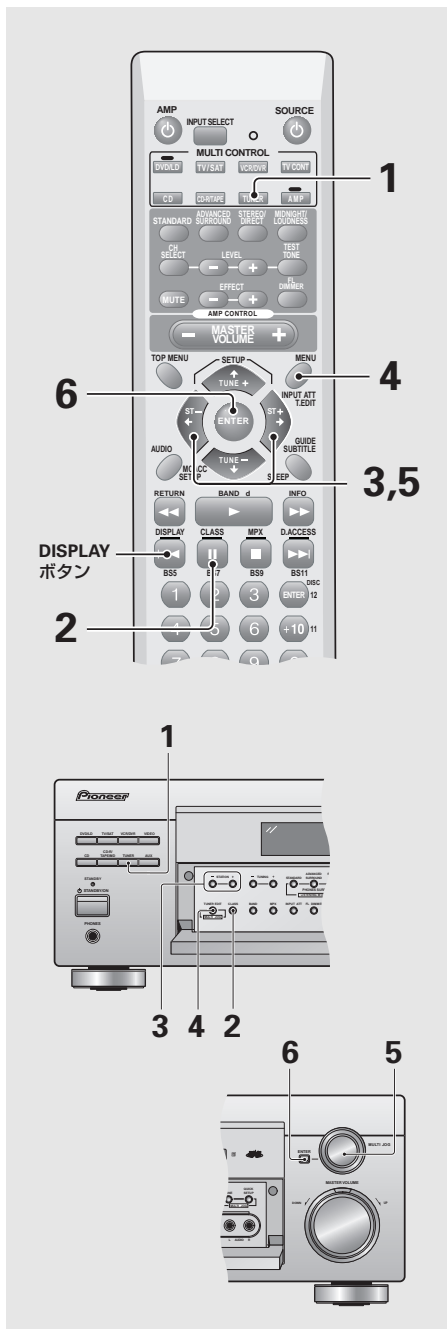
CLASSボタンを押すことでA、B、Cのステーションクラスを切り換えることができます。

本体の場合はMULTI JOGで選びます。

4

記憶したいステーション番号を決定する。

ステーション番号が記憶されます。

5 手順1～4を繰り返して30局まで記憶することができます。

放送局に名前をつける（ステーションネーム）

1

チューナーモードにする。

2

名前をつけたい局が記憶されているメモリークラスを選ぶ。

3

名前をつけたい局が記憶されているステーション番号を選ぶ。

4

ステーションネームモードにする。
「S.T NAME」と表示されステーションネームモードになります。

5

入力したい文字を選ぶ
本体の場合はMULTI JOGで選びます。

入力できる文字は以下の通りです。

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
[\ ]_!0123456789
”%&’()*+,–./-==?a(スペース)

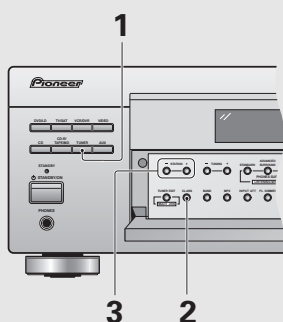
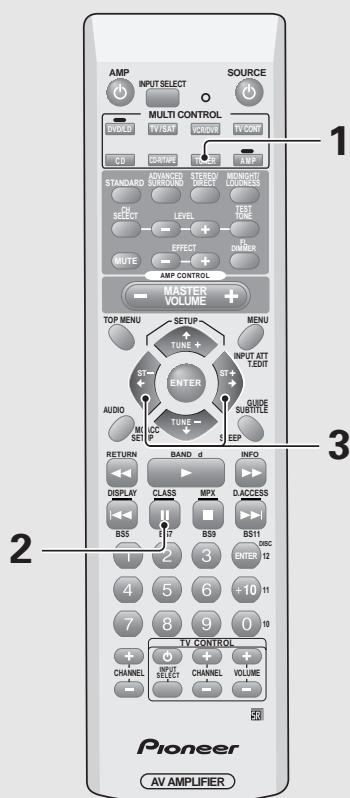
6

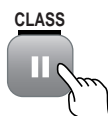
選んだ文字を決定する。

7 **手順5～6を繰り返して名前をつける。**

メモ

- 最大4文字までの入力となります。
- リモコンのDISPLAYボタンを押すことで、周波数とメモリーさせた名前を切り換えることができます。
- 名前を削除したいときはスペースを入力してください。

記憶した放送局を呼び出す

1 チューナーモードにする。

2 呼び出したい局が記憶されているメモリークラスを選ぶ。

3 呼び出したい局が記憶されているステーション番号を選ぶ。

メモ

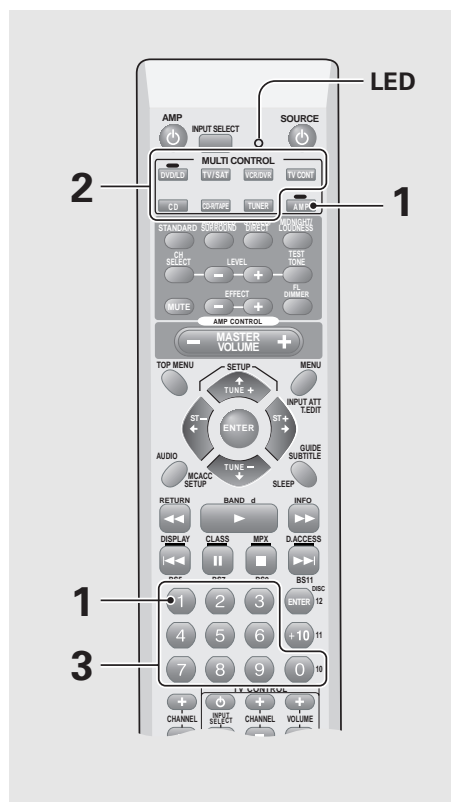
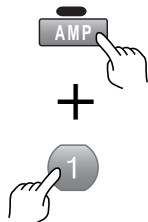
・ 旅行などで長期間本機の電源コードを電源コンセントから抜いておきますとステーションメモリーは消去されます。

他機器を操作するためのリモコン設定

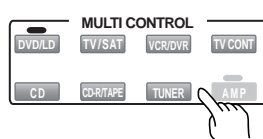
付属のリモコンを使って、本機以外のパイオニア製品や他社の機器(ビデオデッキ、テレビ、DVD、CDプレーヤーなど)を操作することができます。お手持ちの機器のプリセットコードがリモコンに登録されている場合は、該当するコードを呼び出して簡単に本機のリモコンで操作できるようになります。お手持ちの機器のプリセットコードがリストに記載されていない場合でも、その機器に付属のリモコンから直接登録(学習)することが可能です。

他社のリモコン信号を本機のリモコンに呼び出す(プリセットコード設定)

リモコンを使って、お手持ちのパイオニア製品や他社の機器(DVDプレーヤー、MDプレーヤー、VCR、TV、LDプレーヤー、CDプレーヤーなど)を操作することができます。他社の機器をお持ちの場合は次の設定を行ってください。

1

AMPボタンを押しながら数字ボタンの1を押す。

リモコンのLEDランプが点滅し、プリセットコード設定になります。
プリセットコード設定を中止するにはAMPボタンをもう一度押します。

2

操作したい機器のマルチコントロールを選ぶ。

リモコンのLEDランプが点灯に変わります。

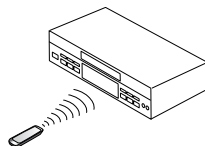
3

操作したい機器にリモコンを向け、その機器に該当するメーカーコード(89～90ページ)を入力する。

正しいメーカーコードを入力すると、電源ON/OFF信号がリモコンから送信され、操作したい機器の電源がONまたはOFFに切り換わります。

メモ

- 1分間なにも操作がない場合は、リモコンのセットアップモードを終了します。

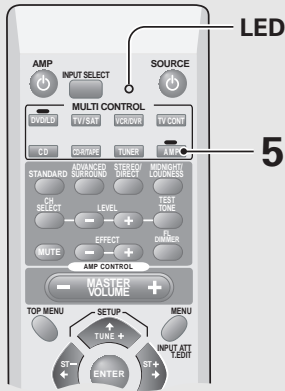
メモ

- STANDBY/ONモードがない機器については正しく設定できていても電源は切り換わりません。この場合は、その後実際に操作できるか確認してください。
- 機器の電源がON/OFFしない場合で、その機器に別のメーカーコードがある場合は、別のメーカーコードを使って手順1からやり直してみてください。

コードナンバーが正しく入力されても間違って入力されてもプリセットコード設定モード手順2へ戻ります。

4 **他の機器もプリセットコードを設定したい場合は手順2～3を繰り返します。**

5

プリセットコード設定を終了する。

リモコンは通常操作に戻ります。

Learningセットアップモード（他機器のリモコン操作を本機のリモコンに登録する）

本機のリモコンで操作したい他機器のプリセットコードがメーカーコードリスト（89～90ページ参照）に見当たらない場合は、以下の手順で他機器のリモコンの操作を本機のリモコンに登録することができます。プリセットコードを登録しただけでは使用できない操作についても、以下の手順で本機のリモコンに追加登録（学習）することができます。

1

AMPボタンを押しながら数字ボタンの2を押す。

リモコンのLEDランプが点滅し、Learningセットアップモードになります。

Learningセットアップモードを中止するにはAMPボタンをもう一度押します。

2

操作したい機器のマルチコントロールを選ぶ。

リモコンのLEDランプが点灯に変わります。

リモコンによる他機器の操作

3

登録したい操作ボタンを選択する。

リモコンのLEDランプが素早く点滅します。

メモ

TV CONTROLボタンの⏻、INPUT SELECT、VOLUME +/－、CHANNEL +/－ボタンに登録できるマルチコントロールボタンは、TV CONTボタン(テレビ操作)のみです。

4

本機のリモコンに他機器リモコンの登録したい操作ボタンを登録する。(以下の1～2を行う)

① 本機と他機器のリモコンを互いに下のように向ける。

② LEDランプが素早く点滅している間に、登録したい他メーカーのリモコンのボタンを押す。リモコンのLEDランプの点滅がいったん消えて、再度点灯したときは正しく登録されたことになります。正しく登録されなかった場合は、リモコンのLEDランプが3回点滅します。

メモ

- 1分間なにも操作がない場合は、リモコンのセットアップモードを終了します。
- リモコンによっては、操作を登録できないものもあります。また、手順4でリモコンどうしの距離を変えてみることで、登録できる場合もあります。1～10cm程度でも試してみて下さい。

5

登録を続ける場合は、以下の手順を行います。

同じリモコンから別の操作を追加登録するには
手順3、4を繰り返します。
別のリモコンから操作を登録するには
手順6へ進みLearningセットアップモードを終了させ、手順1からやり直してください。

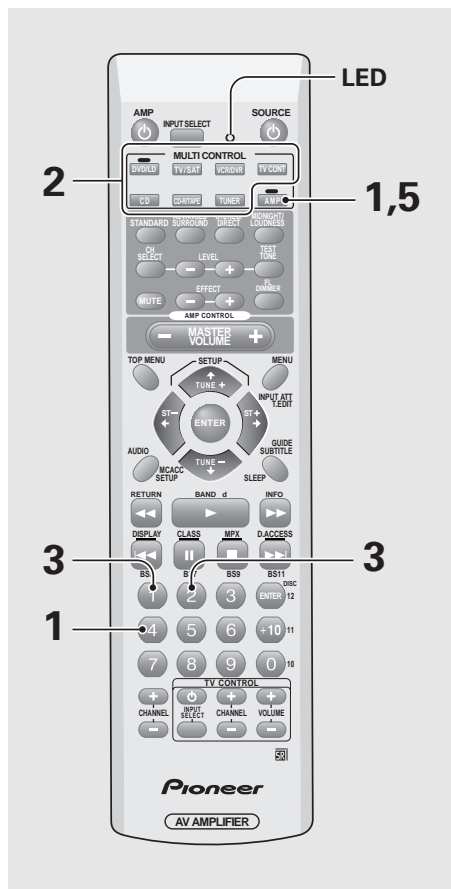
6

Learningセットアップモードを終了する。

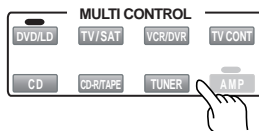
リモコンは通常動作に戻ります。

ダイレクトファンクションモードを設定する

ダイレクトファンクションはMULTI CONTROLボタンを押したときに、本機の入力セレクターを切り換えるかどうかを設定する機能です。オフにすると入力セレクターは切り換わらず、リモコンの操作ボタンの機能だけが切り換わります。本機に接続されている機器と、直接テレビに接続されているため本機の入力切換動作が必要ない機器と区別できるようにするためのモードです。工場出荷時はすべてオンになっています。

1

AMPボタンを押しながら数字ボタンの4を押す。

リモコンのLEDランプが点滅し、ダイレクトファンクションモードの設定になります。
ダイレクトファンクションモードの設定を中止するにはAMPボタンをもう一度押します。

2

ダイレクトファンクションのON/OFF設定をしたいマルチコントロールボタンを選択する。

リモコンのLEDランプが点灯に変わります。

3 **ダイレクトファンクションのON、OFFを設定する。**

ダイレクトファンクションをOFFに設定するときは、2 ボタンを押してください。
ダイレクトファンクションをONに設定するときは、1 ボタンを押してください。

4 **他の機器もダイレクトファンクションを設定したい場合は手順2～3を繰り返します。**

5

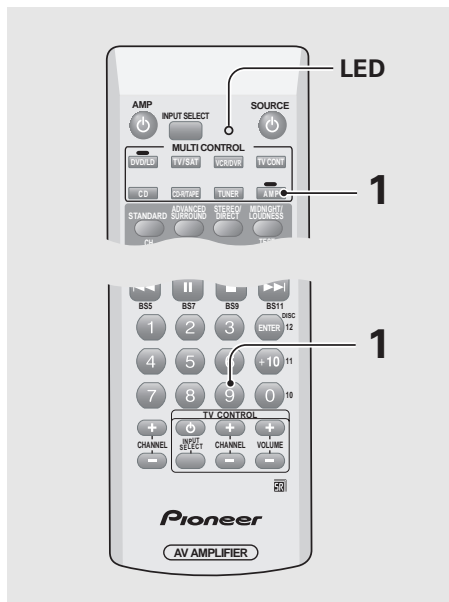
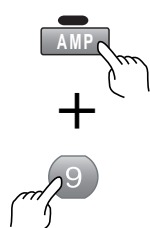
ダイレクトファンクションのON/OFF設定を終了する。

リモコンは通常動作に戻ります。

リモコンの設定解除

リモコンのボタンに登録された操作を解除する

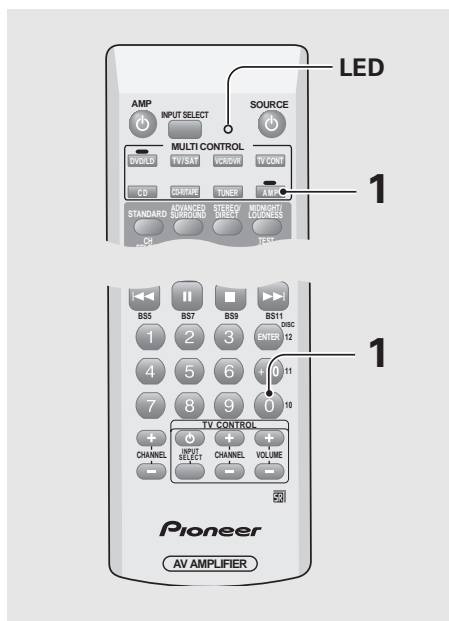
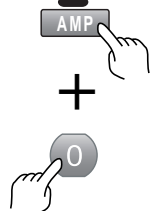
Learningセットアップモード(75ページ)で本機のリモコンに登録された他機器のリモコン操作を全て解除します。

1

AMPボタンを押しながら数字ボタンの9を3秒間押し続ける。

リモコンのLEDランプが3回点滅し、リモコンのボタンに登録された操作を全て解除します。

リモコンに設定されたすべての機能を解除する

本機のリモコンに設定されたすべての機能を解除する方法について説明します。

1

AMPボタンを押しながら数字ボタンの0を3秒間押し続ける。

リモコンのLEDランプが3回点滅し、リモコンに設定されたすべての機能を解除します。

他機器の操作一覧表

- 以下の他機器操作を行うには、あらかじめ各機器のプリセットコードを呼び出しておく必要があります。詳しくは「他機器を操作するためのリモコン設定」(74～75ページ)をご覧ください。
- 実際に操作を始める前に、操作したい機器のマルチコントロールボタンを押してください。
- 機種によっては操作できないボタンもあります。
- 各機器の詳しい機能については、各機器の取扱説明書をお読みください。

ボタン	機能	機器の種類
SOURCE ⏻	機器の電源をON/OFFします。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
⏮	再生中に1回押すと現在再生中のトラックの初めに戻ります。	CD/MD/CD-R/DVD/LDプレーヤー
	オートリバースデッキの場合、テープをリバース方向(◀)に再生します。	カセットデッキ
	BS5チャンネルを選択します。	TV
⏭	再生中に1回押すと次のトラックの初めに進みます。	CD/MD/CD-R/DVD/LDプレーヤー
	オートリバースデッキの場合、テープをフォワード方向(▶)に再生します。	カセットデッキ
	BS11チャンネルを選択します。	TV
❚❚	再生、録音を一時停止します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
	BS7チャンネルを選択します。	TV
▶▶	押し続けると早送り再生になります。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
◀◀	押し続けると早戻し再生になります。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
▶	再生します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
■	再生を停止します。(一部のプレーヤーでは停止中に押すと、ディスクテーブルが出てくるものもあります)	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
	BS9チャンネルを選択します。	TV
⇧⇩同時押し	録画します。	VCR/ DVDレコーダー
数字ボタン	ダイレクトに曲を選曲します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LDプレーヤー
	ダイレクトにチャプター(トラック)を選択します。	DVD/DVDレコーダー
	ダイレクトにチャンネルを選択します。	TV/サテライトTV/ケーブルTV
+10	トラック番号の10の位を選ぶときに使用します。例えば、このボタンを押した後に数字ボタンの3を押すと、トラック番号13が選択されます。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LDプレーヤー
DISC	ディスクをイジェクトします。	MD プレーヤー
	ビデオとTVチューナーを切り換えます。	VCR/ DVDレコーダー
	ディスクのA面とB面を切り換えます。	LD プレーヤー
	このボタンを押した後に数字ボタンを押して、ディスク番号を選択します。	マルチディスクタイプCDプレーヤー
MENU	DVD、DVDレコーダーまたはTVなどに登録されている各種メニューを表示します。	DVD/DVDレコーダー/TV/サテライトTV/ケーブルTV
TOP MENU	タイトルメニュー画面を表示します。	DVD/DVDレコーダー
AUDIO	ディスクに記録されている音声を選択します。	DVD/DVDレコーダー
SUB TITLE/GUIDE	ディスクに記録されている字幕を選択します。	DVD/DVDレコーダー
	ガイドメニュー画面を表示します。	ケーブルTV
CHANNNEL +/–	DVDレコーダーやVCRなどのチャンネルを選択します。	DVDレコーダー/VCR
⇧	再生、録音を一時停止します。	カセットデッキ
⇩	再生を停止します。	カセットデッキ
ENTER	再生します。	カセットデッキ
⇦	テープをリバース方向へ早送りします。	カセットデッキ
⇨	テープをフォワード方向へ早送りします。	カセットデッキ
⇦ ⇨ ⇧⇩& ENTER	メニュー画面を操作するときに使います。⇦ ⇨ ⇧⇩で選択し、ENTERで決定します。	DVD/DVDレコーダー/TV/サテライトTV/ケーブルTV
TV ⏻	テレビの電源をON/OFFします。	TV/サテライトTV/ケーブルTV
TV INPUT SELECT	テレビの入力を切り換えます。	TV
TV VOLUME	テレビの音量を調整します。	TV/サテライトTV/ケーブルTV
TV CHANNEL +/–	テレビのチャンネルを選択します。	TV/サテライトTV/ケーブルTV VCR/ DVDレコーダー

用語解説

DVDソフトのパッケージのほとんどに以下のような表示がされています。
1枚のディスクに複数の音声が収録されている場合が多く、どの音声を聴くのか選択することができます。

1. 英　語　(5.1ch サラウンド)
2. 日本語（ドルビーサラウンド）
3. 英　語　(DTS 5.1ch サラウンド)

収録音声数　録音方式　音声記録方式

音声記録方式について

ドルビーデジタル

DVDの標準音声フォーマットの1つとして採用された音声圧縮記録方式です。モノラルやステレオで記録されているソフトもあれば、現在最も主流とされている5.1chサラウンドで記録されているソフトもあります。5.1chサラウンドソフトには、5つのチャンネルの個別にそれぞれのシーンに合った音声が記録されており、サブウーファーから出力される低音も記録されているため、本機とデジタルケーブルで接続して再生することにより、すべてのチャンネルの信号が伝送され、臨場感あふれるマルチチャンネルサラウンド再生をお楽しみ頂くことができます。
よってドルビーデジタル信号を再生するにはDVDプレーヤーと本機をデジタル接続することが必要です。

ドルビーデジタルサラウンドEX

ドルビーデジタルサラウンドEXは、映画「スターウォーズ・エピソード1」の製作に向けて、ドルビーラボラトリーズとルーカスフィルム社で共同開発された、6.1ch再生可能な新しい音響フォーマットです。
新たに加えられたサラウンドバックchにより空間表現力、定位感が高められ、中央から離れた客席からでも360度の回転や頭上を通過するような移動音効果・音像をより生々しく体感することが可能となりました。フィルム上ではサウンドトラックのサラウンドL/サラウンドRチャンネルにエンコードされるため、既存のドルビーデジタル(5.1ｃｈ)環境での再生互換性があります。この技術により製作された映画のリストはドルビーラボラトリーズのウェブサイトにてご覧になれます。http://www.dolby.com/

DTS

デジタルシアターシステム(Digital Theater System)の略で、DVDの標準音声フォーマットの1つとして採用された音声圧縮記録方式です。5.1chサラウンドが主流で、音声の低圧縮率とデータの高転送レートがもたらす豊富な情報量により、高音質マルチチャンネルサラウンド再生を実現します。
DTS信号を再生するにはDVDプレーヤーと本機をデジタル接続することが必要です。

DTS-ES

2000年11月に発表された新たなるサラウンドフォーマットで、DTS-ESは「DTS Extended Surround」の略称です。“DTS-ESディスクリート6.1”と“DTS-ESマトリックス6.1”の2種類があり、どちらも従来のDTS5.1chデコーダーとの下位互換性を有しています。DTS-ESは従来の5.1chシステムにサラウンドバック(SB)チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感をもたらす事が可能になりました。

DTS 96/24

5.1チャンネル全てを96kHz/24bitの高音質で再生する最新の音声フォーマットです。
従来、DVDにおける高音質録音ソースとしては、96kHz/24bitのステレオPCMがありますが、それらは音声トラックのデータレートが非常に高いため2chの収録が限界で、さらに映像は静止画像のみの収録が限界でした。しかし、圧縮サラウンドフォーマットとして初めて96kHz/24bitに対応したDTS社開発の技術DTS 96/24では、圧縮されたフォーマットでありながら96kHz/24bitでの5.1ch再生を高画質を損なうことなく、既存のDTS 対応DVDプレーヤーで再生することができます。
DTS 対応のDVD プレーヤーと、DTS96/24 に対応するA V アンプ等のデコーダー(本機はDTS96/24対応デコーダーを搭載しています)をデジタル接続することで、DTS96/24 のハイクオリティー音声が再生可能です(専用プレーヤーは必要ありません)。

MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)

MPEG-2オーディオの標準方式の一つで、BSデジタル放送で採用されている音声符号化規格です。低ビットレートでかつ高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。米国パテントナンバーは次ページの通りです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

PCM

Pulse Code Modulationの略で、圧縮していない2チャンネルステレオデジタル音声です。CDのデジタル音声はほとんどこの方式です。DVDの音声記録方式の1つでもありますが、CDのサンプリング周波数が44kHzであるのに対し、DVDのサンプリング周波数は48kHzや96kHzと高いので、DVDの方がより高音質の音声を楽しめます。

再生方式ついて

(2ch)ステレオ再生
左右2つのスピーカーのみによる再生のことです。(ヘッドホン使用時は、ヘッドホンの左右2つのチャンネルのみ)

ドルビープロロジックサラウンド再生
2chサラウンド信号や2chステレオ信号をドルビープロロジック回路を通し、マルチチャンネルサラウンドで再生することです。2chサラウンド信号については圧縮された信号を忠実にデコード(再生)し、2chステレオ信号については2チャンネル分の信号からセンター、サラウンドチャンネルの信号をつくりだします。ただし、この再生方式ではサラウンドチャンネルはモノラルであるため、左右のサラウンドスピーカーからは同じ音声が出力されます。

ドルビープロロジックII サラウンド再生
ドルビープロロジックII は、ドルビープロロジックを更に改良し、ステレオ音声を5.1chに拡張して再生するためのマトリックスデコード技術です。ステアリングロジック回路により、全可聴帯域のメイン5chを作り出します。CDのような通常のステレオ音楽素材に対してもより優れた立体音場効果、包囲感、より明確な定位をもたらし、ドルビーサラウンドエンコードされた素材はディスクリート5.1chに匹敵する移動感をも実現できるものです。

■プロロジックとプロロジックIIの違い

	プロロジック	プロロジックII
効果的なソース	ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声	すべてのステレオ音声
デコードチャンネル数	4.1ch (サラウンド モノラル)	5.1ch (サラウンド ステレオ)
周波数特性	サラウンド 7kHz帯域制限	全チャンネル フルバンド

DTS Neo:6 再生
DTS社によって開発された、デジタル・アナログを含む全ての2chソースを6.0chサラウンドにするマトリックスデコード技術です。映画ソースの再生に適したCINEMAモードと音楽ソースの再生に適したMUSICモードがあります。

マルチチャンネルサラウンド再生
3本以上のスピーカーでサラウンド再生することです。音声信号が3チャンネル以上の録音方式で記録されているソフトについてはソフトに忠実に再生します。なかでも5.1chサラウンド信号の再生については、左右のサラウンドスピーカーからもそれぞれ異なる音声が出力されますし、6.1chサラウンド信号の再生については、5.1chに加えサラウンドバックスピーカーからも異なる音声が出力されるので、ドルビープロロジックサラウンド再生に比べ、より立体感のある音場で迫力のある臨場感がお楽しみいただけます。

モノラル再生
モノラル信号やデュアルモノラル信号をソフトに忠実に再生することです。

録音方式ついて

2ch ステレオ信号

左右2つのチャンネルに別々の音が記録されている信号です。通常の音楽用CDなどはほとんどこの信号で録音されています。

2ch サラウンド信号（ドルビーサラウンド信号）

フロント左/右、センター、サラウンドの4つのチャンネルの音声信号を左右2つのチャンネルに圧縮した信号です。この信号をドルビープロロジックサラウンド再生することにより、各チャンネルの音声信号がソフトに忠実に再生されます。

5.1ch サラウンド信号

フロント左/右、センター、サラウンド左/右の5つのチャンネルと超低音域専用チャンネル(LFEチャンネルと呼ばれサブウーファーから再生されます)にそれぞれ異なる信号が記録されている信号です。この信号を忠実に再生することにより、立体感のある音場を得ることができます。

6.1ch サラウンド信号

フロント左/右、センター、サラウンド左/右、サラウンドバックの6つのチャンネルと超低音域専用チャンネル(LFEチャンネルと呼ばれサブウーファーから再生されます)にそれぞれ異なる信号が記録されている信号です。この信号を忠実に再生することにより、5.1ch以上の音像・定位感を得ることができます。

保証とアフターサービス

保証書(別添)

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買上げの販売店へご依頼ください。また、ご転居されたりご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、別添の修理受付センターにご相談ください。

修理を依頼されるとき

85～88ページにしたがって調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 商品名：AVデジタルサラウンド・アンプ
- 型番：VSX-D812またはVSX-D912
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容(できるだけ詳しく)
- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標(建物や公園など)

■ **保証期間中は：**

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ **保証期間が過ぎているときは：**

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

仕様

オーディオ部

実用最大出力（JEITA、1kHz、10%、6 Ω）
フロント .... 100 W/CH
センター .... 100 W
サラウンド .... 100 W/CH
サラウンドバック .... 100 W/CH
定格出力（ステレオ動作時）
20 Hz～20 kHz、0.09%、6 Ω .... 80 W+80 W
入力端子（感度/インピーダンス）
CD, AUX, VCR/DVR, CD-R/TAPE/MD, DVD/LD, TV/SAT, VIDEO
.... 200 mV/47 kΩ
SN比(IHF、ショートサーキット、Aネットワーク)
CD, AUX, VCR/DVR, CD-R/TAPE/MD, DVD/LD, TV/SAT, VIDEO .... 98 dB
周波数特性
CD, AUX, VCR/DVR, CD-R/TAPE/MD, DVD/LD, TV/SAT, VIDEO
.... 5 Hz～100,000 Hz $^{+0}_{-3}$ dB
出力端子（レベル/インピーダンス）
VCR/DVR REC, CD-R/TAPE/MD REC
.... 200 mV/2.2 kΩ
トーンコントロール
BASS .... ± 6dB（100 Hz）
TREBLE .... ± 6dB（10 kHz）
LOUDNESS .... + 6.5dB（100 Hz）
.... + 3dB（10 kHz）
ボリュームポジション－50 dB時

ビデオ部

入力端子（感度/インピーダンス）
VCR/DVR、DVD/LD、TV/SAT、VIDEO
.... 1 Vp-p/75 Ω
出力端子（レベル/インピーダンス）
VCR/DVR、MONITOR OUT .... 1 Vp-p/75 Ω
周波数特性
VCR/DVR、DVD/LD、TV/SAT、VIDEO
→MONITOR .... 5 Hz～10 MHz、$^{+0}_{-3}$ dB
SN比 .... 65 dB

コンポーネントビデオ部

入力端子（感度/インピーダンス）
DVD/LD、TV/SAT .... 1 Vp-p/75 Ω
出力端子（レベル/インピーダンス）
MONITOR OUT .... 1 Vp-p/75 Ω
周波数特性
DVD/LD、TV/SAT
→MONITOR .... 5 Hz～40 MHz、$^{+0}_{-3}$ dB
SN比 .... 65 dB

FMチューナー部

受信周波数 .... 76.0MHz～90.0MHz
実用感度 .... モノ；15.2dBf (1.6μV/75 Ω)
S/N 50dB感度 ...... モノ；20.2dBf (2.8μV/75 Ω)
ステレオ；41.2dBf (31.6μV/75 Ω)
S/N比 (85dBf入力時) .... モノ；76 dB
ステレオ；72 dB
高調波歪率 .... ステレオ；0.5% (1kHz)
実効選択度 .... 65 dB(±400kHz)
ステレオセパレーション .... 40 dB(1kHz)
周波数特性 .... 30Hz～15kHz(±1dB)
アンテナ .... 75 Ω不平衡型

AMチューナー部

受信周波数 .... 522kHz～1,629kHz
実用感度（付属ループアンテナ） 350μV/m
S/N比 .... 50 dB
アンテナ .... ループアンテナ(付属)

電源部・その他

電源 .... AC 100V、50/60 Hz
消費電力（電気用品安全法） .... 280 W
スタンバイ時消費電力 .... 0.5 W
電源スイッチ連動 .... 1 (100 W)
外形寸法
.... 420 (幅) × 158 (高さ) × 401 (奥行) mm
質量 .... 10.0 kg

付属品

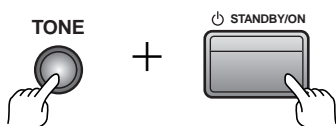
リモコン 1
単3形乾電池（IEC R6） 2
AMループアンテナ 1
FMアンテナ 1
オートセットアップ用マイク（VSX-D912のみ） 1
マイクスタンド（VSX-D912のみ） 1
取扱説明書 1
安全上のご注意 1
保証書 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 1

●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

設定オールリセット

設定オールリセットは以下の手順で実行します。操作は本体フロントパネルで行います。設定オールリセットを行うと、本機のすべての設定が工場出荷時の状態になりますので**十分ご注意ください。**

① 本機がSTANDBYモードのときにTONEボタンを押しながらSTANDBYボタンを3秒以上押し続ける

② FLに「RESET？」と表示されたらTONEボタンを押し、「OK?」表示後にもう一度TONEボタンを押します

表示中にボタンを押さなかったり、手順と異なるボタンを押したときは、設定オールリセット操作がキャンセルされます。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったときは以下を確認してみてください。案外簡単なミスや勘違いをしていることもあります。また、本機以外に原因がある場合も考えられますので、ご使用中の他の機器や、同時に使用している電気機具も合わせてご確認ください。それでも正常に動作しない場合はお買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションに修理を依頼してください。

音が出ないスピーカーがあるときは、、

1 **テストトーンを出力してみる（➡67ページ）**

全てのスピーカーからテストトーン(ザーという音)が出力されていることを確認してください。 テストトーンが出力されないスピーカーがあるときは、「接続」(➡24、34ページ)や「スピーカーの設定」(➡56ページ)、「サラウンドバックスピーカーの設定」(➡57ページ)、「サブウーファーの設定」(➡58ページ)をもう一度確かめてください。

2 **それでも音が出ないときは、以下から87ページまでをご覧ください。**

電源が入らなかったり、切れるとき

症状	考えられる原因	対応
電源が入らない。	電源プラグがコンセントから抜けている。	電源プラグをコンセントに差し込む。
	保護回路が動作している。	電源プラグを一度コンセントから外して、再び差し込む。
本機使用中にOVERLOADと点滅表示し、自動的に電源が切れる。	音量を上げすぎている。	電源を入れ直し、音量を下げてみる。
	スピーカーコードがショート（接触）している。	スピーカーコードの芯線をもう一度しっかりねじり直し、スピーカー端子からはみ出ないように接続する。
AMP ERRと点滅して自動的に電源が切れる。	本機の故障です。	速やかに使用を停止し、修理を依頼してください。この症状が起きた後に電源のON/OFFを繰り返すのはお止めください。
STANDBYインジケーターが点滅している。	本機の故障です。	速やかに使用を停止し修理を依頼して下さい。

音が出なかったり、ノイズが出るとき

症状	考えられる原因	対応	参照
音が出ない。	入力が再生機器に合っていない。	再生機器の入力に合わせる。	35ページ
	ミューティング状態になっている。	リモコンのMUTEボタンを押す。	
	音量が下がっている。	音量（MASTER VOLUME）を調整する。	
	ヘッドホンが差し込まれている。	ヘッドホンを抜く。	
	接続コードが端子から外れている、または間違えて接続されている。	接続を確認する。	24～34ページ
	スピーカーコードがショート（接触）している。	スピーカーコードの芯線をしっかりとねじり、もう一度スピーカーコードを接続し直す。	
	端子や接続コードのピンプラグが汚れている。	汚れを拭きとる。	
デジタル機器の音が出ない、またはノイズが出る。	DVDプレーヤーでデジタル出力設定をOFFにしている。	DVDプレーヤーのデジタル出力設定をONにする。	
	CD-ROMなどのデータ信号を入力している。	本機はデータ信号には対応していません。	
フロントの片チャンネルから音が出ない。	左右のチャンネルレベルがかたよっている。	左右のチャンネルレベルを調整する。	67ページ
		オートセットアップを行う(VSX-D912のみ)。	13ページ
	フロントスピーカーの接続が外れている、または間違えて接続されている。	左右のスピーカーを正しく接続する。	28ページ
サラウンドスピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない。	スピーカーの設定で「無し(＊)」に設定している。	スピーカーを正しく設定する。	56ページ
		オートセットアップを行う(VSX-D912のみ)。	13ページ
	サラウンド、センタースピーカーのレベルが下がっている。	スピーカーのレベルを上げる。	67ページ
		オートセットアップを行う(VSX-D912のみ)。	13ページ
	サラウンド、センタースピーカーの接続が外れている、または間違えて接続されている。	スピーカーを正しく接続する。	28ページ
	2ch再生のリスニングモード（「ステレオ」など）を選んでいる。	マルチチャンネル再生のリスニングモードの「STANDARD」または「ADVANCED SURROUND」を選ぶ。	38～40ページ
	再生ソフトや放送自体に2ch分の音声しか入っていない。（ステレオ放送など）	入力信号の種類に関わらず、常にマルチチャンネル再生したいときはリスニングモードをマルチチャンネル再生のリスニングモードの「STANDARD」または「ADVANCED SURROUND」にしてください。	38～40ページ
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	サラウンドバックスピーカーの設定で「無し(＊)」に設定している。	スピーカーを正しく設定する。	57ページ
	サラウンドバックチャンネルモードの設定がOFFになっている。	サラウンドバックチャンネルモードの設定をONまたはAUTOにしてサラウンドバックチャンネルから音が出るリスニングモードにする。	41ページ
	入力信号の種類とリスニングモードの関係が間違っている。	「各リスニングモードにおけるサラウンドバックスピーカーからの音声出力」をご覧になり入力信号に合ったリスニングモードを選択する。	42ページ
サブウーファーの音が出ない（または小さい）。	スピーカーやサブウーファーの設定でサブウーファーから音が出ない設定になっている。	サブウーファーの設定をPLUSまたはYESにするか、フロントスピーカーの設定を小(S)にする。	56～58ページ
	サブウーファーのレベルが下がっている。	サブウーファーのレベルを上げる。	67ページ
	サブウーファー自体のボリュームが下がっている。	サブウーファー自体のボリュームを上げる。	
	LFEアッテネーターの設定がOFFになっている。	0dBまたは－10dBに設定する。	59ページ
	サブウーファーの接続が外れている。	サブウーファーを正しく接続する。	28ページ
	低音が含まれていないソフトを再生している。	低音が含まれていないソフトの場合、サブウーファーから音が出ない場合があります。	

症状	考えられる原因	対応	参照
DD/DTSなどのソフトを再生しても音が出ない。またはノイズが出る。	デジタル接続が外れて、アナログ入力信号を再生している。（DIGITALインジケーター消灯）	機器を正しくデジタル接続する。	25ページ
	使用しているDVDプレーヤーがDTS信号を出力していない。またはDTS信号の出力設定がOFFになっている。	DVDプレーヤーの取扱説明書をお読みになり、DTS信号を出力できるように設定する。	
	デジタル出力レベル調整機能がついているCDプレーヤーなどの場合、デジタル出力レベルの設定が低すぎる。	機器のデジタル出力レベルを上げる。	
DTS対応のCDプレーヤーでサーチ中にノイズが出る。	サーチ中にCDに含まれるデジタル情報を読み取ってしまう。	故障ではありません。サーチ中はアンプの音量を下げ、スピーカーから出る音を抑えます。	
音がひずむ	音量を上げすぎている。	マスターボリュームを下げる。	
	アナログ入力信号のレベルが大きすぎる。	INPUT ATTボタンを押してインプットアッテネータをONにする。	20ページ
スピーカーから高音しか出ない。	スピーカーの設定が小（S）に設定されている。	スピーカーの設定を大（L）に設定する。	56ページ
	低音域を再生する能力がないスピーカーを使っている。	スピーカーを変える。	
発振している。（異常音が出たり映像が乱れる）	本機と接続機器間にループができている。	接続またはテレビの入力切換を変える。	
96kHz/24bitのソフトを再生すると音が大きい。	ソフトによっては、収録されている音量レベルが大きい。	マスターボリュームを下げる。	
映像が乱れたり、カセットデッキにノイズが入ったりする。	本機と干渉している。	本機またはカセットデッキの設置場所を変える。	
デュアルモノの設定をしてもBSデジタル放送の二か国語音声が切り換わらない。	放送がステレオの二か国語放送などで、デュアルモノラル信号ではない。	デュアルモノの設定は入力信号がデュアルモノラルフォーマットのときのみ有効です。それ以外のときは、BSデジタルチューナー側(テレビ側)で切換操作を行ってください。	
本機を通して録画したのに音が録音されていない。	入力選択した機器の音声がデジタルでしか接続されていない。	デジタル入力信号はVTR出力端子からは出力されません。入力選択した機器の音声をアナログでも接続してください。	
テストトーンが出てこないスピーカーがある	接続がはずれている。	正しく接続し直してください。	24～34ページ
	スピーカーの設定で「無し(*)」に設定されているスピーカーがある。	スピーカーの設定を正しく行ってください。	56～58ページ

映像が出なかったり、乱れるとき

症状	考えられる原因	対応	参照
入力切換を合わせても、映像が出ない。	入力機器およびテレビとの接続に、違うタイプのビデオコードを使用している。	同じタイプの映像ケーブルで入力機器およびテレビを接続する。	24ページ
	入力機器の映像出力設定が正しくない。	入力機器の取扱説明書をお読みになり、正しい映像出力設定を行う。	
	テレビとの接続をS映像端子と映像端子の両方でつないでいて、テレビ側でS映像入力を優先している。	テレビの取扱説明書をお読みになり、正しく接続する。	
録画できない。	入力と出力の接続に違うタイプの映像端子を使用している。	同じタイプの映像端子を接続する。	24ページ
映像が乱れる。	本機と干渉している。	本機の設置場所を変える。	

インジケーターが点灯しなかったり、違うとき

症状	考えられる原因	対応
DD/DTSなどのソフトを再生しているときにデコードのインジケーターが点灯しない。または違うインジケーターが点灯する。	再生しているプレーヤーが停止か一時停止の状態になっている。	プレーヤーの再生を開始する。
	再生しているプレーヤーの音声出力設定が間違っている。	プレーヤーの音声出力設定を正しく行う。
	再生しているソフトの音声設定が間違っている。	再生しているソフトの音声設定を正しく行う。
	DDやDTSで収録されていない部分を再生している。(メニュー画面など)	DDやDTSで収録された音声を再生しているときのみインジケーターが点灯します。
BSデジタル放送をデジタル接続で聴いているときに、MPEGインジケーターが点灯しない。	BSデジタルチューナー（またはBSデジタルチューナー内蔵テレビ）の音声出力設定でPCMを選択している。	チューナーの取扱説明書を読んで、MPEG(AAC)信号を出力するように設定する。

リモコンや設定、その他

症状	考えられる原因	対応	参照
リモコン操作ができない。	リモコンの操作モードが違っている。	リモコンの操作モードを切り換える。	
	リモコンの電池が消耗している。	電池を交換する。	3ページ
	距離が離れすぎている。角度が悪い。	7m以内、左右30°以内で操作する。	21ページ
	途中に信号を遮る障害物がある。	障害物を取り除くか、操作する場所を移動する。	
	蛍光燈などの強い光がリモコン信号受光部に当たっている。	リモコン信号受光部に光が直接当たらないようにする。	
クロスオーバー周波数の設定ができない。	「スピーカーの設定」で小（S）に設定されているスピーカーがない。	「スピーカーの設定」でフロント、センター、サラウンド、サラウンドバックのいずれかのスピーカーを小（S）に設定する。	56ページ
表示が暗すぎたり、明るすぎたりする。	表示部の明るさ調整が適切でない。	表示部の明るさ調整（FL DIMMER）を行う。	48ページ
表示が操作時に点灯し、すぐに消える。	表示部の明るさがOFFになっている。	表示部の明るさ調整（FL DIMMER）を行う。	48ページ
設定が全てクリアされている	約1ヶ月以上、電源コードを抜いたままにしておいた。	左記の状態では、各設定はクリアされます。再度設定してください。	
CH SELECTボタンを押しても選択できないスピーカーがある	スピーカーの設定で「無し(＊)」に設定されている。	スピーカーの設定を正しく行ってください。	56～58ページ
	2ch再生のリスニングモードを選択している。	マルチチャンネル再生のリスニングモードを選択してください。	38～40ページ

メーカーコードリスト

MULTI CONTROLボタンのTV CONTには以下の表にある「TV」と「STB」のコードのみプリセットすることができます。また、「TV」と「STB」のコードはTV CONTとTV/SAT以外のMULTI CONTROLボタンにプリセットすることはできません。

DVD

メーカー	コード
TOSHIBA	1010
PANASONIC	1002
SONY	1009
JVC	1005
SAMSUNG	1008
RCA	1007
DENON	1004
PHILIPS	1006
YAMAHA	1011, 1012
PIONEER	1001, 1002, 1003

LD

メーカー	コード
SONY	2008
PHILIPS	2006, 2007
PANASONIC	2005
KENWOOD	2004
DENON	2003
YAMAHA	2009
PIONEER	2001, 2002

TV TV/SAT TV CONT

メーカー	コード
PIONEER	5001, 5002, 5003, 5004, 5005, 5006, 5007, 5008, 5009, 5010
ADMIRAL	5011, 5012, 5013
AIWA	5014, 5015
AKAI	5016
ALBA	5017
AOC	5018
BESTAR	5019
BLAUPUNKT	5020
BLUE SKY	5021
BRANDT	5022
BROCSONIC	5023
BUSH	5024
CLATRONIC	5025
CRAIG	5026, 5027, 5028, 5029
CROSLEX	5030
CURTIS MATHIS	5031, 5032, 5033
DAEWOO	5034, 5035, 5036, 5037, 5038, 5039
DAYTRON	5040
DUAL	5041
EMERSON	5042, 5043, 5044, 5045, 5046, 5047, 5048
FERGUSON	5049, 5050
FIRST	5051
FISHER	5052
FUJITSU	5053
FUNAI	5054, 5055, 5056
GE	5057, 5058, 5059, 5060
GOLDSTAR	5061, 5062, 5063, 5064
GOODMANS	5065, 5066
HITACHI	5067, 5068, 5069, 5070, 5071
ICE	5072
IRRADIO	5073
ITT/NOKIA	5074, 5075
JC PENNY	5076, 5077, 5078, 5079
JVC	5080, 5081
KENDO	5082
KTV	5083, 5084
LOEWE	5085
LXI	5086, 5087, 5088, 5089, 5090
MAGNAVOX	5091
MARK	5092
MATSUI	5093, 5094
MATSUSHITA	5095, 5096
MEDION	5097
MITSUBISHI	5098, 5099
MIVAR	5100
NEC	5101, 5102
NOKIA OCEANIC	5103
NORDMENDE	5104, 5105
OKANO	5106
ONWA	5107
PANASONIC	5108, 5109, 5110, 5111
PHILCO	5112, 5113, 5114
PHILLIPS	5004
PHONOLA	5115
PORTLAND	5116, 5117
PROSCAN	5118
QUASAR	5119, 5120
RADIO	5121, 5122
RADIO SHACK	5123, 5124, 5125
RADIOLA	5126
RCA/PROSCAN	5127, 5128, 5129
SABA	5130
SAMSUNG	5131, 5132
SANYO	5133, 5134, 5135
SCHNEIDER	5136
SCOTT	5137, 5138
SHARP	5139, 5140
SIEMENS	5141
SIGNATURE	5142, 5143
SONY	5144, 5145
SYLVANIA	5146, 5147
SYMPHONIC	5148
TATUNG	5149
TELEFUNKEN	5150, 5151
THORN	5152
TOSHIBA	5153, 5154
UNIVERSUM	5155
VIDECH	5156, 5157
W. WHOUSE	5158
WARDS	5159, 5160, 5161
WATSON	5162
ZENITH	5163, 5164

VCR (VTR)

メーカー	コード
PIONEER	3001, 3002, 3003, 3004, 3005
ADMIRAL	3006
AIWA	3007, 3008, 3009
AKAI	3010, 3011
ALBA	3012
AUDIO DYNAMIC	3013, 3014
BELL&HOWELL	3015
BLAUPUNKT	3016, 3017
BROCSONIC	3018, 3019
BUSH	3020
CANON	3021
CGM	3022, 3023
CITIZEN	3024
CLATRONIC	3025
CRAIG	3026
CURTIS MATHIS	3027, 3028, 3029
DAEWOO	3030, 3031, 3032
DBX	3033, 3034
DIMENSIA	3035
EMERSON	3036, 3037, 3038, 3039, 3040, 3041
FERGUSON	3042
FISHER	3043, 3044, 3045, 3046
FUNAI	3047, 3048
GE	3049, 3050, 3051
GOLDSTAR	3052
GOODMANS	3053, 3054
GRUNDIG	3055
HITACHI	3056, 3057, 3058, 3059, 3060
INSTANT REPLAY	3061, 3062
ITT/NOKIA	3063
JC PENNY	3064, 3065, 3066, 3067, 3068, 3069
JVC	3070, 3071, 3072
KENDO	3073
KENWOOD	3074, 3075, 3076
LOEWE	3077, 3078
LUXOR	3079
LXI	3080, 3081, 3082, 3083, 3084, 3085, 3086
MARANTZ	3087, 3088
MARTA	3089

MATSUI	3090
MEMOREX	3091, 3092
MINOLTA	3093, 3094
MITSUBISHI	3095, 3096, 3097, 3098, 3099
MULTITECH	3100, 3101, 3102
NEC	3103
NOKIA OCEANIC	3104
NOKIA	3105, 3106
NORDMENDE	3107
OKANO	3108
OLYMPIC	3109, 3110
ORION	3111
PANASONIC	3112, 3113, 3114, 3115, 3116, 3117
PENTAX	3118, 3119
PHILCO	3120, 3121
PHILIPS	3122
PHONOLA	3123
QUASAR	3124, 3125
RCA/PROSCAN	3126
REALISTIC	3127, 3128, 3129, 3130, 3131, 3132
SABA	3133
SAMSUNG	3134, 3135
SANSUI	3136
SANYO	3137, 3138
SCHNEIDER	3139, 3140
SCOTT	3141, 3142, 3143, 3144, 3145, 3146, 3147
SEG	3148
SELECO	3149
SHARP	3150, 3151, 3152
SIEMENS	3153, 3154, 3155
SIGNATURE	3156, 3157
SONY	3158, 3159, 3160, 3161, 3162, 3163
SYLVANIA	3164, 3165, 3166, 3167
SYMPHONIC	3168
TANDBERG	3169
TASHIRO	3170
TATUNG	3171, 3172
TEAC	3173, 3174, 3175
TECHNICS	3176, 3177
TELEFUNKEN	3178, 3179
THORN	3180, 3181
TOSHIBA	3182, 3183, 3184
UNIVERSUM	3185, 3186, 3187
W. WHOUSE	3188
WARDS	3189, 3190, 3191, 3192, 3193
YAMAHA	3194, 3195, 3196
ZENITH	3197

STB TV/SAT TV CONT (CATV、BS デジタルチューナー、BS デジタルチューナー内蔵テレビ)

メーカー	コード
PIONEER	6001, 6002, 6003, 6004, 6005, 6006
BELL	6049
BLAUPUNKT	6007
ECHOSTAR	6047
GENERAL INSTRUMENT	6008
GOLDSTAR	6009
GRUNDIG	6010, 6011
HAMLIN	6012, 6013
HNS/HUGHES	6014
HITACHI	6015
ITT/NOKIA	6016
JERROLD	6017, 6018, 6019 6020, 6021
NEC	6022, 6023
OAK	6024, 6025, 6026
PANASONIC	6027, 6028, 6029
PHILIPS	6030, 6031
PRIMESTAR	6048
RADIO SHACK	6032
RCA	6033
SAMSUNG	6034, 6035
SCIENTIFIC ATLANTA	6036, 6037, 6038
SIEMENS	6039, 6040
SONY	6041
STAR CHOICE	6048
TOSHIBA	6042, 6043
TOCOM	6044
ZENITH	6045, 6046

CD/CD-R

メーカー	コード
PIONEER	7001, 7002
DENON	7003, 7004, 7005, 7040, 7041
FISHER	7006, 7007
JVC	7008, 7009, 7010, 7011, 7042
KENWOOD	7012, 7013, 7014, 7015, 7016, 7043
MAGNAVOX	7017, 7018
MARANTZ	7019
ONKYO	7020, 7021
PANASONIC	7022, 7023
PHILIPS	7024, 7025, 7044
RCA	7026, 7027
SANYO	7028
SHARP	7029
SONY	7030, 7045
TEAC	7031, 7032, 7033
TECHNICS	7034, 7035
YAMAHA	7036, 7037, 7038, 7039

DVR

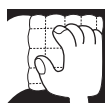
メーカー	コード
PIONEER	4001

MD

メーカー	コード
PIONEER	8001, 8002, 8003
DENON	8004
JVC	8005
KENWOOD	8006
SONY	8007
SHARP	8002
YAMAHA	8008, 8009

TAPE

メーカー	コード
PIONEER	9001, 9002
DENON	9003, 9004
FISHER	9005, 9006
JVC	9007, 9008
KENWOOD	9009, 9010, 9011
NAKAMICHI	9012
ONKYO	9013, 9014, 9015
PHILIPS	9016, 9017
SONY	9018, 9019
TEAC	9020, 9021
TECHNICS	9022
YAMAHA	9023, 9024, 9025, 9026

本機のリモコンは上記の表にあるメーカーの製品に対応しています。メーカーコードリストにあるメーカーのプリセットコードをすべて呼び出してもメーカーや製品によっては、操作できなかったり、違うはたらきをすることがあります。
その場合は7５ページをご覧になり、その操作のリモコンコードを直接リモコンに学習することができます。

お手入れについて

通常は柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。
アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると、印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は、化学ぞうきん等に添付の注意事項をよくお読みください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。
ステレオの音量は、貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか

・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
・電源コードにさけめやひび割れがある。
・電気が入ったり切れたりする。
・本体から異常な音、熱、臭いがする。

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または当社サービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。

製品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

● パイオニア・カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付　月曜〜金曜　9：30〜17：00、土曜　9：30〜12：00、13：00〜17：00（日曜・祝日・弊社休日は除く）

家庭用オーディオ／ビジュアル製品のご相談窓口　フリーフォン **0070-800-8181-22**

カタログのご請求窓口　フリーフォン **0070-800-8181-33**

ファックス　**03-3490-5718**

<ご注意>
フリーフォンは、PHS、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

パイオニアホームページでのご案内

お問い合わせ先のご案内　*http://www.pioneer.co.jp/support/*

カタログ請求とメールサービス登録のご案内　*http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg/index.html*

部品のご購入についてのご相談窓口

付属品（リモコン・取扱説明書など）のご購入や、補修用性能部品（修理使用部品）に関するご相談についてはパイオニア部品受注センターにご相談ください。部品の交換方法などの技術相談につきましては下記のパイオニア修理受付センターにご相談ください。

● パイオニア部品受注センター

受付　月曜〜金曜　9：30〜18：00、土曜　9：30〜12：00、13：00〜17：00（日曜・祝日・弊社休日は除く）

電話（フリーダイアル）：**0120-5-81095**
一般電話：**0538-43-1161**
ファックス（フリーダイアル）：**0120-5-81096**

<ご注意>
フリーダイアルは、携帯電話、PHSではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

修理のご依頼／修理についてのご相談窓口

修理を依頼される前に取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。それでも異常のある時は、必ず電源プラグを抜いてから、ご購入店へご連絡ください。
ご購入店がわからないときやお近くにないときは、パイオニア修理受付センターへご相談ください。（沖縄県を除く）

● パイオニア修理受付センター（沖縄県を除く全国）

受付　月曜〜金曜　9：30〜20：00、土曜　9：30〜12：00、13：00〜18：00（弊社休日は除く）
日曜・祝日　9：30〜12：00、13：00〜18：00（プラズマディスプレイのみ受付）

電話（フリーダイアル）：**0120-5-81028**（ゴーパイオニア）
一般電話：**03-5496-2023**
ファックス（フリーダイアル）：**0120-5-81029**

<ご注意>
フリーダイアルは、携帯電話、PHSではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

● 沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付　月曜〜金曜　9：30〜18：00（土曜・日曜・祝日・弊社休日は除く）

一般電話：**098-879-1910**
ファックス：**098-879-1352**

高調波ガイドライン適合品

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<03G000001>
<XRA3008-B>